

道路施設基本データ作成要領（案）

（Ver 3.04）

平成26年3月

国土交通省 中国地方整備局

改訂履歴

①平成24年3月 Ver 3.00 に改定

道路施設基本データの作成に関する運用方法の変更に伴い、従来の「道路施設基本データ作成要領（案）平成20年11月」「道路施設基本データ作成の手引き（Ver 2）平成20年11月」を見直し、統合版として改定した。

【改定内容】

No	改定事項	改定内容	対象箇所
1	道路施設基本データ作成運用方法の変更	①道路施設基本データ審査機関の不在に関連してデータ作成手順を改定し、道路施設基本データ審査機関との協議部分を削除した。また、それに関連する帳票類を削除した。	P6
		②道路施設基本データ作成の事前準備として、業務初回協議において、道路施設基本データ作成施設の確認実施を追加した。	P6、P7、P11
		③道路施設基本データ作成結果について、完成検査前に、監督職員にデータ内容について審査を受け、承認結果であるチェックシートを受領し電子納品成果と共に提出することとした。	P6、P8、P52 付録資料2
2	道路施設基本データ作成に関する留意事項の追加	①道路施設基本データの作成時及びデータチェック時の留意事項を「付録資料1：道路施設基本データ作成に関する留意事項（案）」として、新たに取りまとめた。	付録資料1

※道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（中国地方整備局版 平成20年10月）は従来のものから変更無し

①平成24年8月 Ver 3.01 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容	対象箇所
1	電子成果品の提出方法について	①電子成果品は、「工事完成図書」と「道路施設基本データ」を取りまとめた電子媒体を2部作成して監督職員へ提出することとした。	P8、P35
2	「道路施設基本データ審査時におけるチェックシート」のファイル名について	②「道路施設基本データ審査時におけるチェックシート」のファイル名を、“check_st.PDF”に変更した。	P52 付録資料1 P10

①平成24年10月 Ver 3.02 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容	対象箇所
1	道路施設基本データ関連資料等の取得について	①道路施設基本データ作成に必要な関連資料に「道路施設基本データ作成システム」及び「記入シート」を追加した。	P7、P9

①平成25年3月 Ver 3.03 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容	対象箇所
1	作成対象となる道路施設について	①「C050 舗装」は、作成対象外とする。 ②「E260 距離標」は、作成対象とする。	P5、P11、P18、 P21、P26 付録資料1 P3、 P9 付録資料2
2	道路施設基本データ作成における施設対応番号について	①「道路工事完成図等作成要領（第2版）平成20年12月」に内容に準拠するよう修正した。	P12、P13 付録資料1 P7 付録資料2
3	電子納品媒体の作成について	①電子納品媒体の作成について「工事完成図書の電子納品要領（平成22年9月）」に準拠するよう修正した。	P36～P39、 P44、P50 付録資料1 P10

①平成26年3月 Ver 3.04 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容	対象箇所
1	道路施設基本データ作成の有無について	① 機関への移管が確定している場合等、データの作成が不要な場合があるため、道路施設基本データの作成有無は監督職員に確認する。	P3
2	道路施設基本データを作成する施設の確認について	① 路施設基本データ作成対象施設抽出システム（試行）から出力される道路施設基本データ作成対象施設一覧表を参考にして、該当施設について受発注者間で協議する。	P6、P7、P12、 付録資料1 P2、 付録資料1 P3
3	道路施設基本データ作成の審査時におけるチェックシートについて	①チェックシートは監督職員が道路部道路管理課のイントラネットから出力する。	P6、P52、 付録資料1 P2
4	道路施設基本データ審査時におけるチェックシート	①空のチェックシート様式を添付した。	付録資料2 P3, 4

目 次

1. 目的	1
2. 道路施設基本データの概要	2
2.1. 概要	2
2.2. 作成データ	3
2.3. 作成対象となる道路施設.....	5
3. 道路施設基本データ作成の手順	6
4. 道路施設基本データ作成内容	10
4.1. 道路施設基本データ関連資料等の取得.....	10
4.2. 道路施設基本データの作成施設の確認.....	12
4.3. 道路施設基本データ位置図の作成.....	13
4.4. 道路施設基本データ総括表、道路施設基本データ一覧表、道路施設基本データ詳細表の作成.....	15
4.5. 数値・文字データ（道路施設基本データ詳細情報）の作成.....	18
4.6. 図面及び現況写真（イメージデータ）の作成	27
4.7. 電子納品媒体フォルダへの格納	36
4.8. 道路施設基本データ関連のファイル仕様.....	39
4.9. 道路施設基本データのチェック	51
4.10. 道路施設基本データの審査及び審査結果の電子媒体への格納.....	52
5. 問い合わせ	53

付録資料 1 : 道路施設基本データ作成に関する留意事項（案）

付録資料 2 : 道路施設基本データ審査時におけるチェックシート

1. 目的

「道路管理データベースシステム」は、道路施設に関する情報の一元化及び共有化、また、道路管理の効率化・高度化を図ることにより、災害時あるいは多様化する道路行政への要望等に迅速かつ適切な対応を図ることを目的としている。

本要領（案）は、上記の道路管理データベースの基となるデータとして、受注者が電子納品する「道路施設基本データ」の作成方法等を示したものである。道路施設基本データの作成に関する運用方法の変更に伴い、従来の「道路施設基本データ作成要領（案）平成 20 年 11 月」・「道路施設基本データ作成の手引き（Ver 2）平成 20 年 11 月」を見直し、統合版として改定した。

2. 道路施設基本データの概要

2.1. 概要

道路施設基本データは、道路管理データベースシステムへ登録する基となるデータである。受注者が、工事に関連する道路施設の諸元や補修内容を道路施設基本データという形式で作成し、電子納品することが「道路工事完成図等作成要領（国土交通省 国土技術政策総合研究所 発行）」に定義されている。

本資料では、道路施設基本データの電子納品について、対象施設、データの作成方法、ファイル形式、格納するフォルダ形式、チェック方法までを解説する。



図 1 本資料の対象範囲

2.2. 作成データ

改築（新設、改良）や維持修繕などの工事に関連する道路施設について、以下に示すデータを道路施設基本データとして作成する。

- (1) 道路施設基本データ詳細情報（拡張子.csv）
- (2) イメージデータ（道路施設の平面図、標準断面図等：拡張子.jpg または.p21）
- (3) イメージデータ（現況写真：拡張子.jpg）
- (4) 道路施設基本データ位置図（拡張子.pdf）

道路施設形状に変更を加えない工事についてはイメージデータを作成する必要はない。

道路施設基本データ詳細情報は、工事に関連する道路施設の諸元情報等を、文字・数値で作成するものである。

イメージデータは、現況写真及び道路施設の図面（平面図、標準断面図等）を対象とする。なお、補修補強工事や維持工事など、道路施設の図面に変更が生じない工事については道路施設の図面を作成する必要はない。また、現況写真についても、道路施設形状に変更を加えない工事については作成する必要はない。

道路施設基本データ位置図は、道路施設毎に作成した道路施設基本データについて、新設、撤去などの工事区分やその施設位置等を確認するために作成するものである。

道路施設基本データは、工事に関連する各施設について、その工事の区分を①新設、②改良、③撤去の3区分とする。工事区分に合わせて以下の方法で各施設のデータを作成する。

表1 道路施設基本データ各施設の工事区分とデータ作成方法

工事区分	データ作成方法
施設を「新設」する場合	工事区分を「新設」とし、すべてのデータ項目について作成する。
施設を「改良」する場合	工事区分を「改良」とし、すべてのデータ項目について作成する。
施設を「撤去」する場合	工事区分を「撤去」とし、道路施設基本データ位置図に施設の撤去箇所等を記載する。イメージデータを作成する必要はない。
施設を「移設」する場合	上記「撤去」と「新設」両方のデータを作成する。

※バイパス整備などにより、旧道部分を他機関（県・市など）に移管する場合や、道路施設の一部を他機関が管理する事が確定している場合については、道路施設基本データ作成不要な場合があるため、データ作成の有無について、監督職員に確認すること。（ここでいう確定とは移管日も含めて具体的内容が決定していることをいう。）

ただし、将来の管理者が未確定の場合は、道路施設基本データを作成すること。

橋梁施設を事例にして、4種類の情報から成る道路施設基本データの構成を以下に示す。

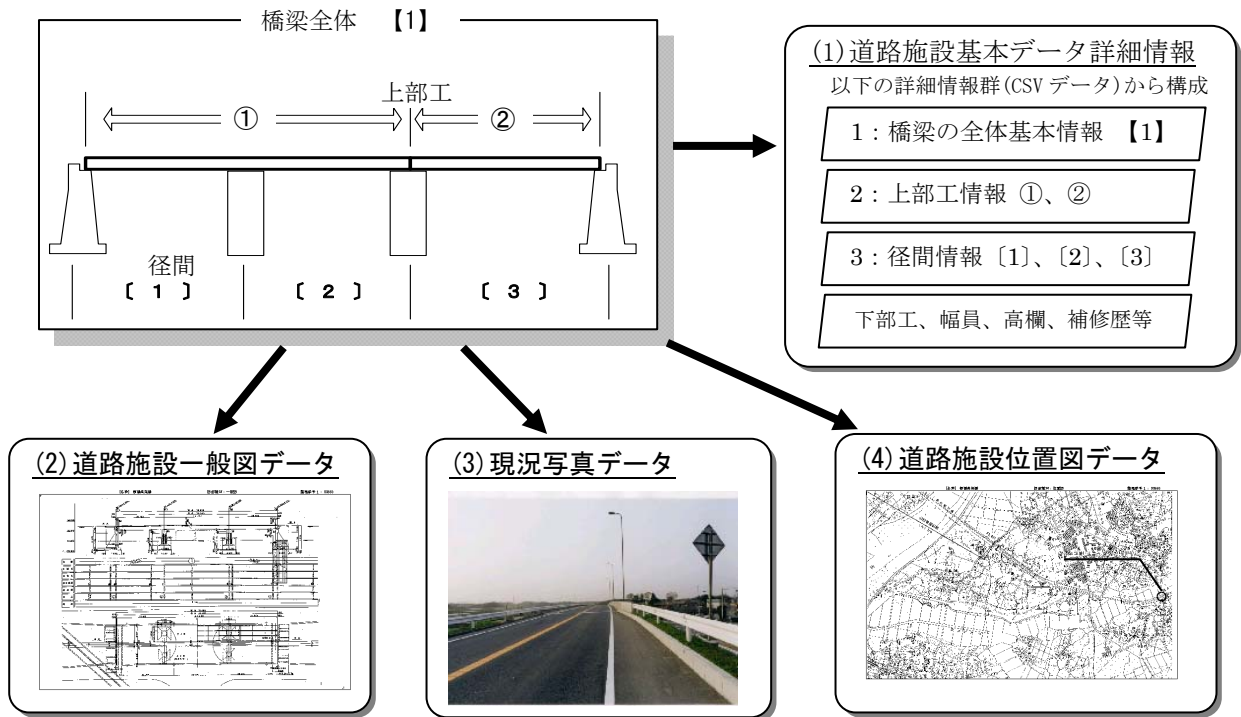


図2 道路施設基本データの構成

2.3. 作成対象となる道路施設

道路施設基本データは、工事において新設または改良、撤去した施設の内、下表に示す直轄道路施設を対象として作成する。工事が影響する施設をよく確認し、データ作成対象施設を選出する必要がある。

表2 道路施設一覧表

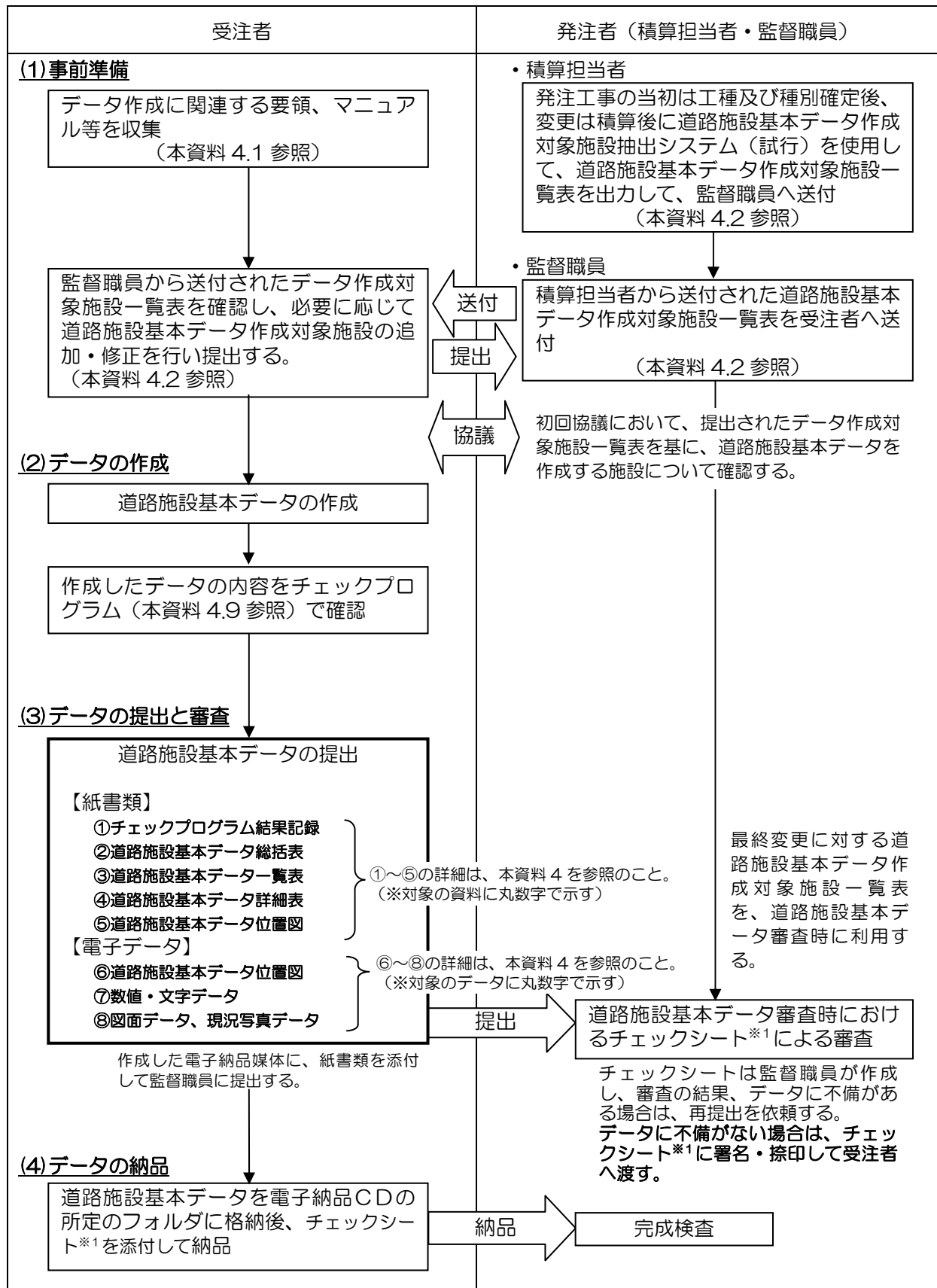
区分	施設番号	施設名	区分	施設番号	施設名
道路構造	C020	縦断勾配	付属物及び付帯施設	E060	道路情報板
	C021	パーチカルカーブ		E070	交通遮断機
	C030	平面線形		E080	I. T. V
	C060	道路交差点		E090	車両感知器
	C070	鉄道交差点		E100	車両諸元計測施設
	C080	歩道及び自転車歩行者道		E110	気象観測施設
	C090	独立専用自歩道		E120	災害予知装置
	C100	中央帯		E130	自動車駐車場等
	C110	環境施設帯		E140	自転車駐車場
構造物	D010	橋梁		E150	雪崩防止施設
	D020	橋側歩道橋		E160	落石防止施設
	D030	横断歩道橋		E170	消雪パイプ
	D040	トンネル		E180	ロードヒーティング
	D050	洞門		E190	除雪ステーション
	D060	スノーシェッド		E200	防災備蓄
	D070	地下横断歩道		E210	共同溝
	D080	道路BOX等		E220	CAB電線共同溝
	D090	横断BOX等		E230	植栽
	D100	パイプカルバート		E240	遮音施設
	D110	のり面		E250	遮光フェンス
	D120	擁壁		E260	距離標
	E010	防護柵		E270	流雪溝
	E020	道路照明		E330	光ケーブル施設
	E030	視線誘導標(反射式)		E334	光ケーブル施設端局
	E040	視線誘導標(自光式)		E350	ビーコン
	E050	道路標識			

※「C050 舗装」については、「舗装工事データ作成要領」に基づいて、別途作成する。

3. 道路施設基本データ作成の手順

道路施設基本データの作成における作業フローを以下に示す。

表3 道路施設基本データの作成フロー



※1：チェックシートは、付録資料2を参照のこと。

(1) 事前準備

1) 道路施設基本データ関連資料等の取得

工事を受注後、道路施設基本データ作成に必要な関連資料とチェックプログラムを、下記ダウンロードサイトより取得する。(本資料 4.1 参照)

- ・ 中国地方整備局ダウンロードサイト

- ・ 道路施設基本データ作成要領(案)(本資料)
- ・ 道路施設基本データ作成入力書式マニュアル
- ・ 道路施設基本データ作成システム(インストーラ)
- ・ 道路施設基本データ作成システム(利用マニュアル)
- ・ 記入シート(国総研HP 道路工事完成図等作成支援サイト)

- ・ 道路工事完成図等作成支援サイト

- ・ 道路工事完成図等チェックプログラム

2) 道路施設基本データの作成施設の確認

監督職員から送付される道路施設基本データ作成対象施設一覧表は、データ作成の対象と考えられる施設を抽出した資料であり、過不足がある可能性がある。従って、受領した道路施設基本データ作成対象施設一覧表と工事数量総括表を比較確認して、過不足がある場合は一覧表を修正して監督職員へ提出する。

初回協議及び変更契約時において、この一覧表を基に工事範囲で道路施設基本データ作成に該当する施設についての協議を行う。(本資料 4.2 参照)

(2) データの作成

1) 道路施設基本データ位置図作成

道路台帳附図、路線図等を基に、工事に関連するデータを作成した施設の位置(特に延長方向)が明確に判別できる情報を明記した、道路施設基本データ位置図を作成する。(本資料 4.2 参照)

2) 道路施設基本データの作成

<作成する道路施設基本データ>

[紙書類]

- ・ 道路施設基本データ総括表 (本資料 4.4 参照)
- ・ 道路施設基本データ一覧表 (本資料 4.4 参照)
- ・ 道路施設基本データ詳細表 (本資料 4.5 参照)

[電子データ]

- ・ 数値・文字データ(道路施設基本データ詳細情報)(CSVファイル) (本資料 4.5 参照)
- ・ 図面データ(JPGファイル、SXF(P21ファイル)代用可) (本資料 4.6 参照)
- ・ 現況写真(JPGファイル) (本資料 4.6 参照)

作成した道路施設基本データ位置図にて、施工した道路施設を確認し、「道路工事完成図等作成要領」及び「本資料 4.5 数値・文字データ（道路施設基本データ詳細情報）の作成」に基づき、対象道路施設の数値・文字データを作成する。

また、図面及び現況写真は、「本資料 4.6 図面及び現況写真（イメージデータ）の作成」に記載されている内容に基づいて作成する。

作成した道路施設基本データは、「道路工事完成図等作成要領」に準拠したフォルダ構造、ファイル構成、管理ファイルにより格納する。（本資料 4.7、4.8 参照）

⇒データ作成時の留意事項は、付録資料1:道路施設基本データ作成に関する留意事項(案) 2-2 参照)

3) データのチェック

道路施設基本データを作成後、「道路工事完成図等チェックプログラム」によるチェックと目視等によるチェックを行い、データの不備を無くした後、チェックプログラム結果記録を出力する。（本資料 4.9 参照）

⇒データチェック時の留意事項は、付録資料1:道路施設基本データ作成に関する留意事項(案) 3 参照)

(3) データの提出と審査

道路施設基本データのチェック完了後、下記に示す道路施設基本データを取りまとめ、完成検査前に監督職員に提出しデータ内容の審査を受ける。（本資料 4.10 参照）

〔紙書類〕

- ①チェックプログラム結果記録
- ②道路施設基本データ総括表
- ③道路施設基本データ一覧表
- ④道路施設基本データ詳細表
- ⑤道路施設基本データ位置図

〔電子データ〕

- ⑥道路施設基本データ位置図（PDF ファイル）
- ⑦数値・文字データ（CSV ファイル）
- ⑧図面データ、現況写真データ（JPG ファイル）

審査の結果、データに不備がある場合は、不備を修正し再提出する。

データに不備がない場合は、監督職員から署名・捺印されたチェックシートを受領する。

(4) データの納品

審査合格した道路施設基本データを、「道路工事完成図等作成要領」に則って電子成果品に格納し、「工事完成図書」と「道路施設基本データ」を取りまとめた電子媒体としたうえで、2部作成して監督職員へ提出する。（本資料 4.7 参照）

また、審査結果チェックシートも併せて監督職員へ提出する。（本資料 4.10 参照）

※道路施設基本データ作成時に疑問点等が生じた場合は、監督職員に F A X、E-mail にて質問を行い、回答を得るものとする。なお、質疑の際は、「問い合わせ・Q&A（記入用紙）」（本資料 4.11 参照）を使用する。

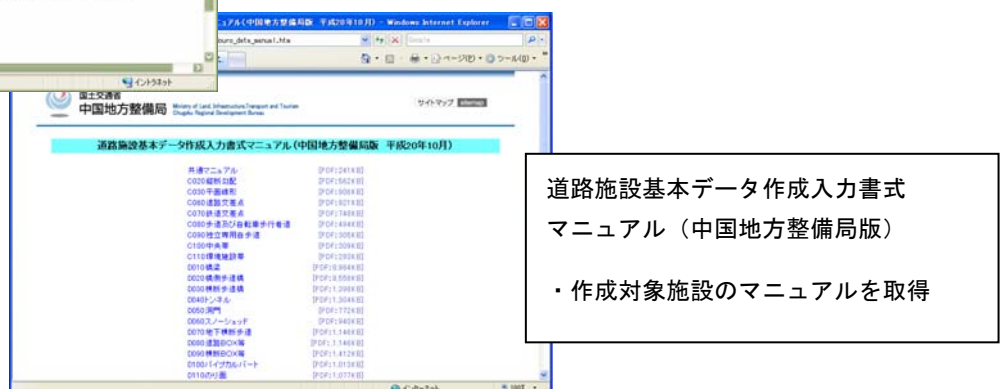
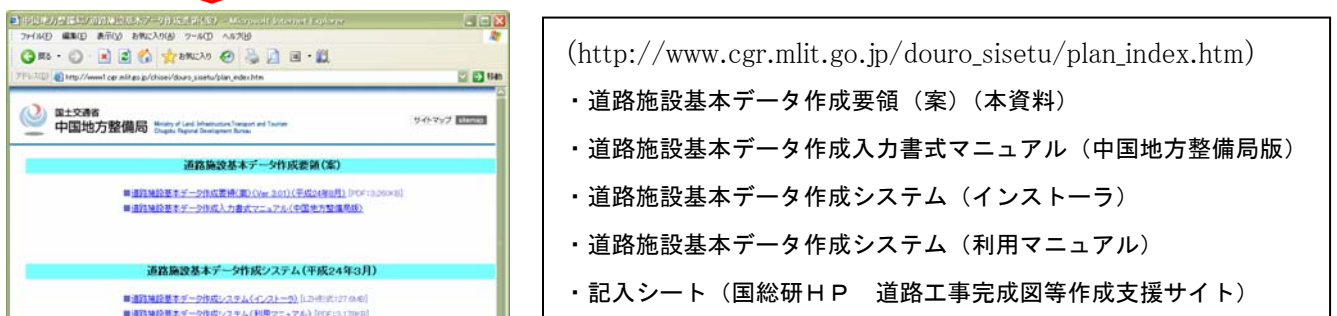
4. 道路施設基本データ作成内容

4.1. 道路施設基本データ関連資料等の取得

(1) 道路施設基本データ関連資料の取得の流れ

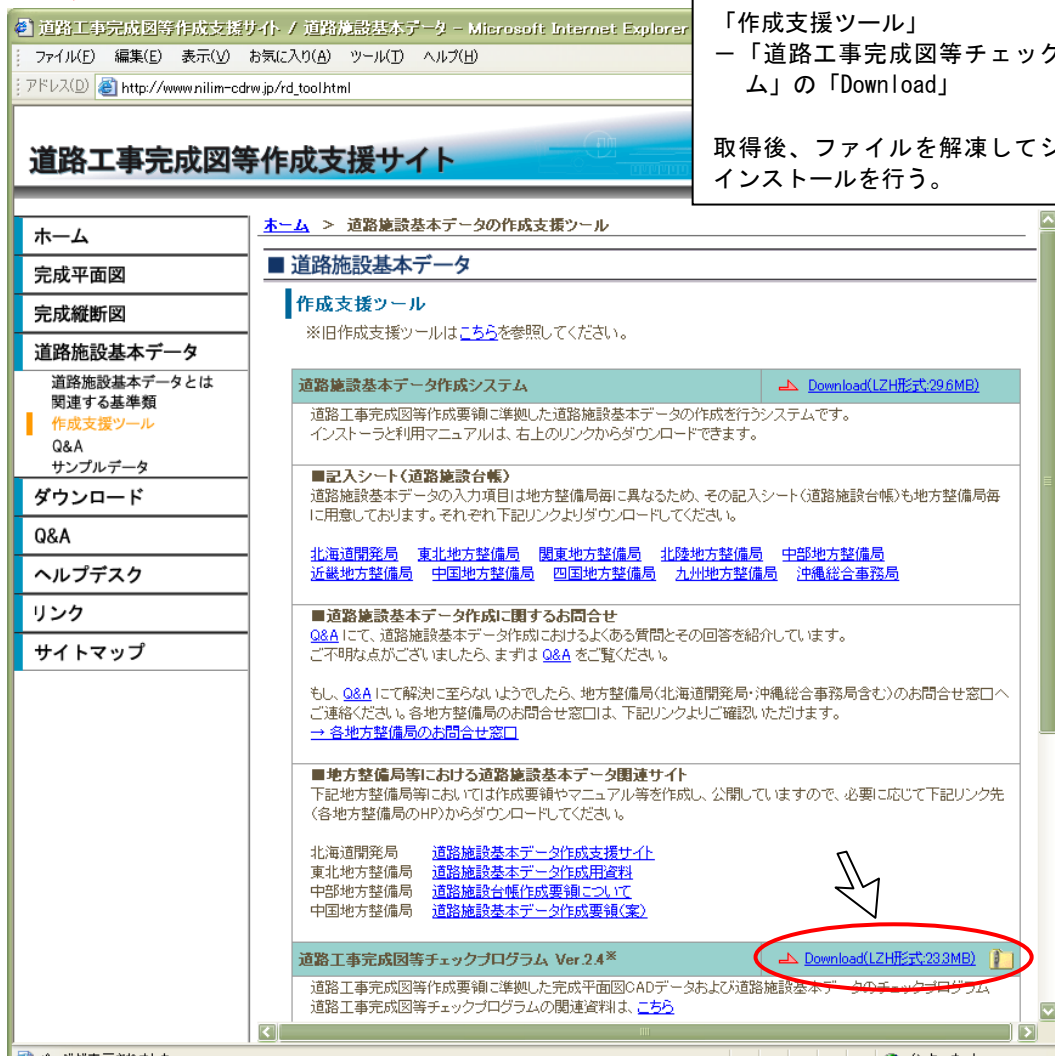
道路施設基本データを作成する為に必要な下記資料を、国土交通省 中国地方整備局 道路施設基本データ作成要領のダウンロードサイト (http://www.cgr.mlit.go.jp/douro_sisetu/plan_index.htm) から取得する。

- 道路施設基本データ作成要領（案）（本資料）
- 道路施設基本データ作成入力書式マニュアル（中国地方整備局版）
- 道路施設基本データ作成システム（インストーラ）
- 道路施設基本データ作成システム（利用マニュアル）
- 記入シート（国総研HP 道路工事完成図等作成支援サイト）



(2) 道路工事完成図等チェックプログラムの取得の流れ

チェックプログラムは、国土交通省 国土技術政策総合研究所の「道路工事完成図等作成支援サイト」(http://www.nilim-cdrw.jp/) から「道路工事完成図等チェックプログラム」の「DownLoad」にてチェックプログラムを取得する。



4.2. 道路施設基本データの作成施設の確認

監督職員から送付された道路施設基本データ作成対象施設一覧表の作成対象欄に「○」が付いている施設は、道路施設基本データ作成が必要な可能性がある施設である。

作成対象欄について、次の事項を確認して必要に応じて追記・修正を行った上で、監督職員へ提出する。

- ・「○」の付いている施設が、受注工事で該当しない場合は、「○」を見え消しする。
- ・「○」が付いていない施設で、受注工事で該当する場合は、当該欄に「○」を追記する。

初回協議時及び変更契約時に、上記の道路施設基本データ作成対象施設一覧表を参考に、受発注者間でデータ作成の対象施設であることまたは対象施設の記述漏れが無いことを相互確認する。

【例】道路施設基本データ作成対象施設一覧表

対象工事	
事務所	山口河川国道事務所
設計書番号	14876015010009
工事名	●●●●●●●●工事
変更回数	0
工期（自）	平成25年4月1日
工期（至）	平成26年3月31日
道路施設基本データ	作成対象
C020 縦断勾配	
C021 バーチカルカーブ	
C030 平面線形	
C060 道路交差点	
C070 鉄道交差点	
C080 歩道及び自転車歩行者道	
C090 独立専用自歩道	
C100 中央帯	
C110 環境施設帯	
D010 橋梁	
D020 橋側歩道橋	
D030 横断歩道橋	
D040 トンネル	
D050 洞門	
D060 スノーシェッド	
D070 地下横断歩道	
D080 道路B〇X等	
D090 横断B〇X等	
D100 パイプカルバート	
D110 のり面	
D120 擁壁	
E010 防護柵	
E020 道路照明	○
E030 視線誘導標（反射式）	
E040 視線誘導標（自光式）	
E050 道路標識	○
E060 道路情報板	
E070 交通遮断機	

4.3. 道路施設基本データ位置図の作成

道路施設基本データ位置図は、作成された道路施設基本データの位置確認及びイメージデータ（図面、現況写真）との対比を行うために作成するもので、道路台帳附図、路線図等を基に、工事に関連するデータを作成した施設の位置（特に延長方向）が明確に判別できる下記情報を明記したものとする。

- ・ 距離標（百米標）又は、測点の位置
- ・ 工事区分（新設、改良、撤去のいずれか）
- ・ 図面縮尺（スケール） 等

なお、道路施設基本データ位置図は、PDF 形式に変換し電子データとするとともに、データ審査時に使用するため紙書類として出力する。

道路施設基本データ位置図には、下記情報をタイトルとして明記する。

- ・ 当該年度
- ・ 工事名
- ・ 工事番号
- ・ 道路施設基本データ位置図番号（当該工事内でユニークになる番号を付番する）

位置図番号は I で始まり 3 桁の番号から構成される。

作成例：I 001

(I：固定) (作成する位置図ファイル分の連番)

道路施設基本データを作成した施設の位置を明記する。また、その位置に対して、施設を認識するための下記情報を旗揚げ表示で記載する。

- ・ 道路施設名称
- ・ 施設対応番号

施設対応番号とは、当該施設の道路施設基本データ詳細情報と道路施設基本データ位置図に旗揚げされている当該施設との整合を図るものとして、位置図番号+ハイフン「-」付 3 桁の番号から構成される。

作成例：I 001 + -001

(位置図番号) (位置図に記載する施設数分の連番)

- ・ 距離標（百米標又は測点）及び距離標からの距離（m）

◆注意事項

新直轄路線のランプ区間にある施設の場合、施設対応番号の後ろにランプを識別するための識別情報を付ける必要がある。詳細については、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」の「共通マニュアル」を参照のこと。

道路施設基本データ位置図の作成事例を、次頁に示す。

道路施設基本データ位置図

位置図番号: I001

工事番号: △△△

工事名: ××××××××

○○○○年度

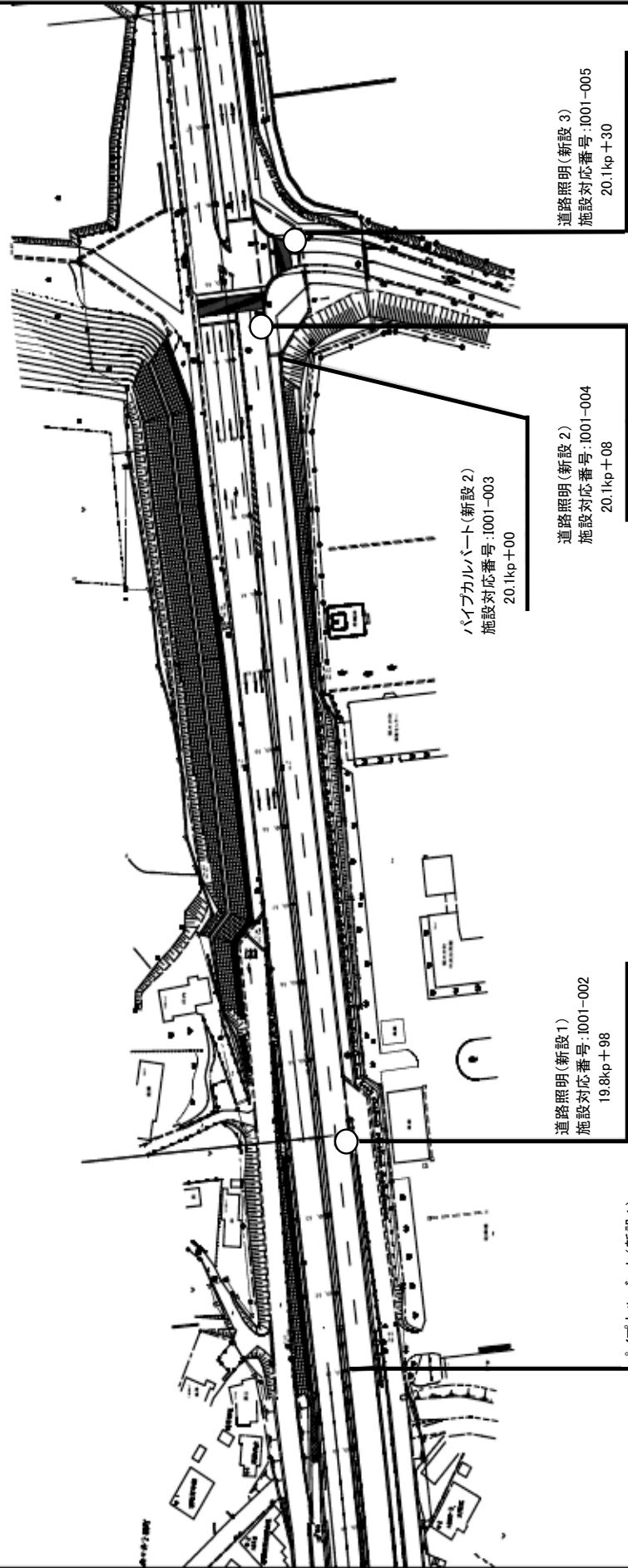


図3 道路施設基本データ位置図 事例

4.4. 道路施設基本データ総括表、道路施設基本データ一覧表、道路施設基本データ詳細表の作成

(1) 道路施設基本データ総括表

道路施設基本データ総括表は工事の諸データ及び道路施設基本データの内訳を工種名ごとに施設数で表したものである。

道路施設総括表					
工事年度	2006	年度			
工事件名	国道2号〇〇〇改良工事				
発注者名	国土交通省△△河川国道事務所	工事番号	06879999019999		
工 事	会社名	×××建設会社(株)			
請負者	責任者名	□□ □□	TEL.	9999-99-9999	
作成施設情報内訳					備 考
施 設 名	施 設 数				
	新設	改良	撤去	計	
歩道及び自転車歩行者道	1			1	
橋梁	1			1	
橋梁(幅員構成)	1			1	
橋梁(上部工)	1			1	
トンネル		1		1	
防護柵			1	1	
道路標識	1			1	
道路標識(標識板)	1			1	

(3) 道路施設基本データ詳細情報表【〇〇〇（道路施設名）詳細表】

作成した道路施設基本データを詳細情報名ごとに表したものである。作成するデータ項目は施設（工種）により異なる。

歩道及び自転車歩行者道詳細表			
2006年度 工事名：国道2号〇〇改良工事		工事番号：06879999019999	
NO	項目名	入力欄	単位
1	工事番号	06879999019999	
2	工事区分	1 新設	
3	附図対応番号	I002-001	
4	路線番号	0002	
5	現旧区分	1 現道	
6	市区町村	34101 広島県広島市中区	
7	沿道状況区分	1 市街地	
8	歩道等種別	1 歩道	
9	形式	11 マウントアップ	
10	百米標又は測点(自)	362.1	k m
11	百米標又は測点(自)からの距離	0	m
12	百米標又は測点(至)	362.1	k m
13	百米標又は測点(至)からの距離	25	m
14	上り下り区分	1 上り線	
15	設置区分	11 一般部	
16	歩道等延長	150	m
17	総幅員	5.1	m
18	有効幅員	3.7	m
19	総幅員4M以上延長	150	m
20	総幅員3M以上延長		m
21	総幅員2M以上延長		m
22	総幅員1M50以上延長		m
23	総幅員1M以上延長	作成するデータ項目は施設(工種)により異なる。	
24	総幅員1M未満延長		
25	列状部植樹施設延長		
26	帯状部植樹施設延長		25
27	交差点部切下げ箇所数	5	
28	その他切下げ箇所数	3	
29	点字ブロック枚数	30	
30	点字ブロック箇所数	3	
31	点字ブロックのべ延長	50	m
32	屋根箇所数	0	
33	屋根延長	0	m
34	屋根占用別	1 占用	
35	舗装済延長	150	m
36	未舗装延長	0	m
37	カラー舗装有無	0 無し	

4.5. 数値・文字データ（道路施設基本データ詳細情報）の作成

(1) 数値・文字データの作成対象施設

数値・文字データの作成対象施設は、次頁に示す表4「道路施設基本データの作成対象となる道路施設詳細表」に記載する道路施設とする。

※道路施設基本データの作成対象施設は、“全国共通工種”（以下、「全国版」）と整備局独自整備工種を加えた“中国地方整備局工種”（以下、「中国版」）があることに注意する。

作成工種は、「親」－「子」－「孫」の関係となっており、「子」の道路施設基本データを作成する場合には、「親」のデータも作成すること。同様に、「孫」の道路施設基本データを作成する場合には、「親」－「子」のデータも作成する。

※（例）橋梁径間（孫）データを作成する場合→橋梁（親）、上部工（子）のデータも作成する。

表4 道路施設基本データの作成対象となる道路施設詳細表(1/2)

区分	施設番号	施設名	詳細情報番号	詳細情報名	分類			全国共通整備情報	中国地整備情報
					親	子	孫		
道路構造	C020	縦断勾配	C020	縦断勾配	○			○	○
			C021	パーチカルカーブ	○			—	○
	C030	平面線形	C030	平面線形基本	○			○	○
			C031	平面線形折曲り箇所	○			—	○
	C060	道路交差点	C060	道路交差点本線	○			○	○
			C061	道路交差点従道路	○			—	○
	C070	鉄道交差点	C070	鉄道交差点基本	○			○	○
			C071	鉄道交差点鉄道事業者		○		○	○
	C080	歩道及び自転車歩行者	C080	歩道自歩道	○			○	○
	C090	独立専用自歩道	C090	独立専用自歩道	○			○	○
	C100	中央帯	C100	中央帯	○			○	○
C110	環境施設帯	C110	環境施設帯	○			○	○	
構造物	D010	橋梁	D010	橋梁基本	○			○	○
			D011	橋梁幅員構成		○		○	○
			D012	橋梁高欄防護柵		○		○	○
			D013	橋梁交差状況		○		○	○
			D014	橋梁添架物		○		○	○
			D015	橋梁上部工		○		○	○
			D017	橋梁径間			○	○	○
			D016	橋梁下部工		○		○	○
			D019	橋梁塗装歴		○		○	○
			D01A	橋梁補修歴		○		○	○
	D01D	橋梁点検補修		○		○	○		
	D020	橋側歩道橋	D020	橋側歩道橋基本	○			○	○
			D021	橋側歩道橋幅員構成		○		○	○
			D022	橋側歩道橋高欄防護柵		○		○	○
			D023	橋側歩道橋交差状況		○		—	○
			D024	橋側歩道橋添架物		○		○	○
			D025	橋側歩道橋上部工		○		○	○
			D027	橋側歩道橋径間			○	○	○
			D026	橋側歩道橋下部工		○		○	○
			D029	橋側歩道橋塗装歴		○		○	○
			D02A	橋側歩道橋補修歴		○		○	○
	D02D	橋側歩道橋点検補修		○		○	○		
	D030	横断歩道橋	D030	横断歩道橋基本	○			○	○
			D032	横断歩道橋塗装歴		○		○	○
			D033	横断歩道橋補修歴		○		—	○
	D040	トンネル	D040	トンネル基本	○			○	○
			D042	トンネル補修歴		○		—	○
			D043	トンネル占用物		○		—	○
	D050	洞門	D050	洞門基本	○			○	○
			D052	洞門補修歴		○		—	○
			D053	洞門占用物		○		—	○
	D060	スノーシェッド	D060	スノーシェッド基本	○			○	○
			D062	スノーシェッド補修歴		○		—	○
			D063	スノーシェッド占用物		○		—	○
	D070	地下横断歩道	D070	地下横断歩道基本	○			○	○
			D072	地下横断歩道補修歴		○		—	○
			D073	地下横断歩道占用物		○		—	○
	D080	道路BOX	D080	道路BOX基本	○			○	○
			D082	道路BOX補修歴		○		—	○
			D083	道路BOX占用物		○		—	○
	D090	横断BOX	D090	横断BOX基本	○			○	○
			D092	横断BOX補修歴		○		—	○
D093			横断BOX占用物		○		—	○	
D100	パイプカルバート	D100	パイプカルバート基本	○			○	○	
		D102	パイプカルバート補修歴		○		—	○	
D110	のり面	D110	のり面基本	○			—	○	
		D117	のり面補修改築歴		○		—	○	
D120	擁壁	D120	擁壁基本	○			○	○	
		D122	擁壁補修歴		○		—	○	

表4 道路施設基本データの作成対象となる道路施設詳細表(2/2)

区分	施設番号	施設名	詳細情報番号	詳細情報名	分類			全国共通整備情報	中国地整備情報
					親	子	孫		
付属物及び付帯施設	E010	防護柵	E010	防護柵基本	○			○	○
	E020	照明	E020	照明基本	○			○	○
			E022	照明補修歴		○		-	○
	E030	反射式視線誘導標	E030	反射式視線誘導	○			○	○
	E040	自光式視線誘導標	E040	自光式視線誘導基本	○			○	○
	E050	道路標識	E050	標識基本	○			○	○
			E051	標識各板諸元		○		○	○
			E053	標識補修歴		○		-	○
	E060	道路情報板	E060	情報板基本	○			○	○
			E062	情報板補修歴		○		-	○
	E070	交通遮断機	E070	交通遮断機基本	○			○	○
			E072	交通遮断機補修歴		○		-	○
	E080	ITV	E080	ITV基本	○			○	○
			E082	ITV補修歴		○		-	○
	E090	車両感知器	E090	車両感知器基本	○			○	○
			E092	車両感知器補修歴		○		-	○
	E100	車両諸元計測施設	E100	車両計測基本	○			○	○
			E101	車両計測設備		○		-	○
			E103	車両計測補修歴		○		-	○
	E110	気象観測施設	E110	気象観測基本	○			○	○
			E112	気象観測補修歴		○		-	○
	E120	災害予知装置	E120	災害予知装置基本	○			○	○
	E130	自動車駐車場	E130	自動車駐車場基本	○			○	○
			E132	自動車駐車場補修歴		○		-	○
	E140	自転車駐車場	E140	自転車駐車場基本	○			○	○
	E150	雪崩防止施設	E150	雪崩防止基本	○			○	○
			E152	雪崩防止補修歴		○		-	○
	E160	落石防止施設	E160	落石防止基本	○			○	○
			E162	落石防止補修歴		○		-	○
	E170	消雪パイプ	E170	消雪パイプ基本	○			○	○
			E172	消雪パイプ補修歴		○		-	○
	E180	ロードヒーティング	E180	ロードヒーティング基本	○			○	○
			E182	ロードヒーティング補修歴		○		-	○
	E190	除雪ステーション	E190	除雪ST基本	○			○	○
			E191	除雪ST設備		○		-	○
E200	防災備蓄倉庫	E200	防災備蓄基本	○			-	○	
E210	共同溝	E210	共同溝基本	○			○	○	
		E211	共同溝占用物		○		○	○	
		E213	共同溝補修歴		○		-	○	
E220	CAB電線共同溝	E220	CAB電線共同溝基本	○			○	○	
		E221	CAB電線共同溝占用物		○		○	○	
		E223	CAB電線共同溝補修歴		○		-	○	
E230	植栽	E230	植栽基本	○			○	○	
		E231	植栽樹木種別		○		○	○	
E240	遮音施設	E240	遮音施設基本	○			○	○	
		E241	遮音施設型式		○		-	○	
		E243	遮音施設補修歴		○		-	○	
E250	遮光フェンス	E250	遮光フェンス基本	○			○	○	
		E252	遮光フェンス補修歴		○		-	○	
E260	距離標	E260	距離標	○			-	○	
E270	流雪溝	E270	流雪溝	○			○	○	
E330	光ケーブル	E330	光ケーブル基本	○			○	○	
		E331	光ケーブル用途		○		-	○	
		E333	光ケーブル補修歴		○		-	○	
		E334	光ケーブル端局		○		○	○	
		E336	光ケーブル端局補修歴		○		-	○	
E350	ビーコン	E350	ビーコン基本	○			○	○	
		E352	ビーコン補修歴		○		○	○	
50 施設			120 詳細情報					73 情報	119 情報

(2) 数値・文字データの作成単位

各施設のデータ作成単位は、道路施設基本データ作成入力書式マニュアルに示すデータの作成単位（各工種の一般注意事項に記載）で作成するものとする。

数値・文字データの作成単位の概要を次頁（表5「道路施設基本データ別作成単位一覧表」）に示す。

※作成する道路施設の共通とする作成単位は「都道府県市区町村ごと、路線ごと、現旧区分ごと」となっており、歩道や防護柵のように施設延長の長い施設が行政界を跨ぐ場合には、都道府県市区町村ごとに分割して施設データを作成する必要があることに注意する。

表5 道路施設基本データ別作成単位一覧表(1/3)

各道路施設基本データ共通		都道府県市区町村ごと、路線ごと、現旧区分ごと	
区分	詳細情報	作成単位	
道路構造	C020	縦断勾配	縦断勾配変化区間ごと
	C021	パーチカルカーブ	縦断曲線の区間ごと
	C030	平面線形基本	線形区間ごと
	C031	平面線形折曲り箇所	線形区間ごと、折れ曲がり箇所ごと
	C060	道路交差点本線	交差点箇所ごと、交差方式ごと《1》
	C061	道路交差点従道路	従道路の路線ごと(本線部分は作成不要)
	C070	鉄道交差点基本	交差点1箇所ごと、交差方式ごと《2》
	C071	鉄道交差点鉄道事業者	鉄道事業者ごと、鉄道線名ごと
	C080	歩道自歩道	上下線ごと、沿道状況区分ごと、歩道等種別ごと、歩道形式ごと、総幅員別ごと(変化点50cm以上で分割)《3》
	C090	独立専用自歩道	自歩道専用区分ごと《4》
	C100	中央帯	中央帯型式箇所ごと《5》
	C110	環境施設帯	環境施設帯箇所ごと
構造物	D010	橋梁基本	橋梁種別ごとに供用開始された1橋単位で作成 上下分離している場合は、別々に作成 高架橋で2市区町村に跨っている場合は、桁単位で市区町村を区分し、1市区町村ごとに1データとして作成 注)橋長2.0m以上のもの
	D011	橋梁幅員構成	供用開始ごとに作成
	D012	橋梁高欄防護柵	高欄・防護柵が設置されている位置ごと
	D013	橋梁交差状況	交差箇所ごと
	D014	橋梁添架物	添架物ごと、形状、寸法単位ごと
	D015	橋梁上部工	上部工構造体ごと
	D017	橋梁径間	支間ごと
	D016	橋梁下部工	下部工ごと
	D019	橋梁塗装歴	上部工は径間ごと、下部工は躯体ごと
	D01A	橋梁補修歴	上部工は径間ごと、下部工は躯体ごと、補修内容ごと
	D01D	橋梁点検補修	補修・補強を行った径間内における部材ごと
	D020	橋側歩道橋基本	橋側歩道橋種別ごとに供用開始された1橋単位で作成 上下分離している場合は、別々に作成 高架橋で2市区町村に跨っている場合は、桁単位で市区町村を区分し、1市区町村ごとに1データとして作成 注)橋長2.0m以上のもの
	D021	橋側歩道橋幅員構成	供用開始ごとに作成
	D022	橋側歩道橋高欄防護柵	高欄・防護柵が設置されている位置ごと
	D023	橋側歩道橋交差状況	交差箇所ごと
	D024	橋側歩道橋添架物	添架物ごと、形状、寸法単位ごと
	D025	橋側歩道橋上部工	上部工構造体ごと
	D027	橋側歩道橋径間	支間ごと
	D026	橋側歩道橋下部工	下部工ごと
	D029	橋側歩道橋塗装歴	上部工は径間ごと、下部工は躯体ごと
	D02A	橋側歩道橋補修歴	上部工は径間ごと、下部工は躯体ごと、補修内容ごと
	D02D	橋側歩道橋点検補修	補修・補強を行った径間内における部材ごと
	D030	横断歩道橋基本	構造的にみて一体である横断歩道橋1橋ごと
	D032	横断歩道橋塗装歴	上部工、下部工ごと
	D033	横断歩道橋補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	D040	トンネル基本	供用開始された1トンネル単位、上り下り分離している場合は別々に作成 自動車専用トンネル、自転車歩行者専用トンネルで分離されている場合は別々に作成
	D042	トンネル補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	D043	トンネル占用物	占用物件ごと
	D050	洞門基本	洞門箇所ごと、構造形式ごと
	D052	洞門補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	D053	洞門占用物	占用物件ごと
	D060	スノーシェッド基本	スノーシェッド箇所ごと、構造形式ごと
D062	スノーシェッド補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと	
D063	スノーシェッド占用物	占用物件ごと	
D070	地下横断歩道基本	構造的に見て一体である地下横断歩道ごと	
D072	地下横断歩道補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと	
D073	地下横断歩道占用物	占用物件ごと	
D080	道路BOX基本	道路BOX箇所ごと(直轄道路に対し縦断方向にアンダーパス)	

表5 道路施設基本データ別作成単位一覧表(2/3)

区分	詳細情報	作成単位	
構造物	D082	道路BOX補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	D083	道路BOX占用物	占用物件ごと
	D090	横断BOX基本	横断BOX等箇所ごと、設置区分ごと、構造形式ごと《6》
	D092	横断BOX補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	D093	横断BOX占用物	占用物件ごと
	D100	パイプカルバート基本	設置箇所ごと、形式種別ごと、管径ごと 注)φ300mm以上《7》
	D102	パイプカルバート補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	D110	のり面基本	上・下線ごと、切土のり面、盛土のり面及び斜面ごと 延長が500m以上の場合、500mごとに作成 注)直高5m以上《8》
	D117	のり面補修改築歴	補修(維持、修繕)または改築が行われた施設ごと
	D120	擁壁基本	擁壁設置箇所ごと、構造形式ごと 注)ブロック積擁壁最大高3m以上、コンクリート最大高擁壁5m以上《9》
	D122	擁壁補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	付属物及び付帯施設	E010	防護柵基本
E020		照明基本	照明灯柱ごと 注)トンネル照明等、施設内に照明が設置されている場合は1データとして作成し、該当する照明に光源が複数ある場合は、灯数、光源種別、光源型式の各項目に記入する。
E022		照明補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E030		反射式視線誘導	反射式誘導標の種類毎 注)防護柵、構造物等に設置されているものは除く(支柱タイプのみ)
E040		自光式視線誘導基本	自光式視線誘導標基礎1箇所ごと
E050		標識基本	ポールまたは門形構造物等1基ごと
E051		標識各板諸元	標識板ごと
E053		標識補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E060		情報板基本	道路情報板1基ごと
E062		情報板補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E070		交通遮断機基本	交通遮断機1基ごと
E072		交通遮断機補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E080		ITV基本	カメラ設置箇所ごと
E082		ITV補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E090		車両感知器基本	車両感知器設置1ヶ所ごと、車両感知器の形式ごと《11》
E092		車両感知器補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E100		車両計測基本	車両諸元計測施設ごと
E101		車両計測設備	計測機種別ごと
E103		車両計測補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E110		気象観測基本	装置種別ごと《12》
E112		気象観測補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E120		災害予知装置基本	装置種別ごと《13》
E130		自動車駐車場基本	自動車駐車場箇所ごと 注)道路管理者が設置・管理し、面積が100㎡以上のもの
E132		自動車駐車場補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E140		自転車駐車場基本	自転車駐車場箇所ごと注)道路管理者が設置・管理し道路敷内及び隣接しているもの
E150		雪崩防止基本	施設種別ごと《14》
E152		雪崩防止補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E160		落石防止基本	施設種別ごと《15》
E162		落石防止補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E170		消雪パイプ基本	消雪パイプ設置区分ごと《16》
E172		消雪パイプ補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E180		ロードヒーティング基本	融雪施設区分ごと、設置区分ごと《17》
E182		ロードヒーティング補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E190		除雪ST基本	除雪ステーション箇所ごと
E191		除雪ST設備	設備内容(除雪に用いる機械類や材料)ごと、補修内容ごと
E200		防災備蓄基本	防災備蓄倉庫1箇所ごと
E210		共同溝基本	共同溝設置箇所ごと、共同溝区分ごと《18》
E211		共同溝占用物	占用物件ごと
E213		共同溝補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E220		CAB電線共同溝基本	CAB設置箇所ごと、電線共同溝設置箇所ごと、情報BOX設置箇所ごと、上り下り区分ごと《19》
E221		CAB電線共同溝占用物	占用物件ごと
E223		CAB電線共同溝補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
E230	植栽基本	植栽帯(樹)ごと、設置箇所ごと《20》	
E231	植栽樹木種別	樹木の種別ごと、補修内容ごと	
E240	遮音施設基本	施設種別ごと《21》	
E241	遮音施設型式	型式ごと	
E243	遮音施設補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと	

表5 道路施設基本データ別作成単位一覧表(3/3)

区分	詳細情報	作成単位
付 属 物 及 び 付 帯 施 設	E250 遮光フェンス基本	遮光フェンス設置箇所ごと、種類・型式ごと《22》
	E252 遮光フェンス補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	E260 距離標	距離標ごと
	E270 流雪溝	流雪施設設置箇所ごと《23》
	E330 光ケーブル基本	端局・接続箱区間ごと、ケーブルごと《24》
	E331 光ケーブル用途	利用用途種別ごと
	E333 光ケーブル補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	E334 光ケーブル端局	端局・接続箱ごと《25》
	E336 光ケーブル端局補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと
	E350 ビーコン基本	ビーコン1基ごと
	E352 ビーコン補修歴	補修が行われた箇所ごと、補修内容ごと

※作成単位に示した《数字》は、下記の区分表のうち該当のものを参照する。

区分表

<p>(1)道路交差点</p> <p>交差方式区分</p> <p>平面交差 立体(主道路が高架) 立体(従道路が高架) 立体(主道路が地下道) 立体(従道路が地下道) 立体(その他)</p>	<p>(7)ハイカルバート</p> <p>設置区分</p> <p>縦断管渠(道路に平行) 横断管渠(道路を横断) その他</p> <p>形式種別</p> <p>鉄筋コンクリート管 硬質塩化ビニール管 強化プラスチック複合管 陶管 コルゲートパイプ ダクタイル鑄鉄管 鋼管 卵型管 その他</p>	<p>(12)気象観測施設</p> <p>装置種別</p> <p>雨 雨量計 降雨強度計 雪 降雪計 積雪深計 路面凍結 気温計 路温計 路面水分計 降水検知器 湿度計 路面凍結計(記録可) 路面凍結計(記録不可) 視程 透過率計 風 風向・風速計 吹き流し 波 波浪計 その他</p>	<p>(16)消雪パイプ</p> <p>設置区分</p> <p>車道 歩道 歩道、自転車歩行者道 車道+歩道兼用 車道+歩道、自転車歩行者道兼用 橋梁(高架橋も含む) 横断歩道橋 トンネル 洞門 スノーシェッド 独立専用歩道 橋梁橋側歩道橋 その他</p>	<p>(22)遮光フェンス</p> <p>設置箇所</p> <p>路肩(路側) 歩道 中央帯(中央分離帯) 環境施設帯内 橋梁(高架橋も含む) トンネル 洞門 スノーシェッド 道路BOX等 擁壁上 その他</p>
<p>(2)鉄道交差点</p> <p>交差方式区分</p> <p>立体交差 平面交差</p>	<p>(8)のり面</p> <p>のり面斜面分類</p> <p>切土のり面 盛土のり面 斜面</p>	<p>(13)災害予知装置</p> <p>装置種別</p> <p>落石予知装置 雪崩予知装置 地滑り予知装置 地震計測装置 その他</p>	<p>(17)ロードヒーティング</p> <p>設置区分</p> <p>電熱線融雪 赤外線融雪 その他</p>	<p>(23)流雪溝</p> <p>設置区分</p> <p>路側 歩道下 中央分離帯 その他</p>
<p>(3)歩道及び自転車歩行者道</p> <p>沿道状況区分</p> <p>市街地 平地 山地 DID地域</p> <p>歩道等種別</p> <p>歩道 歩道+自転車道 自転車歩行者道 歩道等(分離)</p> <p>形式</p> <p>マウントアップ フラット(緑石) フラット(防護柵) 橋梁添架(コンクリート) 橋梁添架(鋼製) その他</p>	<p>(9)擁壁</p> <p>設置区分</p> <p>背面が盛土の場合の擁壁 背面が切土の場合の擁壁 橋梁(高架橋)の取付用擁壁 その他</p> <p>構造形式</p> <p>石積・ブロック積擁壁 重力式コンクリート擁壁 もたれ式擁壁 棚式擁壁 井げた組枠擁壁 半重力式擁壁 片持ばり式擁壁(逆T型) 控え壁式擁壁 支え壁式擁壁 混合擁壁 U型擁壁 L型擁壁 逆L型擁壁 補強土壁工法 その他の擁壁</p>	<p>(14)雪崩防止</p> <p>施設種別</p> <p>なだれ施設 予防杭 予防柵 吊枠 吊柵 スノーネット 雪庇予防柵 防護柵 補助防護柵 防護杭 誘導柵 その他 階段工 誘導壁 ふぶき、吹きだまり施設 吹きだめ柵(防雪柵) 吹き払い柵(防雪柵) その他 その他</p>	<p>(24)光ケーブル</p> <p>ケーブル種類</p> <p>シングルモード(SM) グレーデッドインデックス(GI) ステップインデックス(SI) その他</p>	
<p>(4)独立占用歩道</p> <p>歩道専用区分</p> <p>自転車歩行者専用道路 自転車専用道路 歩行者専用道路</p>	<p>(10)防護柵</p> <p>設置箇所</p> <p>独立専用歩道 路側 中央分離帯 歩道等 橋梁 高架橋 歩道車道側 歩道路肩側 橋側歩道橋 その他</p>	<p>(15)落石防止</p> <p>施設種別</p> <p>落石防護柵 落石防止網工 落石防止柵工 落石予防工 根固め工 コンクリート吹付工 モルタル吹付工 ロックアンカー工 コンクリート張工 コンクリートのり枠工 ロックボルト工 網柵工 落石防護工 落石防止壁工 落石誘導工 落石防止堤 その他</p>	<p>(25)光ケーブル端局</p> <p>端局装置種別</p> <p>成端接続箱 接続箱(分岐、直線) 機側装置(CCTV等) その他</p>	
<p>(5)中央帯</p> <p>型式</p> <p>マウント 緑石付凸型中央帯 緑石付凹型中央帯 フラット 緑石を設けない中央帯 広幅員分離の構造 チャックバーが設けられた 中央帯 遮光フェンス、防護柵等が 設けられた中央帯 ポストンが設けられた 中央帯 その他</p>	<p>(11)車両感知器</p> <p>形式</p> <p>コムチューブ式 路上スイッチ式 踏み板式 超音波式 ループ式 超音波+ループ その他</p>	<p>(18)共同溝</p> <p>設置箇所</p> <p>上下線の中心付近 上り線の中心付近 下り線の中心付近 歩道部分 その他</p> <p>共同溝区分</p> <p>幹線共同溝 供給管共同溝 その他</p>	<p>(20)植栽</p> <p>設置箇所</p> <p>中央分離帯 歩道内 導流島内 路側 その他</p>	
<p>(6)横断BOX</p> <p>設置区分</p> <p>車道 自転車・歩行者道 車道+歩道併用 横断水路 車道+横断水路併用 車道+歩道+ 横断水路併用 歩道+横断水路併用 その他</p> <p>構造形式種別</p> <p>一連ボックスカルバート 二連ボックスカルバート 門形カルバート コルゲートパイプ その他</p>	<p>(21)遮音施設</p> <p>施設種別</p> <p>遮音壁 遮音築堤 吸音壁 遮光壁 遮音壁+吸音壁等 その他</p>	<p>(19)CAB電線共同溝</p> <p>設置箇所</p> <p>歩道 車道 中央帯(中央分離帯) 路肩 その他</p>	<p>(21)遮音施設</p> <p>施設種別</p> <p>遮音壁 遮音築堤 吸音壁 遮光壁 遮音壁+吸音壁等 その他</p>	

(3) 数値・文字データの作成項目

数値・文字データの作成項目は、中国地方整備局から配布されている「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」の「道路施設基本データ作成対象項目一覧表」を参照するものとする。

※一施設の数値・文字データを作成する場合においても、全国版データの作成項目と中国版データの作成項目は異なっていることに注意する。

各項目の作成内容は、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」の各工種別のマニュアルを参照し、データ作成をする。

(4) 数値・文字データの作成形式

数値・文字データの形式は、CSV形式のデータファイルで作成するものとし、下記の2種類を作成する。

- ①道路工事完成図等作成要領に準拠した項目のCSVデータ・・・・・・・・・・(全国版)
- ②中国地方整備局で定めた項目のCSVデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・(中国版)

なお、各項目はダブルクォーテーション「”」で括る。

※中国地方整備局では、各項目を括るダブルクォーテーション「”」を省略してもよいものとする。

道路施設基本データの数値・文字データのサンプルを以下に示す。

サンプル1：道路情報版を1基新設した場合

※項目部とデータ部は改行されていることに注意

	<p>・E06001.CSV(全国版)</p> <pre> "路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","百米標","距離","施設改修年度","完成年月","情報板種別C","表示方法C","制御方法C","市区町村C" "0004","1","","","","","623.0","90","*","199403","1","4","3","02441" </pre>	項目部 ↓ データ部
<small>全国版と中国版では項目数が異なることに注意</small>	<p>・E06001.CSV(中国版)</p> <pre> "工事番号","工事区分C","附図対応番号","地建C","事務所C","出張所C","路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","名称","百米標","距離","施設完成年度","施設改修年度","完成年月","上り下り区分C","所在地","設置箇所C","設置目的C","情報板種別C","情報固定自由別C","表示方法C","制御方法C","設置方法C","通信線名","契約種別C","契約番号","支払営業所名","表示機製造業者","表示機操作盤製造業者","備考","市区町村C" "07123456789012","1","I0007-001-003","","","0007","1","","","","*","広島市中区〇〇町","623.0","90","409","*","199403","2","広島市中区〇〇町〇〇丁目〇〇番地","1","1","1","2","4","3","2","*","*","*","〇〇電力(株)〇〇営業所","*","*","*","02441" </pre>	項目部 ↓ データ部

サンプル2：防護柵を2箇所撤去した場合

1 施設目	<p>•E01001.CSV(全国版)</p> <p>"路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","市区町村C","百米標自","距離自","百米標至","距離至","上り下り区分C","設置箇所C","防護柵種別C","設置区分C","設置延長" "0007","1","0001","0000","0000","*","02441","418.0","20","418.0","50","1","1","101","1","30.0"</p>
	<p>•E01001.CSV(中国版)</p> <p>"工事番号","工事区分C","附図対応番号","地建C","事務所C","出張所C","路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","市区町村C","名称","百米標自","距離自","百米標至","距離至","施設完成年度","施設改修年度","上り下り区分C","設置箇所C","防護柵種別C","設置区分C","設置目的C","材質C","柵高","設置延長","完成年月","表面処理C","関連施設名称","関連施設整理番号","備考" "07123456789012","3","I0007-001-001","","","0007","1","","","","","02441","広島市中区〇〇町","418.0","20","418.0","50","411","*","1","1","101","1","11","1","0.80","30.0","199905","1","*","*","*"</p>
2 施設目	<p>•E01002.CSV(全国版)</p> <p>"路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","市区町村C","百米標自","距離自","百米標至","距離至","上り下り区分C","設置箇所C","防護柵種別C","設置区分C","設置延長" "0007","1","0002","0000","0000","*","02441","418.1","30","418.0","50","1","1","101","1","20.0"</p>
	<p>•E01002.CSV(中国版)</p> <p>"工事番号","工事区分C","附図対応番号","地建C","事務所C","出張所C","路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","市区町村C","名称","百米標自","距離自","百米標至","距離至","施設完成年度","施設改修年度","上り下り区分C","設置箇所C","防護柵種別C","設置区分C","設置目的C","材質C","柵高","設置延長","完成年月","表面処理C","関連施設名称","関連施設整理番号","備考" "07123456789012","3","I0007-001-002","","","0007","1","","","","","02441","広島市中区〇〇町","418.1","30","418.1","50","411","*","1","1","101","1","11","1","0.80","20.0","199905","1","*","*","*"</p>

サンプル3：道路標識を1基新設した場合（板が2枚）

親データ (道路標識)	<p>•E05001.CSV(全国版)</p> <p>"路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","百米標","距離","上り下り区分C","設置箇所C","設置方式C","支柱形式C","基礎形式C","クリアランス","施設改修年度","完成年月","市区町村C" "0016","1","","","","","57.3","25","1","1","11","11","1","5.1","*","199905","02441"</p>	
	<p>•E05001.CSV(中国版)</p> <p>"工事番号","工事区分C","附図対応番号","地建C","事務所C","出張所C","路線","現旧区分C","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","名称","百米標","距離","上り下り区分C","設置箇所C","設置方式C","支柱形式C","表面塗装処理C","基礎形式C","クリアランス","施設完成年度","施設改修年度","完成年月","新設移設別C","備考","市区町村C" "07123456789012","1","I0016-001-001","","","0016","1","","","","","広島市中区〇〇町","57.3","25","1","1","11","1","11","11","5.1","411","*","199905","1","*","02441"</p>	
子データ (標識各板 諸元)	<p>•E05101.CSV(全国版)</p> <p>"整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","標識種類番号","板寸法縦","板寸法横" "","","","114-A","120","325" "","","","118","45","45"</p>	<p>1 施設目</p> <p>2 施設目</p>
	<p>•E05101.CSV(中国版)</p> <p>"工事番号","工事区分C","附図対応番号","地建C","事務所C","出張所C","路線","現旧区分C","現旧区分","整理番号1","整理番号2","整理番号3","補助番号","標識種類番号","上り下り別C","板寸法縦","板寸法横","板材質C","反射照明方式C","板取付方式C","ローマ字有無C","新設移設板別C","完成年月" "07123456789012","1","I0016-001-001","","","0016","1","","","","","114-A","1","120","325","2","1","2","1","1","199905" "07123456789012","1","I0016-001-001","","","0016","1","","","","","118","1","45","45","2","*","2","1","1","199905"</p>	<p>1 施設目</p> <p>2 施設目</p>

ファイル名は、「本資料 4.8 道路施設基本データ関連のファイル仕様」に従い、個別道路施設諸元サブフォルダ名に合わせ、「半角英数大文字6文字+拡張子」とする。
(例：「E02001.csv」、…等)

4.6. 図面及び現況写真（イメージデータ）の作成

(1) 図面及び現況写真の作成項目

下表「施設別現況写真・図面種別一覧表」は、道路施設基本データ毎に作成する現況写真・図面の一覧表である。

施工した道路施設の現況写真・各図面を用いて、現況写真及び図面を作成する。

表6 施設別現況写真・図面種別一覧表

No.	入力書式名	現況写真		図面										備考		
		現況写真	撮影方法タイプ	平面図	標準断面図	側面図	舗装構成図	交差点詳細図	排水系統図	正面図	構造物詳細図	情報可及内容一覧表	シフト系統図		転送系統図	井戸構造図
1	縦断勾配			○	○											縦断勾配要素がわかる図
2	バーチカルカーブ			○	○											バーチカルカーブ要素がわかる図
3	平面線形			○	○											平面線形要素がわかる図
4	道路交差点	○	D (①)					○								
5	鉄道交差点	○	D (②)					○								
6	歩道及び自転車歩行者道	○	A	○												
7	独立専用歩道	○	A													
8	中央帯	○	A													
9	環状施設帯	○	B (①)													
10	橋梁	○	C (①)	○		○				○						現況写真は、側面・正面・床版下を撮影
11	橋脚歩道橋	○	C (①)	○		○				○						現況写真は、側面・正面・床版下を撮影
12	橋脚歩道橋	○	C (①)	○		○				○						
13	トンネル	○	C (②)	○		○				○						
14	洞門	○	C (②)	○		○				○						
15	スノーシェッド	○	C (②)	○		○				○						
16	地下横断歩道	○	C (③)	○		○				○						
17	道路BOX	○	C (②)	○		○				○						
18	横断BOX	○	C (④)	○		○				○						
19	ハイバルパート	○	C (④)	○		○				○						排水系統図は、水の流れを矢印で記載
20	のり面	○	A	○		○				○						
21	擁壁	○	C (⑤)	○		○				○						
22	防護柵	○	A	○		○				○						
23	道路照明	○	B (①)	○		○				○						
24	防線導標 (反折式)	○	B (①)	○		○				○						
25	防線導標 (自光式)	○	B (②)	○		○				○						
26	道路標識	○	B (②)	○		○				○						
27	道路情報板	○	B (①)	○		○				○						
28	交通遮断機	○	B (①)	○		○				○						
29	I.T.V	○	B (①)	○		○				○						
30	車両感知器	○	B (①)	○		○				○						
31	車両計測施設	○	D (③)	○		○				○						
32	気象観測施設	○	D (④)	○		○				○						
33	災害予知装置	○	D (③)	○		○				○						
34	自動車駐車場	○	D (③)	○		○				○						
35	自転車駐車場	○	D (③)	○		○				○						
36	雪崩防止施設	○	A	○		○				○						
37	落石防止施設	○	A	○		○				○						
38	消雪ハイブ	○	D (⑥)	○		○				○						○
39	ロードヒーティング	○	D (⑥)	○		○				○						○
40	除雪ステーション	○	D (③)	○		○				○						
41	防災備蓄	○	D (⑥)	○		○				○						
42	共同庫	○	D (⑥)	○		○				○						
43	C.A.B電線共同溝	○	D (⑥)	○		○				○						
44	擁壁	○	A	○		○				○						
45	遮音施設	○	A	○		○				○						
46	遮光フェンス	○	A	○		○				○						
47	流雪溝	○	C (④)	○		○				○						
48	光ケーブル施設	○	D (⑥)	○		○				○						
49	光ケーブル施設端局	○	B (①)	○		○				○						
50	ビーコン	○	B (①)	○		○				○						

(2) 図面データの作成方法

「工事成果品であるCADデータを持ちいて、道路施設毎、表6で指定された図面類毎にJPGデータに変換する（P21形式のCADデータで代用も可）。

ファイル名は、「本資料 4.7 道路施設基本データ関連のファイル仕様」に従い、個別道路施設諸元サブフォルダ名に連番2桁を加え、「半角英数大文字8文字+拡張子」とする。

（例：「E0200101.jpg」、「E0200102.p21」…等）

なお、CADデータがない場合は、下記の方法にてイメージデータ（図面）を作成するものとする。

【イメージデータ（図面）の作成方法】

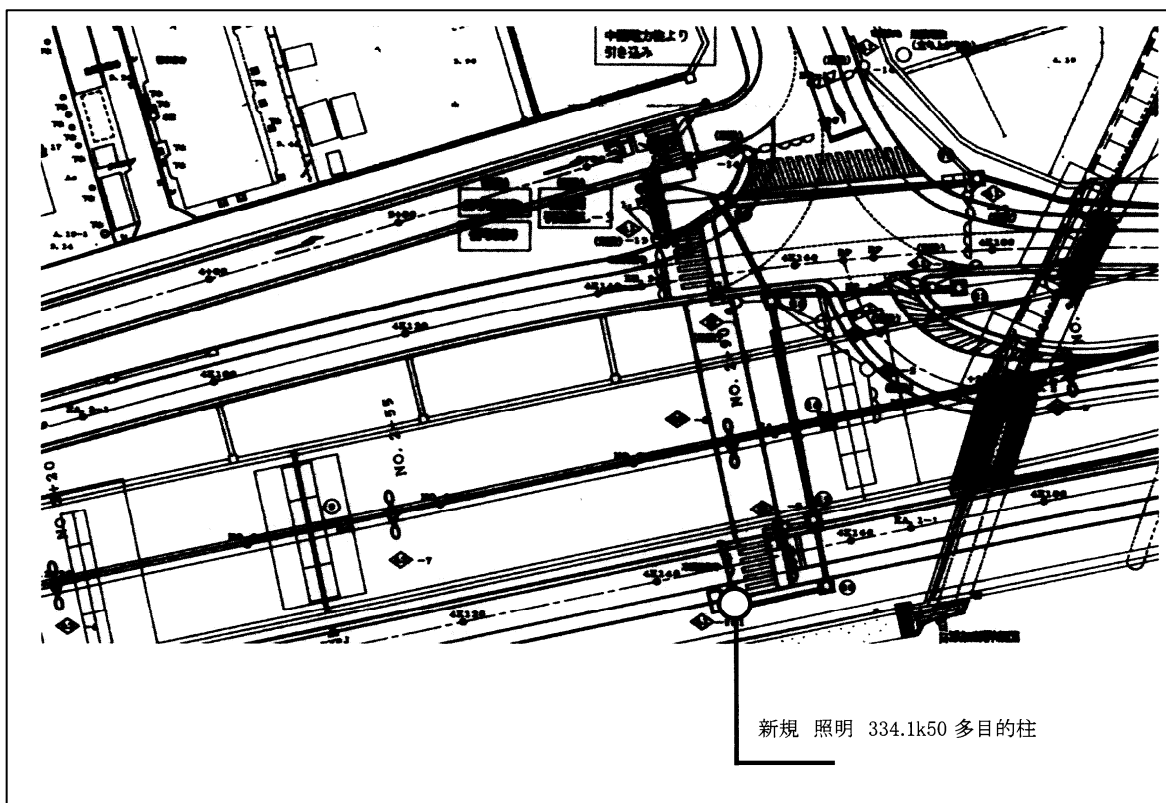
道路施設毎に指定された図面類を個々にスキヤニング（下表「イメージファイルの詳細仕様」参照）しJPGデータとして電子化する。その際、下記の点に注意をする。

- 不鮮明な図面は使用しない。
- 施設と道路との位置関係が把握できること。
- 道路線形、幅員構成等が把握できること。
- 施設の断面図等により、高さ方向、交差状況の寸法が把握できること。
- 平面図作成においては、作成対象施設の埋設の管路及び配管・配線 など（函渠及び占用物件などの埋設物以外）についても位置が把握できるよう作成すること。

表7 イメージファイルの詳細仕様

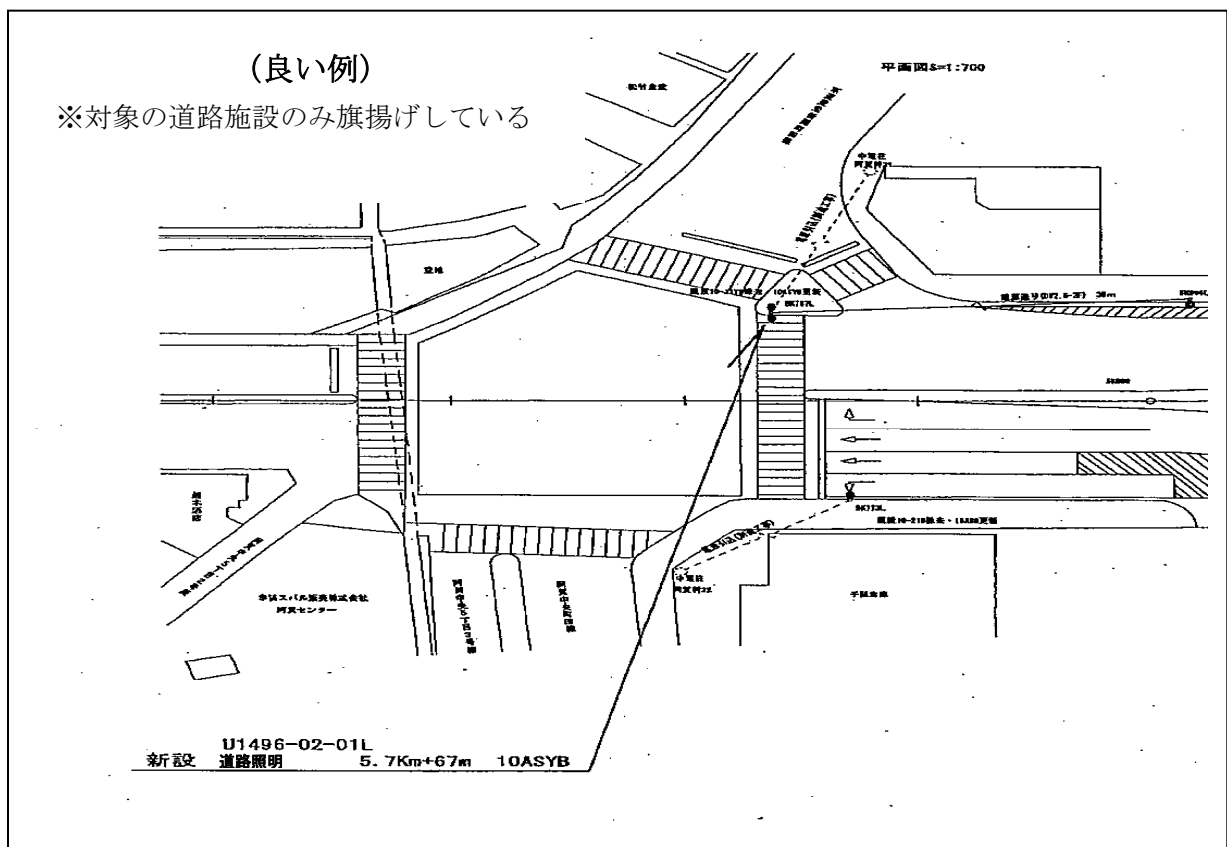
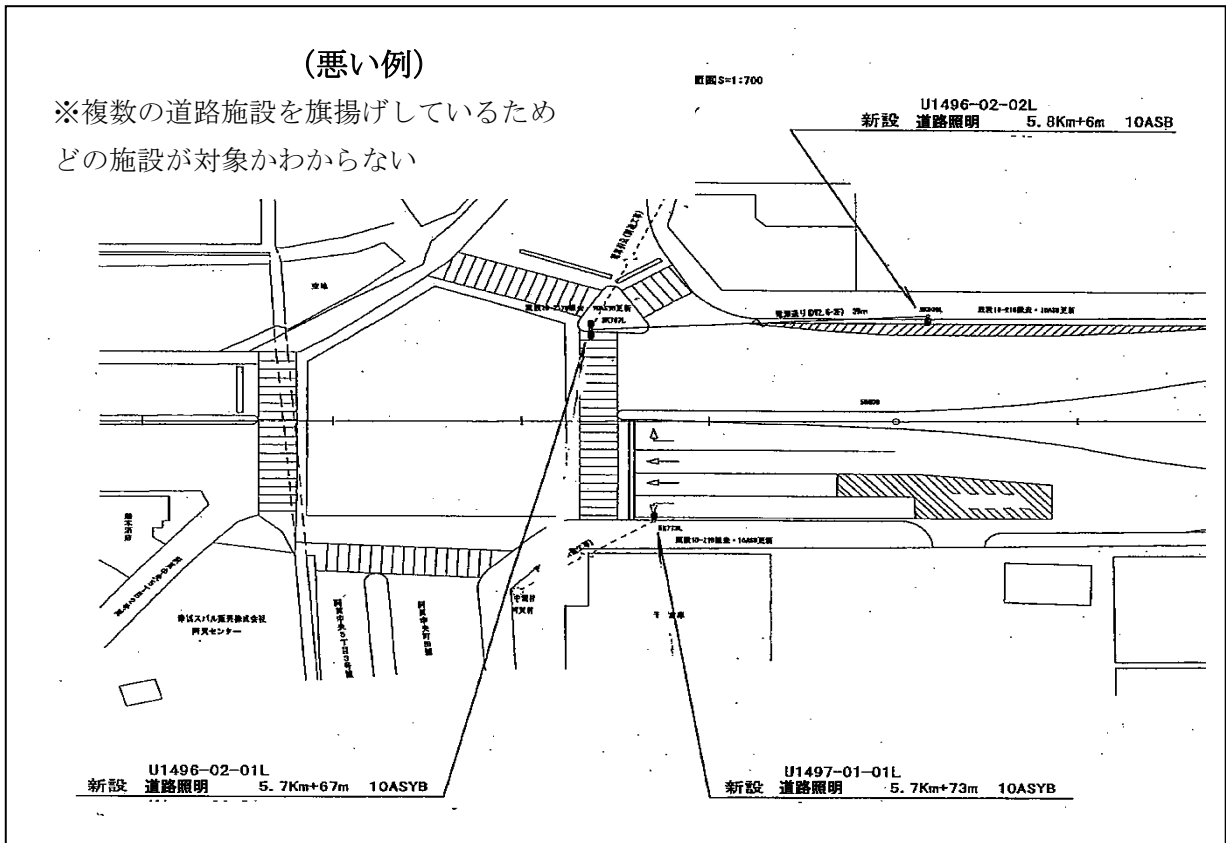
項目	図面		現況写真	
	スキヤニングの場合	CADデータの場合	デジタルカメラ撮影の場合	スキヤニングの場合
ファイル形式(圧縮形式)	JPG	SXF(P21)	JPG	JPG
階調(色数)	フルカラー	—	フルカラー	フルカラー
解像度	200dpi	—	100万画素程度	200dpi
圧縮レベル	50	—	50	50

イメージデータ（図面）例



②1枚に複数の道路施設を旗揚げしている

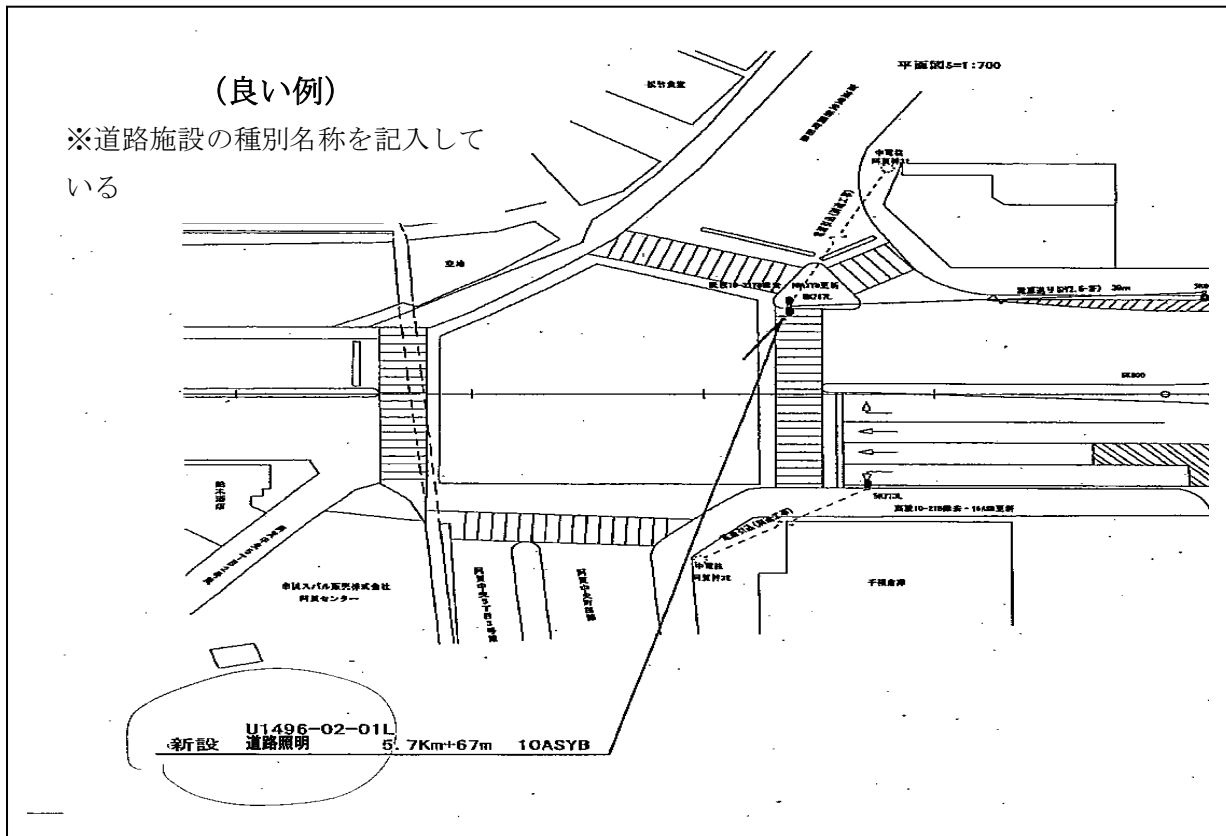
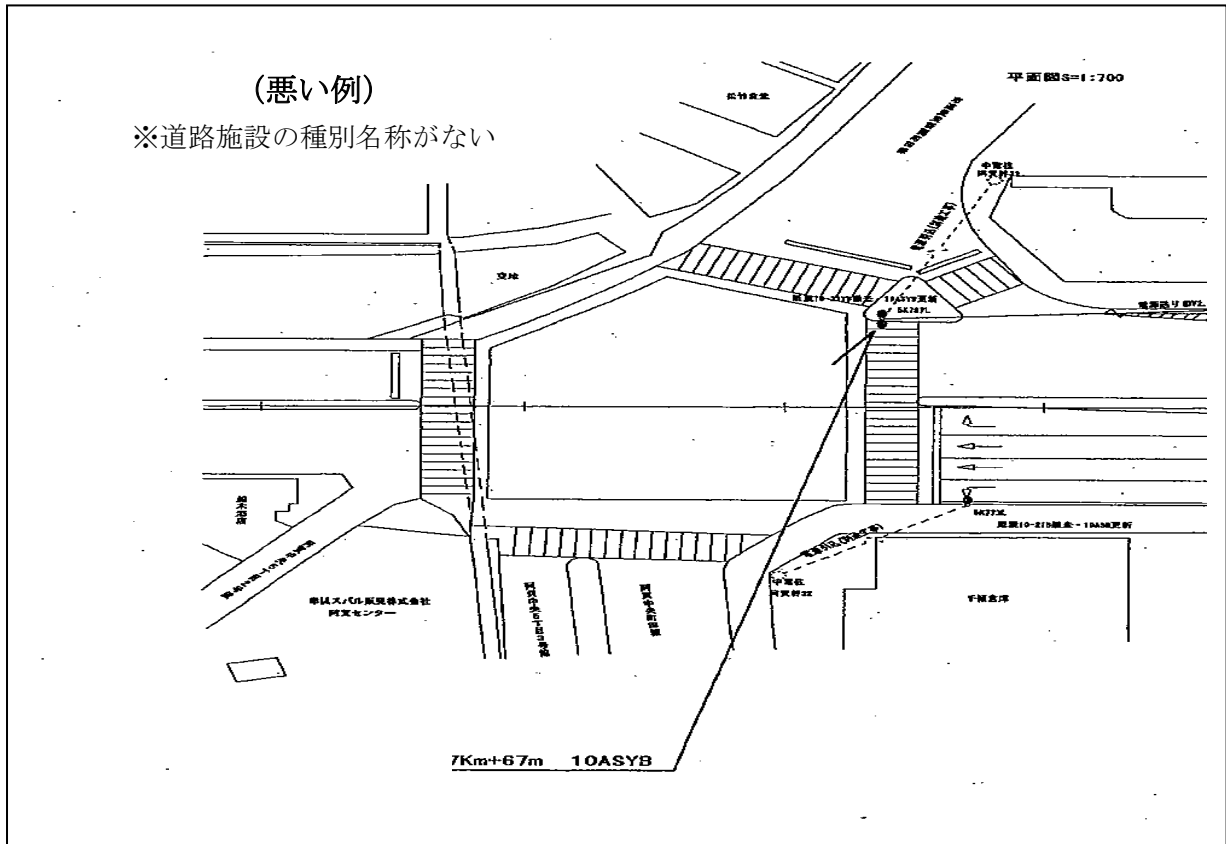
複数の道路施設を旗揚げしている場合、この図面がどの道路施設を対象にしているかわからない。
そのため、1枚に1つの道路施設のみ旗揚げする。



③道路施設の名称の記載がない

図面は、指定枠内をデータとして登録するため、旗揚げされた道路施設に、名称が記載されていない場合、登録後、どの道路施設か判別できない。

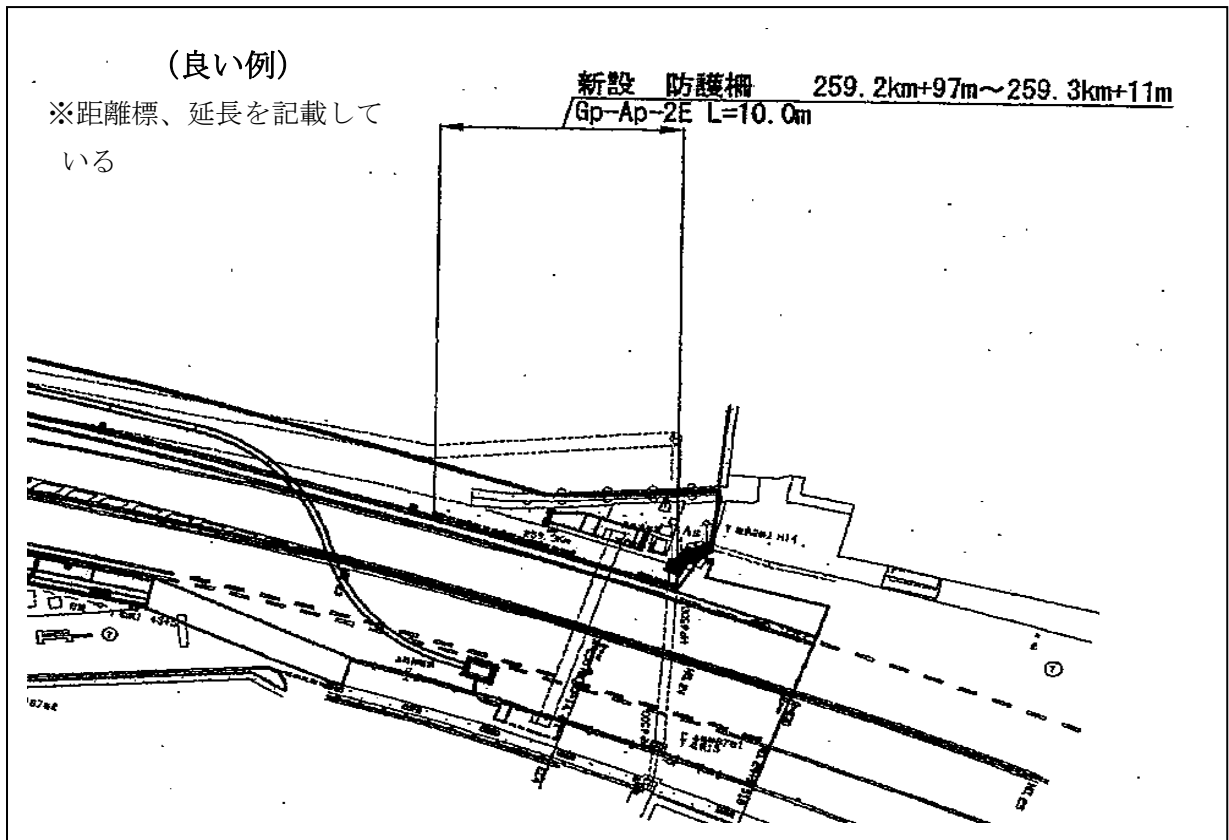
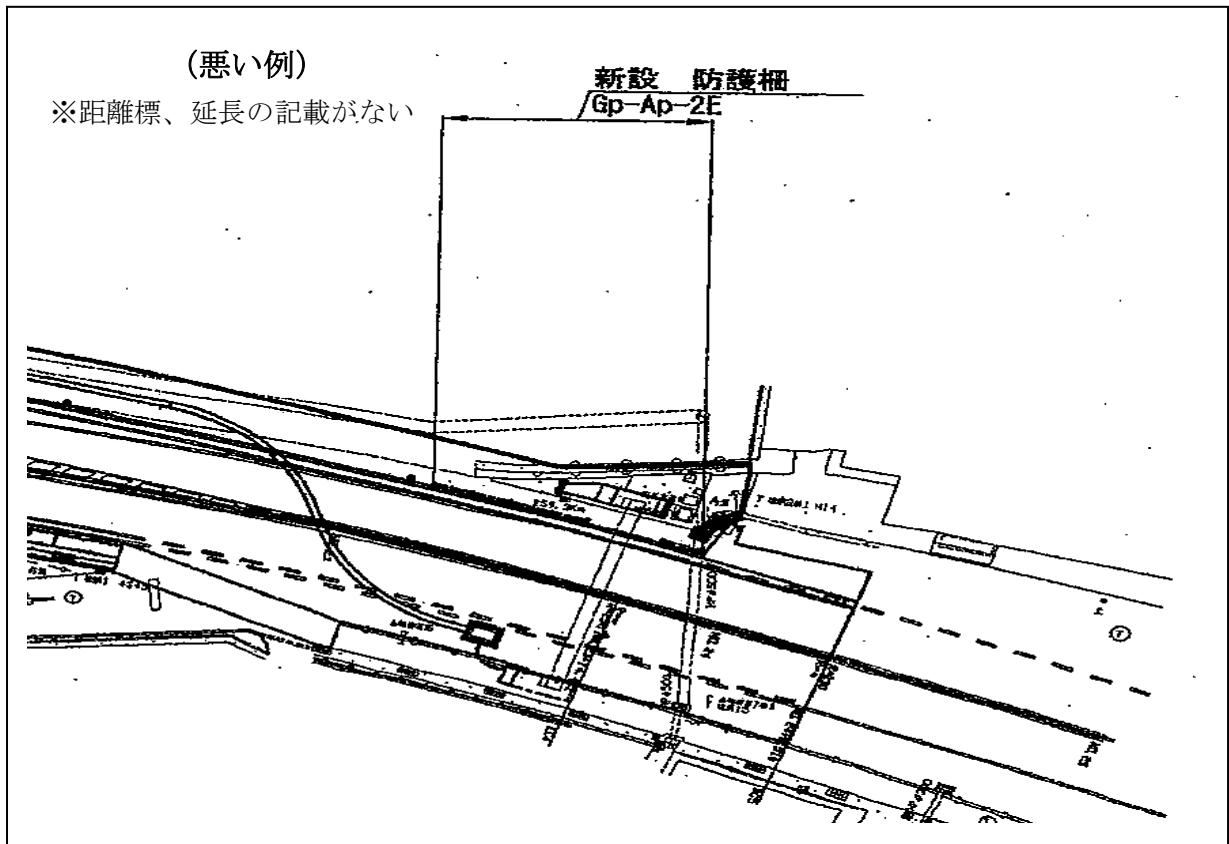
そのため、旗揚げした箇所には道路施設名称を記載する。但し、固有の名称を持たない道路施設（道路照明、道路標識等）については、種別名を記載する。



④距離標・延長の記載がない

図面に距離標がない場合、対象の道路施設が、どの位置に設置されているのか判断できないため、道路施設基本データの情報との整合確認がとれない。

そのため、旗揚げした道路施設については、距離標を記載する。防護柵や情報BOXなどの延長物については、延長も記載する。



(4) 現況写真データの作成方法

現況写真データは、デジタル写真管理情報基準（案）に基づいて、デジタルカメラにて撮影するものとする。

現況写真の撮影方法、仕様及びファイル形式を次頁の表 8 に示す。

①撮影方法

現況写真は、(5) 現況写真撮影方法（次頁）に示す、タイプ A～D の 4 種類の方法で撮影する。

②仕様

「デジタル写真管理情報基準（案）」を適用し、100 万画素程度のデジタルカメラで撮影する。

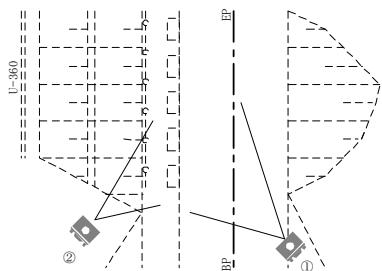
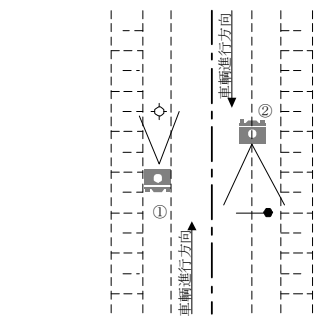


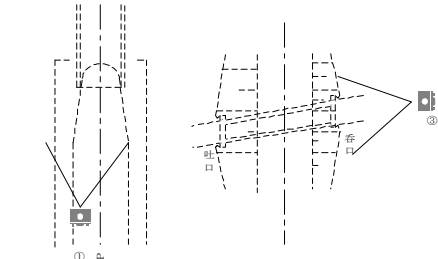
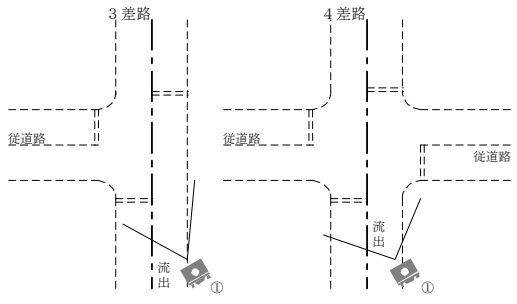
③ファイル形式

ファイル形式は、「デジタル写真管理情報基準（案）」を適用する。また、ファイル名は、「本資料 4.7 道路施設基本データ関連のファイル仕様」に従い、個別道路施設諸元サブフォルダ名に連番 2 桁を加え、「半角英数大文字 8 文字＋拡張子」とする。

(例：「E0200101. jpg」、「E0200102. jpg」…等)

(5) 現況写真撮影方法

表 8 現況写真撮影方法

撮影位置図	撮影方法
<p>Aタイプ（路線方向に長さのある場合）</p> 	<p>起点から終点に向かって撮影するのが基本とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 歩道及び路肩に施設がある場合、施設反対側車道端で撮影する。但し、4車線道路の場合は中央帯とする。 ② 中央分離帯に施設がある場合、左側車道端から撮影する。 ③ 切土のり面に施設がある場合、施設の反対側から全体が視界に入る位置から撮影する。 ④ 盛土のり面に施設がある場合、施設全体が視界に入る位置から撮影する。
<p>Bタイプ（路線方向に点在するもの）</p> 	<p>車の進行方向に向かって撮影するのが基本とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 施設の全景と周辺状況が分かる位置から撮影する。 ② 標識は、標識板の近接撮影（できれば施設の設置状況も分かるもの）とする。 <p>標識各板 標識全景</p>  
<p>Cタイプ（構造物）</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ① 橋梁・橋側歩道橋・横断歩道橋は、施設全体が入るように撮影する。なお、高架橋等施設全体が1枚で収まりきらない場合は、必要に応じて複数に分けて撮影する。 ② トンネル・洞門・スノーシェッド・道路BOX等は、起点側入口の全体が入るよう撮影する。 ③ 地下横断歩道は、両出入口が視界に入るよう撮影する。 ④ 横断BOX・パイプカルバート等は、呑口断面上流側から撮影する。 ⑤ 擁壁は、起点側から終点側に向かっての全体撮影とする。 <p>注 延長が300mを超える場合は、300m毎に1件とする。</p>
<p>Dタイプ（道路交差点、その他）</p> 	<ol style="list-style-type: none"> ① 道路交差点 3差路……主道路の反対側流出路肩部から従道路方向を撮影する。 4差路……主道路の起点側流出路肩部から交差点全体が入るよう撮影する。 ② 鉄道交差点 平面……起点側から交差点の全体が入るよう撮影する。 立体……起点右側の鉄路から立体空間全体が入るよう撮影する。（鉄路への立入りについては協議の上撮影を行う。） ③ 車両諸元計測施設・災害予知装置・除雪ステーション等は建物の全景が入るよう撮影する。 ④ 気象観測施設は観測機種毎に撮影する。但し、テレメータは施設の全景を撮影する。 ⑤ 自動車駐車場・自転車駐車場等は、施設の反対側車道端から全体が入るよう撮影する。 ⑥ 共同溝・CAB電線共同溝等の地下埋設施設は、マンホール・ハンドホール等を撮影する。

4.7. 電子納品媒体フォルダへの格納

(1) 「OTHR/ ORG999」フォルダへの格納

電子納品媒体は、38 頁の図 4 に示すように「道路工事完成図等作成要領」に準拠したフォルダ構造とし、道路施設基本データは、「OTHR/ORG999」フォルダ内に格納する。

また「ORG999」フォルダの下に「SYOGEN」フォルダを作成し、その直下に各施設の道路施設諸元データ（全国版）を格納する道路施設諸元サブフォルダを作成する（例、「D010」（橋梁）、「D040」（トンネル）など）。さらに、道路施設諸元サブフォルダの直下に個別の施設毎のフォルダを作成する。

中国地方整備局では、上記「SYOGEN」フォルダと同様のフォルダ構成の「SYOGEN_0」フォルダを「ORG999」フォルダの下に作成し、その直下に各施設の道路施設諸元データ（中国版）を格納する道路施設諸元サブフォルダを作成する。さらに、道路施設諸元サブフォルダの直下に個別の施設毎のフォルダを作成する。

なお、フォルダ名及びファイル名・拡張子は、半角英数大文字とする。

全国版データである「SYOGEN」フォルダ内のデータと中国地方整備局版データである「SYOGEN_0」フォルダ内のデータについては、例えば「のり面」施設は全国版では作成対象外であるが、中国地方整備局版では作成対象としている等、作成対象に違いがあるため注意が必要である。

ただし、本資料 3. に記載したダウンロードサイトから取得できる「道路施設基本データ作成システム」を使用することにより、「SYOGEN」フォルダ、「SYOGEN_0」フォルダの作成や各フォルダへの道路施設諸元サブフォルダの作成、施設毎のフォルダ作成、及びシステムから入力したデータを基に道路施設基本データ詳細情報ファイルの作成などは、自動的に処理されるため、特に意識する必要はない。

なお、道路施設基本データ作成システムを利用して作成したデータを道路工事完成図等チェックプログラムでチェックした際に、作成データの中に全国版で作成対象としている道路施設が 1 件もないと、次頁のようなエラーが発生する。このエラーは、システム側の問題であり、作成したデータの不具合ではないため、そのまま納品して良いものとする。

全国版で作成対象外としているが、中国地方整備局版では作成対象としている道路施設は、「パーチカルカーブ」「のり面」「防災備蓄」「距離標」の 4 種類である。

納品する電子納品媒体は、「工事完成図書」と「道路施設基本データ」を取りまとめた電子媒体とし、たうえて、正副各 1 部ずつ合計 2 部作成して監督職員へ提出する。

- ◆作成データの中に全国版で作成対象としている道路施設が 1 件もない場合に「道路工事完成図等チェックプログラム」で発生するエラー

道路施設基本データ チェック結果詳細

■■■■チェック結果■■■■

チェック項目	エラー件数
道路施設基本データ管理ファイル (ORG999.XML) チェック	4 件
フォルダ構成・ファイル名チェック	1 件
道路施設基本データ内容チェック	0 件

■■■■ORG999.XML■■■■

メディア番号	タグ名	要素内容	不正内容	判定内容
1	<道路施設種別>		未設定です。	エラー
1	<道路施設諸元サブフォルダ名>		未設定です。	エラー
1	<道路施設諸元サブフォルダ日本語名>		未設定です。	エラー
1	<個別道路施設諸元サブフォルダ名>		未設定です。	エラー

■■■■フォルダ構成■■■■

階層	該当データ	不正内容	判定内容
5	OTHR/ORG999/SYOGEN///I001.PDF	「」フォルダ内に不正ファイル「I001.PDF」が存在します。	エラー

■■■■データ内容■■■■

ファイル名	行番号	不正内容	判定内容
-	-	-	-

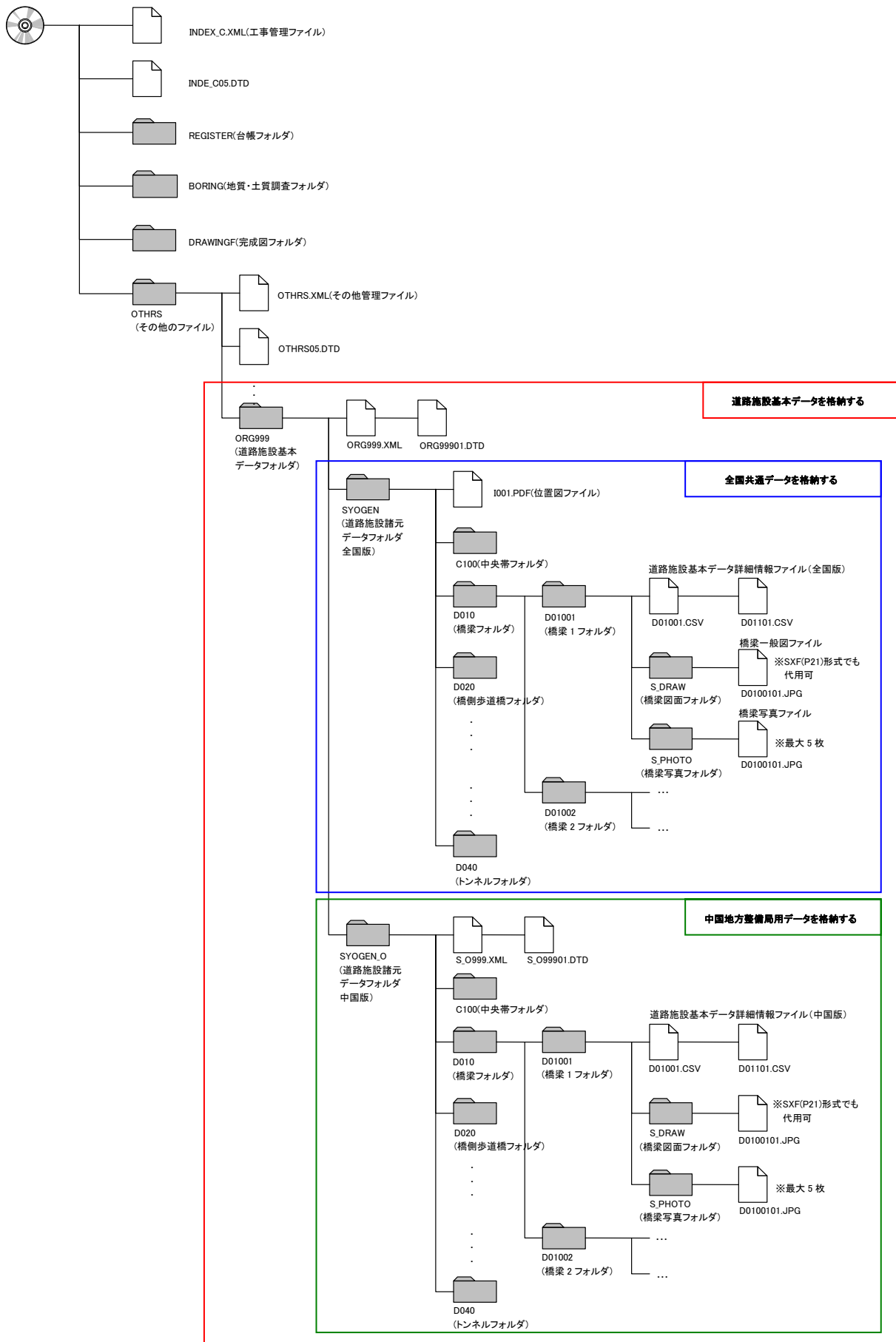


図 4 データ格納フォルダ構成

4.8. 道路施設基本データ関連のファイル仕様

電子納品に格納するファイル等は「道路工事完成図等作成要領」に準拠して作成する。

(1) 工事管理ファイル、その他管理ファイルのXML 記入項目

1) 工事管理ファイルのXML 記入項目

電子成果品の工事管理ファイル「INDEX_C.XML」には、その他フォルダ「OTHERS」に格納する「ORG999」フォルダについて記載する。

①工事管理ファイルの項目

電子成果品に格納する工事管理ファイル「INDEX_C.XML」のうち、道路施設基本データに関する箇所の入力例を下表に示す。なお、網掛け部分が入力する項目である。

表9 工事管理ファイル「INDEX_C.XML」

カテゴリ	項目名	入力したデータ
基礎情報	メディア番号	2
	メディア総枚数	3

	地質データフォルダ名	BORING
	その他フォルダ名	OTHERS
	その他オリジナルファイルフォルダ名	OTHERS/ORG999
工事件名等	その他オリジナルファイルフォルダ日本語名	道路施設基本データフォルダ
	発注年度	2009
	工事番号	200911110123

②工事管理ファイルの出力例

工事管理ファイルの出力例を以下に示す。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE constdata SYSTEM "INDE_C05.DTD">
<constdata DTD_version="05">
<基礎情報>
  <メディア番号>2</メディア番号>
  <メディア総枚数>3</メディア総枚数>
  ...
  ...
  <地質データフォルダ名> BORING </地質データフォルダ名>
  <その他フォルダ名> OTHERS </その他フォルダ名>
  <その他オリジナルファイルフォルダ情報>
    <その他オリジナルファイルフォルダ名> OTHERS/ORG999</その他オリジナルファイルフォルダ名>
    <その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>道路施設基本データフォルダ
    </その他オリジナルファイルフォルダ日本語名>
  </その他オリジナルファイルフォルダ情報>
</基礎情報>
<工事件名等>
  <発注年度>2009</発注年度>
  <工事番号>200911110123</工事番号>
  ...
</工事件名等>
```

2) その他管理ファイルのXML 記入項目

電子成果品のその他の管理ファイル「OTHERS.XML」には、その他フォルダ「OTHERS」に格納する「ORG999」フォルダ、道路施設基本データ管理ファイル「ORG999.XML」について記載する。

①その他管理ファイルの入力例

電子成果品のその他管理ファイル「OTHERS.XML」の入力例を表10に示す。なお、網掛け部分が入力する項目である。

表 10 その他管理ファイル「OTHERS.XML」

カテゴリ・項目名		入力例		
サブフォルダ情報	その他サブフォルダ名	ORG999		
	その他サブフォルダ日本語名	道路施設基本データフォルダ		
	その他資料情報※1	資料名	道路施設基本データ管理ファイル	
		オリジナルファイル情報※1	シリアル番号	1
			オリジナルファイル名	ORG999.XML
			オリジナルファイル名日本語名	道路施設基本データ管理ファイル XML
			オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	○△□ワープロソフト_2008
		オリジナルファイル内容	道路施設基本データ管理ファイルの XML	
		オリジナルファイル情報※1	シリアル番号	2
			オリジナルファイル名	ORG99901.DTD
			オリジナルファイル名日本語名	道路施設基本データ管理ファイル DTD
			オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報	○△□ワープロソフト_2004
		オリジナルファイル内容	道路施設基本データ管理ファイルの DTD	
		その他	受注者説明文	
発注者説明文	道路施設基本データを格納する。			
予備				
ソフトメーカー用 TAG				

※1:複数存在する場合には、その項目を必要な回数繰り返す。

②その他管理ファイルの出力例

その他管理ファイルの出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE othrsdata SYSTEM "OTHERS05.DTD">
<othrsdata DTD version="05">
  <サブフォルダ情報>
    <その他サブフォルダ名>ORG999</その他サブフォルダ名>
    <その他サブフォルダ日本語名>道路施設基本データフォルダ</その他サブフォルダ日本語名>
    <その他資料情報>
      <資料名>道路施設基本データ管理ファイル</資料名>
      <オリジナルファイル情報>
        <シリアル番号>1</シリアル番号>
        <オリジナルファイル名>ORG999.XML</オリジナルファイル名>
        <オリジナルファイル日本語名>道路施設基本データ管理ファイル XML</オリジナルファイル日本語名>
        <オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○△□ワープロソフト_2008</オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
        <オリジナルファイル内容>道路施設基本データ管理ファイルの XML</オリジナルファイル内容>
      </オリジナルファイル情報>
      <オリジナルファイル情報>
        <シリアル番号>2</シリアル番号>
        <オリジナルファイル名>ORG99901.DTD</オリジナルファイル名>
        <オリジナルファイル日本語名>道路施設基本データ管理ファイル DTD</オリジナルファイル日本語名>
        <オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>○△□ワープロソフト_2004</オリジナルファイル作成ソフトバージョン情報>
        <オリジナルファイル内容>道路施設基本データ管理ファイルの DTD</オリジナルファイル内容>
      </オリジナルファイル情報>
      <その他>
        <受注者説明文></受注者説明文>
        <発注者説明文>道路施設基本データを格納する。</発注者説明文>
        <予備></予備>
      </その他>
    </その他資料情報>
  </サブフォルダ情報>
  <ソフトメーカー用 TAG></ソフトメーカー用 TAG>
</othrsdata>

```

(2) 道路施設基本データ管理ファイルの XML 入力項目、ファイル命名規則及び DTD

1) 道路施設基本データ管理ファイルの XML 入力項目

道路施設基本データの管理ファイルとして「ORG999.XML」を作成し、ORG999 フォルダに格納する。また、「ORG999.XML」のデータ構造を示す「ORG99901.DTD」を用意する。

①ORG999 以下のフォルダ・ファイル構成及びファイル命名規則

道路施設基本データを格納する「ORG999」フォルダ・ファイルの構成、ファイル命名規則を下表に示す。

表 1 1 「ORG999」フォルダ・ファイルの構成、ファイル命名規則

構成	名称/拡張子	解説
道路施設基本データ管理ファイル	ORG999.XML 拡張子:.xml *格納するORG999フォルダと名称を合わせる。	「道路施設基本データ管理ファイル」は、道路施設の基本属性を表すデータをXML文書(XMLバージョン1.0に準拠)で記述したファイルであり、ファイル名称を半角英数大文字で「ORG999.XML」とする。なお、「ORG99901DTD」もこのフォルダに格納するものとする。
道路施設諸元データフォルダ (全国版)	SYOGEN	全国版の各種道路施設の諸元データは、「SYOGEN」フォルダに工種毎(施設毎)のサブフォルダを設けて格納する。サブフォルダは、工事内容に応じて関連するフォルダのみを作成するものとする。
道路施設基本データ位置図ファイル	Innn.PDF 拡張子:.pdf *「nnn」は連番(位置図ファイル数分)	ファイル名称はI(位置図を表すアルファベット)に連番「nnn」を付けたもの(道路施設基本データ位置図番号)とする。「SYOGEN」フォルダに格納する。
道路施設諸元サブフォルダ	例:D010	道路施設の諸元データは、施設諸元サブフォルダに格納する。施設諸元サブフォルダは、道路施設の種類毎に作成し、フォルダ名称は施設番号に合わせる。
個別道路施設諸元サブフォルダ	例:D010ii *「ii」は連番(施設数分)	道路施設の道路施設基本データ詳細情報、道路施設一般図、現況写真は、個別道路施設諸元サブフォルダに格納する。個別道路施設諸元サブフォルダは、道路施設基本データの作成施設単位毎に作成し、フォルダ名称は、道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「ii」 ^{※1} を付けたものとする。
道路施設基本データ詳細情報ファイル(全国版)	例:D010ii.CSV 拡張子:.csv *「ii」は個別道路施設諸元サブフォルダと合わせる。	全国版の道路施設基本データ詳細情報ファイルを格納する。ファイル名称は道路施設基本データ詳細情報番号(D010、D011、D012など)に連番「ii」 ^{※1} を付けたものとする。
道路施設一般図フォルダ	例:S_DRAW	施設の一般図ファイルは、道路施設一般図フォルダに格納する。道路施設一般図フォルダは、一般図が必要な施設のみ作成する。
道路施設一般図ファイル	例:D010iiij.JPG、 D010iiij.P21 拡張子:.jpg、p21 *「ijj」は連番(イメージファイル数分)	ファイル名称は個別道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「ijj」 ^{※2} を付けたものとする。
道路施設現況写真フォルダ	S_PHOTO	現況写真ファイルは、道路施設現況写真フォルダに格納する。道路施設現況写真フォルダは、現況写真が必要な施設のみ作成する。
現況写真ファイル	例:D010iiij.JPG 拡張子:.jpg	ファイル名称は個別道路施設諸元サブフォルダの名称に「ijj」 ^{※2} を付けたものとする。

※1:連番が10を超える場合は、アルファベット(半角大文字)および数字(半角)を用いる。具体的には、01・02・・・09・0A・・・0Z・10・11・・・1Z・20・・・となる。(最大はZZ)

※2:連番が100を超える場合は、アルファベット(半角大文字)及び数字(半角)を用いる。

例、100～109の場合はA0～A9、110～119の場合はB0～B9、120～129の場合はC0～C9、とする

「SYOGEN」フォルダ内に格納した道路施設諸元データ(全国版)と同様のフォルダ構成の「SYOGEN_0」フォルダ内に道路施設諸元データ(中国版)を格納する。

②道路施設基本データ管理ファイルの入力項目

電子成果品の道路施設基本データ管理ファイル「ORG999.XML」の入力項目及び入力例を下表に示す。但し、個人情報保護法上の問題が生じる項目については入力を省略してもよい。

表 1 2 道路施設基本データ管理ファイル「ORG999.XML」

カテゴリ	入力項目		データ形式	入力例	必要度	
道路施設諸元データフォルダ情報	道路施設諸元データフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	SYOGEN	◎	
	道路施設諸元データフォルダ日本語名(固定)		全角文字 14 文字	道路施設諸元データフォルダ名	◎	
工事の概要	概要		全角文字,半角英数字 127 文字	〇〇に関する工事	◎	
	供月未供用の別		全角文字 3 文字	供用	◎	
	供用予定	供用年	半角英数字 4 文字	2009	◎	
供用月		半角英数字 2 文字	1	◎		
データ作成基礎情報	データ作成者	請負会社	現場代理人	全角文字,半角英数字 127 文字	×× ××	△
			主任技術者	全角文字,半角英数字 127 文字	〇〇 〇〇	△
		連絡先	TEL	半角英数字 12 文字	0999-99-9999	△
			FAX	半角英数字 12 文字	0999-99-1111	△
			E-Mail	半角英数字 127 文字	〇〇〇@〇〇.jp	△
	監督職員	監督部署	全角文字,半角英数字 127 文字	■■ ■■	△	
		主任監督員	全角文字,半角英数字 127 文字	△△ △△	△	
		監督員	全角文字,半角英数字 127 文字	☆☆ ☆☆	△	
	発注担当課長	全角文字,半角英数字 127 文字	□□ □□	△		
	データ作成対象施設	道路施設種別 ※1※2	半角英数字大文字 4 文字	D010	◎	
道路施設諸元サブフォルダ情報 ※1	道路施設諸元サブフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	D010	◎	
	道路施設諸元サブフォルダ日本語名		半角英数字大文字 127 文字	D010	◎	
	個別道路施設諸元サブフォルダ ※1	個別道路施設諸元サブフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	D01001	◎
		個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名 ※3		半角英数字大文字 127 文字	D01001	◎
	道路施設情報	道路施設名称	全角文字,半角英数字 127 文字	●●橋	◎	
		工事区分 ※4	全角文字 2 文字	改良	◎	
	道路施設基本データ詳細情報	道路基本データファイル名 ※1	半角英数字大文字 127 文字	D01001.CSV	◎	
	図面フォルダ	図面フォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	S_DRAW	◎
		図面フォルダ日本語名(固定)		全角文字 6 文字	図面フォルダ	◎
		図面ファイル名 ※1		半角英数字大文字 127 文字	D0100101.P21	◎
	写真フォルダ	写真フォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	S_PHOTO	◎
写真フォルダ日本語名(固定)		全角文字 6 文字	写真フォルダ	◎		
写真ファイル名 ※1		半角英数字大文字 127 文字	D0100101.JPG	◎		

凡例 ◎:必須記入 △:任意記入

- ※1:複数存在する場合には、その項目を必要な回数繰り返す。
- ※2:道路施設種別は、施設名に対応する施設番号とする。
- ※3:個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名は、サブフォルダ名称とする。
- ※4:工事区分は、「新設」、「改良」、「撤去」のいずれかとする。

③道路施設基本データ管理ファイルの出力例

道路施設基本データ管理ファイルの出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE orgdataSYSTEM "ORG99901.DTD">
<orgdataDTD_version="01">
<道路施設諸元データフォルダ情報>
<道路施設諸元データフォルダ名>SYOGEN</道路施設諸元データフォルダ名>
<道路施設諸元データフォルダ日本語名>道路施設諸元データフォルダ名</道路施設諸元データフォルダ日本語名>
</道路施設諸元データフォルダ情報>
<工事の概要>
<概要>〇〇に関する工事</概要>
<供用未供用の別>供用</供用未供用の別>
<供用予定>
<供用年>2009</供用年>
<供用月>1</供用月>
</供用予定>
</工事の概要>
<データ作成基礎情報>
<データ作成者>
<請負会社>
<現場代理人>×× ××</現場代理人>
<主任技術者>〇〇 〇〇</主任技術者>
<連絡先>
<TEL>0999-99-9999</TEL>
<FAX>0999-99-1111</FAX>
<E-Mail>〇〇〇@〇〇.jp</E-Mail>
</連絡先>
</請負会社>
<監督職員>
<監督部署>■ ■ ■ ■</監督部署>
<主任監督員>△△ △△</主任監督員>
<監督員>☆☆ ☆☆</監督員>
</監督職員>
<発注担当課長>□□ □□</発注担当課長>
</データ作成者>
<データ作成対象施設>
<道路施設種別>D010</道路施設種別>
</データ作成対象施設>
</データ作成基礎情報>
<道路施設諸元サブフォルダ情報>
<道路施設諸元サブフォルダ名>D010</道路施設諸元サブフォルダ名>
<道路施設諸元サブフォルダ日本語名>D010</道路施設諸元サブフォルダ日本語名>
<個別道路施設諸元サブフォルダ>
<個別道路施設諸元サブフォルダ名>D01001</個別道路施設諸元サブフォルダ名>
<個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名>D01001</個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名>
<道路施設情報>
<道路施設名称>●●橋梁</道路施設名称>
<工事区分>改良</工事区分>
</道路施設情報>
<道路施設基本データ詳細情報>
<道路施設基本データファイル名>D01001.CSV</道路施設基本データファイル名>
</道路施設基本データ詳細情報>
<図面フォルダ>
<図面フォルダ名>S_DRAW</図面フォルダ名>
<図面フォルダ日本語名>図面フォルダ</図面フォルダ日本語名>
<図面ファイル名>D0100101.P21</図面ファイル名>
</図面フォルダ>
<写真フォルダ>
<写真フォルダ名>S_PHOTO</写真フォルダ名>
<写真フォルダ日本語名>写真フォルダ</写真フォルダ日本語名>
<写真ファイル名>D0100101.JPG</写真ファイル名>
</写真フォルダ>
</個別道路施設諸元サブフォルダ>
</道路施設諸元サブフォルダ情報>
<備考>
</orgdata>

```

道路施設が複数ある場合は、必要な回数繰り返す。下記例
 <道路施設種別>D010</道路施設種別>
 <道路施設種別>E010</道路施設種別>
 <道路施設種別>E050</道路施設種別>

詳細情報が複数ある場合は、必要な回数繰り返す。

2) 道路施設基本データ管理ファイルの DTD

道路施設基本データの管理ファイルの DTD を作成する。

①道路施設基本データ管理ファイルの DTD 作成例

道路施設基本データ管理ファイルの DTD 作成例を次に示す。

```
<!--ORG99901_01.DTD / 2005/03 -->
<ELEMENT orgdata (道路施設諸元データフォルダ情報,工事の概要,データ作成基礎情報, 道路施設諸元サブフォルダ情報+,備考)
<!ATTLIST orgdata DTD_version CDATA #FIXED "01">

<!--*****>
<!--          道路施設諸元データフォルダ情報          -->
<!--*****>
<ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ情報 (道路施設諸元データフォルダ名,道路施設諸元データフォルダ日本語名)>
<ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ日本語名 (#PCDATA)>

<!--*****>
<!--          工事の概要          -->
<!--*****>
<ELEMENT 工事の概要 (概要, 供用未供用の別, 供用予定?)>
<ELEMENT 概要 (#PCDATA)>
<ELEMENT 供用未供用の別 (#PCDATA)>
<ELEMENT 供用予定 (供用年, 供用月)>
<ELEMENT 供用年 (#PCDATA)>
<ELEMENT 供用月 (#PCDATA)>

<!--*****>
<!--          データ作成基礎情報          -->
<!--*****>
<ELEMENT データ作成基礎情報 (データ作成者, データ作成対象施設)>
<ELEMENT データ作成者 (請負会社, 監督職員, 発注担当課長)>
<ELEMENT 請負会社 (現場代理人, 主任技術者, 連絡先)>
<ELEMENT 現場代理人 (#PCDATA)>
<ELEMENT 主任技術者 (#PCDATA)>
<ELEMENT 連絡先 (TEL, FAX, E-Mail)>
<ELEMENT TEL (#PCDATA)>
<ELEMENT FAX (#PCDATA)>
<ELEMENT E-Mail (#PCDATA)>
<ELEMENT 監督職員 (監督部署, 主任監督員, 監督員)>
<ELEMENT 監督部署 (#PCDATA)>
<ELEMENT 主任監督員 (#PCDATA)>
<ELEMENT 監督員 (#PCDATA)>
<ELEMENT 発注担当課長 (#PCDATA)>
<ELEMENT データ作成対象施設 (道路施設種別+)>
<ELEMENT 道路施設種別 (#PCDATA)>

<!--*****>
<!--          道路施設諸元サブフォルダ情報          -->
<!--*****>
<ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ情報 (道路施設諸元サブフォルダ名+,道路施設諸元サブフォルダ日本語名+,個別道路施設諸元サブフォルダ+)>
<ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ (個別道路施設諸元サブフォルダ名, 個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名,道路施設情報,道路施設基本データ詳細情報,図面フォルダ*,写真フォルダ*)>
<ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設情報 (道路施設名称,工事区分)>
<ELEMENT 道路施設名称 (#PCDATA)>
<ELEMENT 工事区分 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設基本データ詳細情報 (道路施設基本データファイル名+)>
<ELEMENT 道路施設基本データファイル名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 図面フォルダ (図面フォルダ名,図面フォルダ日本語名, 図面ファイル名+)>
<ELEMENT 図面フォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 図面フォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 図面ファイル名 (#PCDATA)>
```



```
<!ELEMENT 写真フォルダ (写真フォルダ名,写真フォルダ日本語名, 写真ファイル名+)>
<!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          備考          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 備考 (#PCDATA)>
```

(3) 道路施設諸元データ（中国版）管理ファイルのXML入力項目、ファイル命名規則及びDTD

1) 道路施設諸元データ（中国版）管理ファイルのXML入力項目

中国地方整備局版の道路施設基本データを格納する SYOGEN_0 フォルダを「ORG999」フォルダの下に作成する。

道路施設基本データ（中国版）の管理ファイルとして「S_0999.XML」を作成し、「SYOGEN_0」フォルダに格納する。また、「S_0999.XML」のデータ構造を示す「S_099901.DTD」を用意する。

①SYOGEN_0 以下のフォルダ・ファイル構成

道路施設基本データを格納する「SYOGEN_0」フォルダ・ファイルの構成、ファイル命名規則を下表に示す。

表 1 3 「SYOGEN_0」フォルダ・ファイルの構成、ファイル命名規則

構成	名称/拡張子	解説
道路施設諸元データフォルダ (中国版)	SYOGEN_0	中国版の各種道路施設の諸元データは、「SYOGEN_0」フォルダに工種毎(施設毎)のサブフォルダを設けて格納する。サブフォルダは、工事内容に応じて関連するフォルダのみを作成するものとする。
道路施設基本データ管理ファイル (中国版)	S_0999.XML 拡張子:.xml	「道路施設基本データ管理ファイル」(中国版)は、道路施設諸元データフォルダ(中国版) [SYOGEN_0]の内容を表したXML文書である。なお、「S_099901.DTD」もこのフォルダに格納するものとする。
道路施設諸元サブフォルダ	例:D010	道路施設の諸元データは、施設諸元サブフォルダに格納する。施設諸元サブフォルダは、道路施設の種類毎に作成し、フォルダ名称は施設番号に合わせる。
個別道路施設諸元サブフォルダ	例:D010ii *「ii」は連番(施設数分)	道路施設の道路施設基本データ詳細情報、道路施設一般図、現況写真は、個別道路施設諸元サブフォルダに格納する。個別道路施設諸元サブフォルダは、道路施設基本データの作成施設単位毎に作成し、フォルダ名称は、道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「ii」 ^{※1} を付けたものとする。
道路施設基本データ詳細情報ファイル(中国版)	例:D010ii.CSV 拡張子:.csv *「ii」は個別道路施設諸元サブフォルダと合わせる。	中国版の道路施設基本データ詳細情報ファイルを格納する。ファイル名称は道路施設基本データ詳細情報番号(D010、D011、D012など)に連番「ii」 ^{※1} を付けたものとする。
道路施設一般図フォルダ	例:S_DRAW	施設の一般図ファイルは、道路施設一般図フォルダに格納する。道路施設一般図フォルダは、一般図が必要な施設のみ作成する。
道路施設一般図ファイル	例:D010iiij.JPG、 D010iiij.P21 拡張子:.jpg、p21 *「ij」は連番(イメージファイル数分)	ファイル名称は個別道路施設諸元サブフォルダの名称に連番「ij」 ^{※2} を付けたものとする。
道路施設現況写真フォルダ	S_PHOTO	現況写真ファイルは、道路施設現況写真フォルダに格納する。道路施設現況写真フォルダは、現況写真が必要な施設のみ作成する。
現況写真ファイル	例:D010iiij.JPG 拡張子:.jpg	ファイル名称は個別道路施設諸元サブフォルダの名称に「ij」 ^{※2} を付けたものとする。

※1:連番が10を超える場合は、アルファベット(半角大文字)および数字(半角)を用いる。具体的には、01・02・・・09・0A・・・0Z・10・11・・・1Z・20・・・となる。(最大はZZ)

※2:連番が100を超える場合は、アルファベット(半角大文字)及び数字(半角)を用いる。

例、100～109の場合はA0～A9、110～119の場合はB0～B9、120～129の場合はC0～C9、とする

②道路施設諸元データ（中国版）管理ファイルの入力項目

電子成果品の道路施設基本データ管理ファイル「S_0999.XML」の入力項目及び入力例を下表に示す。但し、個人情報保護法上の問題が生じる項目については入力を省略してもよい。

表 1 4 道路施設基本データ管理ファイル「S_0999.XML」

カテゴリ	入力項目		データ形式	入力例	必要度	
道路施設諸元データフォルダ情報	道路施設諸元データフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	SYOGEN_O	◎	
	道路施設諸元データフォルダ日本語名(固定)		全角文字 14 文字	道路施設諸元データフォルダ名	◎	
工事の概要	概要		全角文字,半角英数字 127 文字	〇〇に関する工事	◎	
	供月未供用の別		全角文字 3 文字	供用	◎	
	供用予定	供用年	半角英数字 4 文字	2009	◎	
供用月		半角英数字 2 文字	1	◎		
データ作成基礎情報	データ作成者	請負会社	現場代理人	全角文字,半角英数字 127 文字	×× ××	△
			主任技術者	全角文字,半角英数字 127 文字	〇〇 〇〇	△
			連絡先	TEL	半角英数字 12 文字	0999-99-9999
		FAX		半角英数字 12 文字	0999-99-1111	△
		E-Mail		半角英数字 127 文字	〇〇〇@〇〇.jp	△
		監督職員	監督部署	全角文字,半角英数字 127 文字	■■ ■■	△
	主任監督員		全角文字,半角英数字 127 文字	△△ △△	△	
	監督員		全角文字,半角英数字 127 文字	☆☆ ☆☆	△	
	発注担当課長	全角文字,半角英数字 127 文字	□□ □□	△		
	データ作成対象施設	道路施設種別 ※1※2	半角英数字大文字 4 文字	D010	◎	
道路施設諸元サブフォルダ情報 ※1	道路施設諸元サブフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	D010	◎	
	道路施設諸元サブフォルダ日本語名		半角英数字大文字 127 文字	D010	◎	
	個別道路施設諸元サブフォルダ ※1	個別道路施設諸元サブフォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	D01001	◎
		個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名 ※3		半角英数字大文字 127 文字	D01001	◎
	道路施設情報	道路施設名称	全角文字,半角英数字 127 文字	●●橋	◎	
		工事区分 ※4	全角文字 2 文字	改良	◎	
	道路施設基本データ詳細情報	道路基本データファイル名 ※1	半角英数字大文字 127 文字	D01001.CSV	◎	
	図面フォルダ	図面フォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	S_DRAW	◎
		図面フォルダ日本語名(固定)		全角文字 6 文字	図面フォルダ	◎
		図面ファイル名 ※1		半角英数字大文字 127 文字	D0100101.P21	◎
	写真フォルダ	写真フォルダ名		半角英数字大文字 127 文字	S_PHOTO	◎
写真フォルダ日本語名(固定)		全角文字 6 文字	写真フォルダ	◎		
写真ファイル名 ※1		半角英数字大文字 127 文字	D0100101.JPG	◎		

凡例 ◎:必須記入 △:任意記入

※1:複数存在する場合には、その項目を必要な回数繰り返す。

※2:道路施設種別は、施設名に対応する施設番号とする。

※3:個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名は、サブフォルダ名称とする。

※4:工事区分は、「新設」、「改良」、「撤去」のいずれかとする。

③道路施設基本データ管理ファイルの出力例

道路施設基本データ管理ファイルの出力例を以下に示す。

```

<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<!DOCTYPE orgdataSYSTEM "S_O99901.DTD">
<orgdataDTD_version="01">
<道路施設諸元データフォルダ情報>
<道路施設諸元データフォルダ名>SYOGEN_O</道路施設諸元データフォルダ名>
<道路施設諸元データフォルダ日本語名>道路施設諸元データフォルダ名</道路施設諸元データフォルダ日本語名>
</道路施設諸元データフォルダ情報>
<工事の概要>
<概要>〇〇に関する工事</概要>
<供用未供用の別>供用</供用未供用の別>
<供用予定>
<供用年>2009</供用年>
<供用月>1</供用月>
</供用予定>
</工事の概要>
<データ作成基礎情報>
<データ作成者>
<請負会社>
<現場代理人>×× ××</現場代理人>
<主任技術者>〇〇 〇〇</主任技術者>
<連絡先>
<TEL>0999-99-9999</TEL>
<FAX>0999-99-1111</FAX>
<E-Mail>〇〇〇@〇〇.jp</E-Mail>
</連絡先>
</請負会社>
<監督職員>
<監督部署>■■ ■■</監督部署>
<主任監督員>△△ △△</主任監督員>
<監督員>☆☆ ☆☆</監督員>
</監督職員>
<発注担当課長>□□ □□</発注担当課長>
</データ作成者>
<データ作成対象施設>
<道路施設種別>D010</道路施設種別>
</データ作成対象施設>
</データ作成基礎情報>
<道路施設諸元サブフォルダ情報>
<道路施設諸元サブフォルダ名>D010</道路施設諸元サブフォルダ名>
<道路施設諸元サブフォルダ日本語名>D010</道路施設諸元サブフォルダ日本語名>
<個別道路施設諸元サブフォルダ>
<個別道路施設諸元サブフォルダ名>D01001</個別道路施設諸元サブフォルダ名>
<個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名>D01001</個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名>
<道路施設情報>
<道路施設名称>●●橋梁</道路施設名称>
<工事区分>改良</工事区分>
</道路施設情報>
<道路施設基本データ詳細情報>
<道路施設基本データファイル名>D01001.CSV</道路施設基本データファイル名>
</道路施設基本データ詳細情報>
<図面フォルダ>
<図面フォルダ名>S_DRAW</図面フォルダ名>
<図面フォルダ日本語名>図面フォルダ</図面フォルダ日本語名>
<図面ファイル名>D0100101.P21</図面ファイル名>
</図面フォルダ>
<写真フォルダ>
<写真フォルダ名>S_PHOTO</写真フォルダ名>
<写真フォルダ日本語名>写真フォルダ</写真フォルダ日本語名>
<写真ファイル名>D0100101.JPG</写真ファイル名>
</写真フォルダ>
</個別道路施設諸元サブフォルダ>
</道路施設諸元サブフォルダ情報>
<備考>
</orgdata>

```

•ORG999.XML とほぼ同様の内容であるが、網掛け部が変更されている点に注意。
 •表1に示すように、全国共通整備情報と中国整備情報で該当する施設、詳細情報が異なるため、下記枠内の
 <道路施設種別>、
 <個別道路施設諸元サブフォルダ>
 が異なる場合がありますので注意する。

道路施設(表1)が複数ある場合は、必要な回数繰り返す。下記例
 <道路施設種別>D010</道路施設種別>
 <道路施設種別>E010</道路施設種別>
 <道路施設種別>E050</道路施設種別>

詳細情報(表1)が複数ある場合は、必要な回数繰り返す。

2) 道路施設基本データ管理ファイルの DTD

道路施設基本データの管理ファイルの DTD を作成する。

•ORG99901.DTD とほぼ同様の内容であるが、網掛け部が変更されている点に注意。

①道路施設基本データ管理ファイルの DTD 作成例

道路施設基本データ管理ファイルの DTD 作成例を次に示す。

```
<!--S_O99901.DTD / 2005/03 -->
<ELEMENT orgdata (道路施設諸元データフォルダ情報,工事の概要,データ作成基礎情報, 道路施設諸元サブフォルダ情報+,備考)
<!ATTLIST orgdata DTD_version CDATA #FIXED "01">

<!--*****>
<!--          道路施設諸元データフォルダ情報          -->
<!--*****>
<ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ情報 (道路施設諸元データフォルダ名,道路施設諸元データフォルダ日本語名)>
<ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設諸元データフォルダ日本語名 (#PCDATA)>

<!--*****>
<!--          工事の概要          -->
<!--*****>
<ELEMENT 工事の概要 (概要, 供用未供用の別, 供用予定?)>
<ELEMENT 概要 (#PCDATA)>
<ELEMENT 供用未供用の別 (#PCDATA)>
<ELEMENT 供用予定 (供用年, 供用月)>
<ELEMENT 供用年 (#PCDATA)>
<ELEMENT 供用月 (#PCDATA)>

<!--*****>
<!--          データ作成基礎情報          -->
<!--*****>
<ELEMENT データ作成基礎情報 (データ作成者, データ作成対象施設)>
<ELEMENT データ作成者 (請負会社, 監督職員, 発注担当課長)>
<ELEMENT 請負会社 (現場代理人, 主任技術者, 連絡先)>
<ELEMENT 現場代理人 (#PCDATA)>
<ELEMENT 主任技術者 (#PCDATA)>
<ELEMENT 連絡先 (TEL, FAX, E-Mail)>
<ELEMENT TEL (#PCDATA)>
<ELEMENT FAX (#PCDATA)>
<ELEMENT E-Mail (#PCDATA)>
<ELEMENT 監督職員 (監督部署, 主任監督員, 監督員)>
<ELEMENT 監督部署 (#PCDATA)>
<ELEMENT 主任監督員 (#PCDATA)>
<ELEMENT 監督員 (#PCDATA)>
<ELEMENT 発注担当課長 (#PCDATA)>
<ELEMENT データ作成対象施設 (道路施設種別+)>
<ELEMENT 道路施設種別 (#PCDATA)>

<!--*****>
<!--          道路施設諸元サブフォルダ情報          -->
<!--*****>
<ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ情報 (道路施設諸元サブフォルダ名+,道路施設諸元サブフォルダ日本語名+,個別道路施設諸元サブフォルダ+)>
<ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設諸元サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ (個別道路施設諸元サブフォルダ名, 個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名,道路施設情報,道路施設基本データ詳細情報,図面フォルダ*,写真フォルダ*)>
<ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 個別道路施設諸元サブフォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設情報 (道路施設名称,工事区分)>
<ELEMENT 道路施設名称 (#PCDATA)>
<ELEMENT 工事区分 (#PCDATA)>
<ELEMENT 道路施設基本データ詳細情報 (道路施設基本データファイル名+)>
<ELEMENT 道路施設基本データファイル名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 図面フォルダ (図面フォルダ名,図面フォルダ日本語名, 図面ファイル名+)>
<ELEMENT 図面フォルダ名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 図面フォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<ELEMENT 図面ファイル名 (#PCDATA)>
```

```

<!ELEMENT 写真フォルダ (写真フォルダ名,写真フォルダ日本語名, 写真ファイル名+)>
<!ELEMENT 写真フォルダ名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真フォルダ日本語名 (#PCDATA)>
<!ELEMENT 写真ファイル名 (#PCDATA)>

<!--*****-->
<!--          備考          -->
<!--*****-->
<!ELEMENT 備考 (#PCDATA)>

```

道路施設基本データを電子成果品に格納する際の留意点

既に作成済みの電子納品成果に、審査合格後の道路施設基本データを追記する場合は、作成済みの電子納品成果の管理ファイル等を上書きしないよう注意する。下記に追記の場合の例を示す。

例1. 既に作成済みの工事管理ファイルへの追記

既に電子納品成果で作成された工事管理ファイル「INDEX.C.XML」に道路施設基本データを追記する場合は、本資料 4.7 (1) 1) に示す網掛け部のみを追記する必要がある。また、関連する DTD にも追記する。

例2. 既に作成済みのその他管理ファイルへの追記

既に電子納品成果で作成されたその他管理ファイル「OTHERS.XML」に道路施設基本データを追記する場合は、本資料 4.7 (1) 2) に示す網掛け部のみを追記する必要がある。また、関連する DTD にも追記する。

例3. 既に作成済みの ORG999 フォルダ以下のファイル類の追記

既に電子納品成果で作成された ORG999 フォルダ以下のファイル類がある場合は、上書きしないよう注意する。

4.9. 道路施設基本データのチェック

道路施設基本データのチェックは、「道路施設基本データのチェック」項目・内容に従い、プログラムによるチェックと目視等によるチェックを行った後、監督職員にデータを提出し審査を受けるものとする。

(1) 道路施設基本データのチェック

取得した道路工事完成図等チェックプログラムに含まれる道路施設基本データチェックプログラムを用い、出力した道路施設基本データのチェックを行う。

エラーがなかった場合、「チェック結果：合格」と記載されたチェックプログラム結果記録が得られる。(下記参照)

<p>チェック結果総括</p> <p>発注年度： 工事番号： 工事名称： 発注者：国土交通省 ○○地方整備局 ○○事務所 請負者：</p>	
<p>-----</p> <p>完成平面図データのチェック結果：【チェックを行いませんでした】 ※完成平面図を作成しない工事の場合は合格となります。</p> <p>-----</p>	
<p>道路施設基本データのチェック結果：合格 【エラー】 0件 (【確認】 0件)</p> <p>-----</p>	

目視等によるチェックは、作成データの過不足や、入力の違い等の有無について、下表に示す方法により品質評価を実施する。

表15 道路施設基本データのチェック項目・内容

項目	対象	内容
プログラムによる チェック	詳細情報	<ul style="list-style-type: none"> 道路工事完成図等チェックプログラムによるチェックに合格(エラー件数:0)したか? 参考:プログラムによるチェック内容 <ul style="list-style-type: none"> 管理ファイルの記述 フォルダ構成 ファイル名称 入力桁数の妥当性 必須入力の有無
目視等による チェック	データの過不足、 妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 必要な施設のデータを作成しているか? 必要な施設数分のデータを作成しているか? 詳細情報(.csv)、必要な一般図・現況写真、位置図(.jpg、.pdf)を作成しているか? 詳細情報、図面、現況写真の整合は取れているか?
	全体	<ul style="list-style-type: none"> ファイル形式は適切か? 新規データ:必要な項目の作成漏れがないか? 変更データ:変更すべき部分のみを修正しているか? 設置位置(距離標等)が施設平面図上の位置と合っているか? 距離標の自・至が逆転していないか? 要領に従った作成単位で作成しているか?
	詳細情報	<ul style="list-style-type: none"> ファイル形式は適切か? 図面に記載されている数値など判別できるか? 位置図に必要なタイトル情報、施設位置の旗揚げ、必要な旗揚げ情報を記載しているか? 写真の撮影方法は適切か? 写真表示精度に問題はないか?(ピンボケなど)
	イメージデータ	<ul style="list-style-type: none"> ファイル形式は適切か? 図面に記載されている数値など判別できるか? 位置図に必要なタイトル情報、施設位置の旗揚げ、必要な旗揚げ情報を記載しているか? 写真の撮影方法は適切か? 写真表示精度に問題はないか?(ピンボケなど)

4.10. 道路施設基本データの審査及び審査結果の電子媒体への格納

完成検査前に、紙書類、電子データを監督職員へ提出し審査を受ける。チェックシートは監督職員が作成し、審査の結果、データに不備がある場合は修正して再提出する。提出データに不備がない場合は、監督職員が署名・捺印したチェックシート（付録資料2参照）をスキヤニング（PDF形式）して電子納品媒体に格納する。道路施設基本データを格納するフォルダ構成と、チェックシートファイル（PDF形式）の格納先フォルダを下記に示す。

チェックシートのファイル名は、「check_st.PDF」とする。

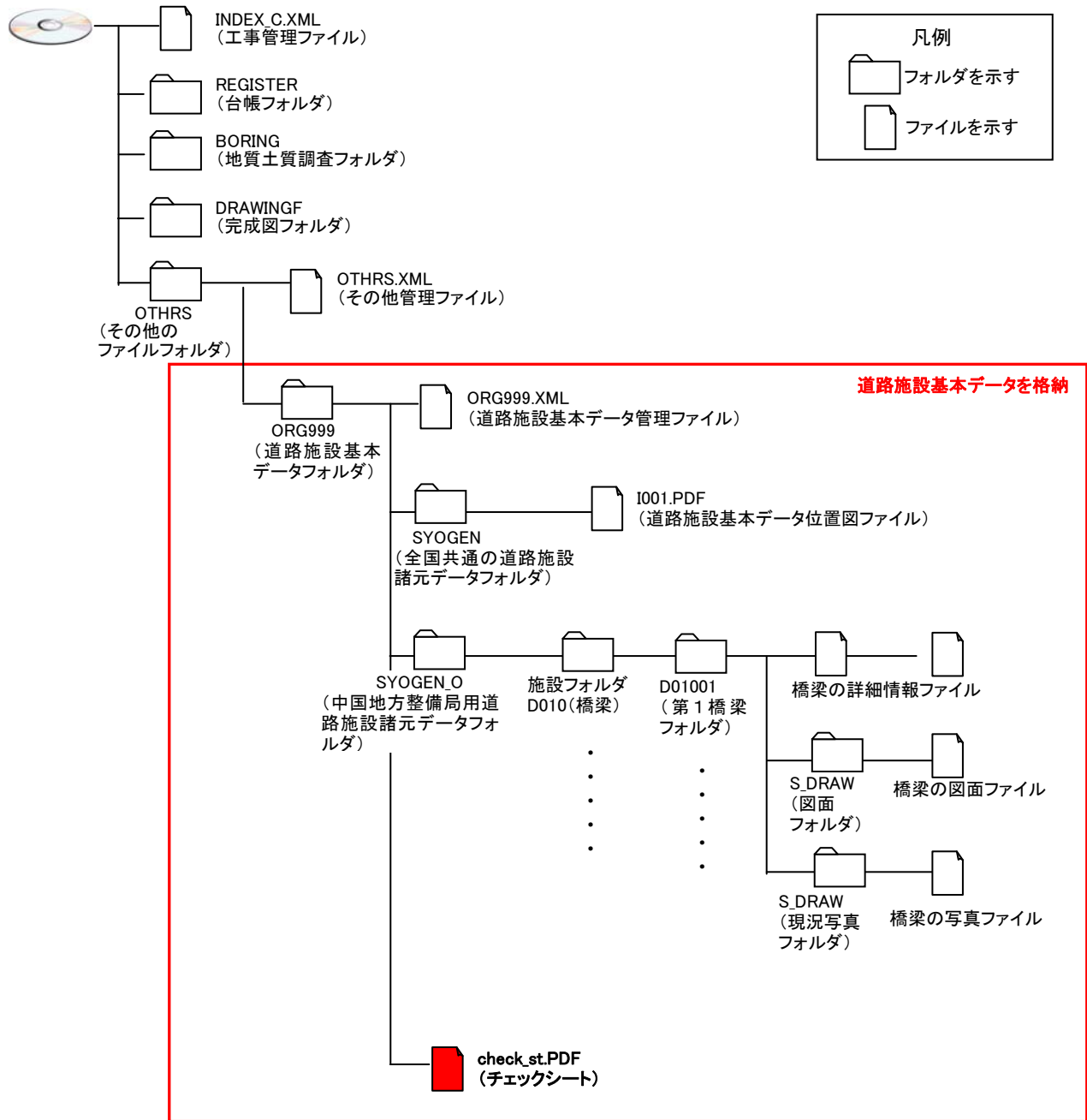


図5 監督職員のチェックシート格納先

5. 問い合わせ

道路施設基本データ作成時に疑問点等が生じ、監督職員にFAX及びE-mail等にて質問を行う場合には、以下に示す「問い合わせ・Q&A（記入用紙）」を使用する。

問い合わせ・Q&A(記入用紙)				
工事 施 工 者 質 問	発注事務所		工事名	
	施工業者名		質問方法	TEL・FAX・E-MAIL
	質問者		質問日	. . .
内 容				
工事 監 督 職 員 回 答	回答者		回答日	

付録資料 1

道路施設基本データ作成に関する留意事項（案）
（受注者用）

目 次

1. 目的	1
2. 道路施設基本データの作成フロー	2
3. 道路施設基本データの作成施設の確認	3
4. 道路施設基本データ作成時の留意事項	4
4-1 数値・文字に関する留意事項	4
4-2 イメージデータに関する留意事項	4
5. データ作成後に確認すべき事項	5
5-1 チェックプログラム結果の提出	5
5-2 紙書類の提出	6
5-2-1 道路施設基本データ総括表の確認	6
5-2-2 道路施設基本データ一覧表と道路施設基本データ位置図の確認	7
5-2-3 道路施設基本データ詳細表の確認	8
5-3 道路施設基本データの内容確認	9
5-3-1 電子データの内容確認	9
6. 道路施設基本データの審査及び審査結果の電子媒体への格納	10

1. 目的

「道路管理データベースシステム」は、道路施設に関する情報の一元化および共有化、また、道路管理の効率化・高度化を図ることにより、災害時あるいは多様化する道路行政への要望等に迅速かつ適確な対応を図ることを目的としている。

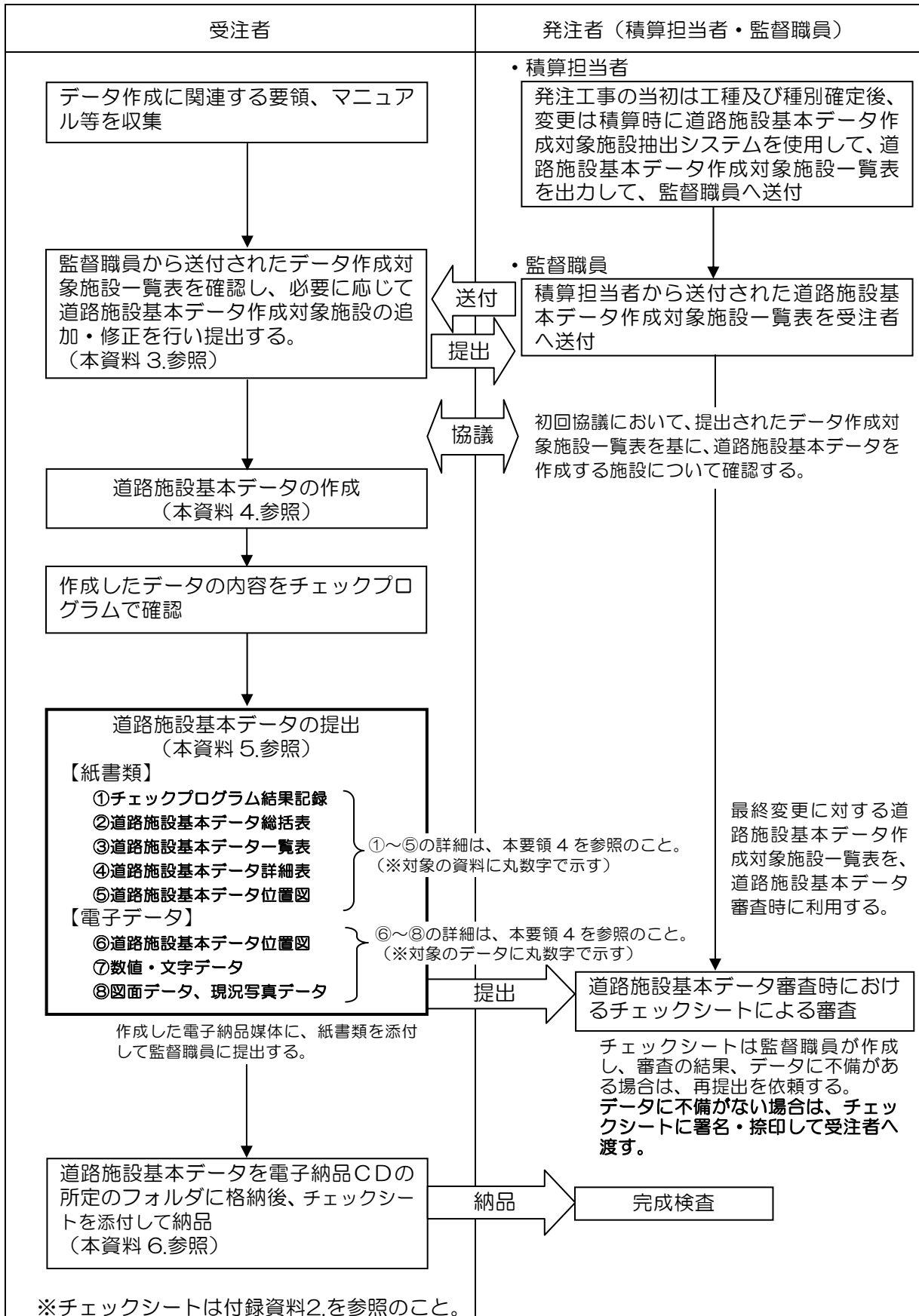
本マニュアルは、受注者が電子納品する「道路施設基本データ※」の作成方法や作成する際に確認すべき事項等を示したものである。

※道路施設基本データは、道路管理データベースシステムへ登録するデータのベースとなる基本データであり、受注者が作成要領、マニュアル等により作成するものである。

2. 道路施設基本データの作成フロー

道路施設基本データの作成における作業フローを以下に示す。

表1 道路施設基本データの作成フロー



3. 道路施設基本データの作成施設の確認

監督職員から送付された道路施設基本データ作成対象施設一覧表の作成対象欄に「○」が付いている施設は、道路施設基本データ作成が必要な可能性がある施設である。

作成対象欄について、次の事項を確認して必要に応じて追記・修正を行った上で、監督職員へ提出する。

- ・「○」の付いている施設が、受注工事で該当しない場合は、「○」を見え消しする。
- ・「○」が付いていない施設で、受注工事で該当する場合は、当該欄に「○」を追記する。

初回協議時及び変更契約時に、上記の道路施設基本データ作成対象施設一覧表を参考に、受発注者間でデータ作成の対象施設であることまたは対象施設の記述漏れが無いことを相互確認する。

【例】道路施設基本データ作成対象施設一覧表

道路施設基本データ作成対象施設一覧表

対象工事	
事務所	山口河川国道事務所
設計書番号	14876015010009
工事名	●●●●●●●●工事
変更回数	0
工期（自）	平成25年4月1日
工期（至）	平成26年3月31日
道路施設基本データ	作成対象
C020 縦断勾配	
C021 パーチカルカーブ	
C030 平面線形	
C060 道路交差点	
C070 鉄道交差点	
C080 歩道及び自転車歩行者道	
C090 独立専用自歩道	
C100 中央帯	
C110 環境施設帯	
D010 橋梁	
D020 橋側歩道橋	
D030 横断歩道橋	
D040 トンネル	
D050 洞門	
D060 スノーシェッド	
D070 地下横断歩道	
D080 道路BOX等	
D090 横断BOX等	
D100 パイプカルバート	
D110 のり面	
D120 擁壁	
E010 防護柵	
E020 道路照明	○
E030 視線誘導標（反射式）	
E040 視線誘導標（自光式）	
E050 道路標識	○
E060 道路情報板	
E070 交通遮断機	

4. 道路施設基本データ作成時の留意事項

4-1 数値・文字に関する留意事項

文字・数値データは、データ作成に関連する要領、マニュアルに準拠し、以下の項目に留意してデータを作成する。

表3 数値・文字に関する留意事項

留意事項
○ 新規施設の場合はデータ区分を「新設」とし、作成すべき全ての項目を入力する。
○ 施設変更の場合はデータ区分を「改良」とし、作成すべき全ての項目を入力する。
○ 施設撤去の場合はデータ区分を「撤去」とし、路線名、距離標、上り下り区分を入力する。
○ 設置位置（距離標、上り下り区分等）の内容を、道路施設基本データ位置図に記載されている位置と整合させる。
○ 距離標の自・至を逆転して入力しない。
○ コード選択項目のコードは、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」の各工種説明を参照し、指定されたコードを入力する。
○ 数値入力項目の桁数・小数の位は、「道路施設基本データ作成入力書式マニュアル」の各工種説明を参照し、正しく入力する。
○ 数値入力項目の入力単位を再確認（mなのかcmなのか等）し、正しく入力する。
○ 文字入力項目の文字数は制限値以内で入力する。

4-2 イメージデータに関する留意事項

「施設一般図」、「現況写真」などのイメージデータは、データ作成に関連する要領、マニュアルに準拠し、以下の項目に留意してデータを作成する。

表4 イメージデータの留意事項

留意事項
施設一般図
○ 施設と道路との位置関係が把握できる一般図を登録する。
○ 道路線形、幅員構成等が把握できる一般図を登録する。
○ 施設の高さ方向や交差状況の寸法等が把握できる断面図が表示されている一般図を登録する。
○ 図面内に記載された文字・数値が判読できる一般図を登録する。
現況写真
○ 完成時の施設全景が鮮明に撮影されている写真を登録する。
○ 施設と道路との位置関係が把握出来る写真を登録する。
○ 工事の黒板や撮影日時の入った写真は登録しない。

5. データ作成後に確認すべき事項

データ作成後に確認すべき事項は、

(1) チェックプログラム結果の内容

所定の工事に対する結果であり、チェックプログラム結果がエラーが0件であること。

(2) 紙書類の内容

作成すべき紙書類やその内容に不具合が無いこと確認して監督職員へ資料を提出する。

(3) 道路施設基本データの内容

作成すべきフォルダやファイルが所定の場所に格納する。

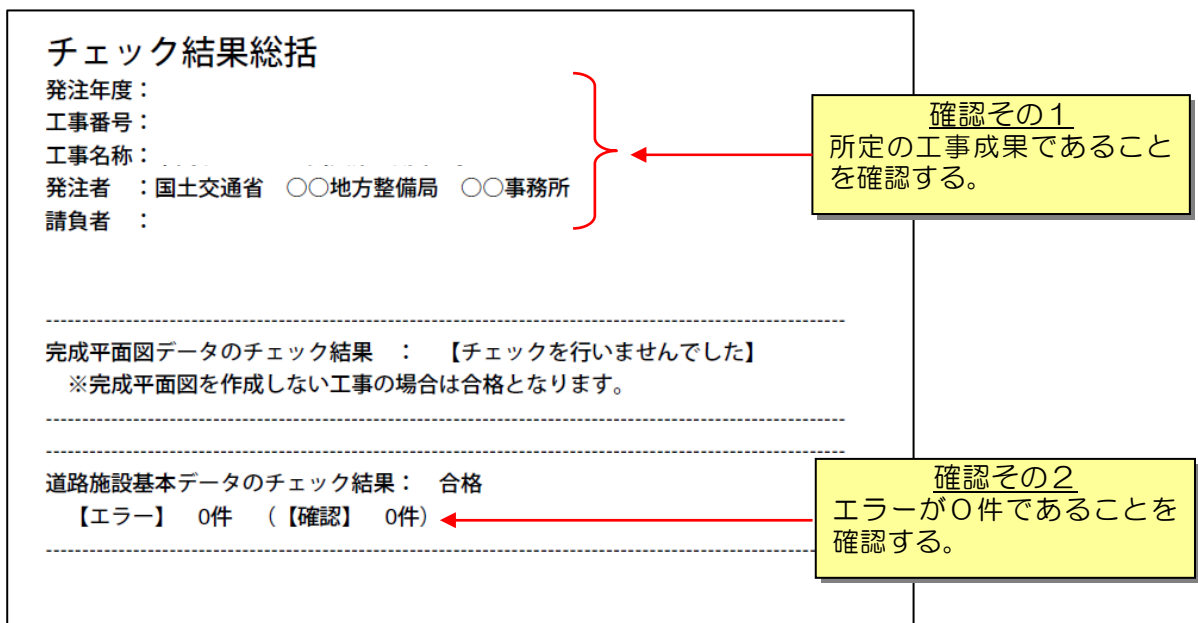
5-1 チェックプログラム結果の提出

作成した道路施設基本データ(電子データ)に対して、チェックプログラムで確認した「チェック結果総括」書類を、エラーが無いことを確認して監督職員へ提出する。

表5 電子データチェック時のエラーの確認

確認内容
○工事番号、工事名称を確認する
○「道路工事完成図等チェックプログラム」でエラーが0件であること。

①チェックプログラム結果記録



5-2 紙書類の提出

道路施設基本データ作成システムで出力される「道路施設基本データ総括表」、「道路施設基本データ一覧表」、「道路施設基本データ詳細表」および「道路施設基本データ位置図」の整合性等を確認して監督職員へ提出する。

表6 紙書類の有無及び内容の確認

確認内容	
② 道路施設基本データ総括表の有無：作成施設の施設名、数量の確認（3-2-1 参照）	
③ 道路施設基本データ一覧表の有無	位置図番号、施設番号の整合性（3-2-2 参照）
⑤ 道路施設基本データ位置図の有無	
④ 道路施設基本データ詳細表の有無（3-2-3 参照）	

5-2-1 道路施設基本データ総括表の確認

道路施設基本データ総括表の内容を参照し、工事に関する情報と作成した道路施設基本データの内訳として、道路施設の施設名、施設数を確認する。

②道路施設基本データ総括表

工事年度	年度		
工事件名			
発注者名		工事番号	
工事	会社名		
請負者	現場代理人	TEL.	

作成施設情報内訳				備考
施設名	施設数			
	新設	改良	撤去	計
横断BOX等(基本諸元)		2		2
横断BOX等(補修歴)	2			2
パイプカルバート(基本諸元)	6			6
のり面・斜面(基本諸元)	8			8
擁壁(基本諸元)	8			8
防護柵(基本諸元)	1			1
道路照明(基本諸元)	2			2

確認その1

作成した施設名を確認する。

確認その2

作成した施設数を確認する。

5-2-2 道路施設基本データ一覧表と道路施設基本データ位置図の確認

道路施設基本データ一覧表、道路施設基本データ位置図の有無を確認し、両資料ともある場合は、全ての施設について、道路施設基本データ一覧表の位置図番号、施設番号と道路施設基本データ位置図に表記されている位置図番号、施設番号との整合性を確認する。

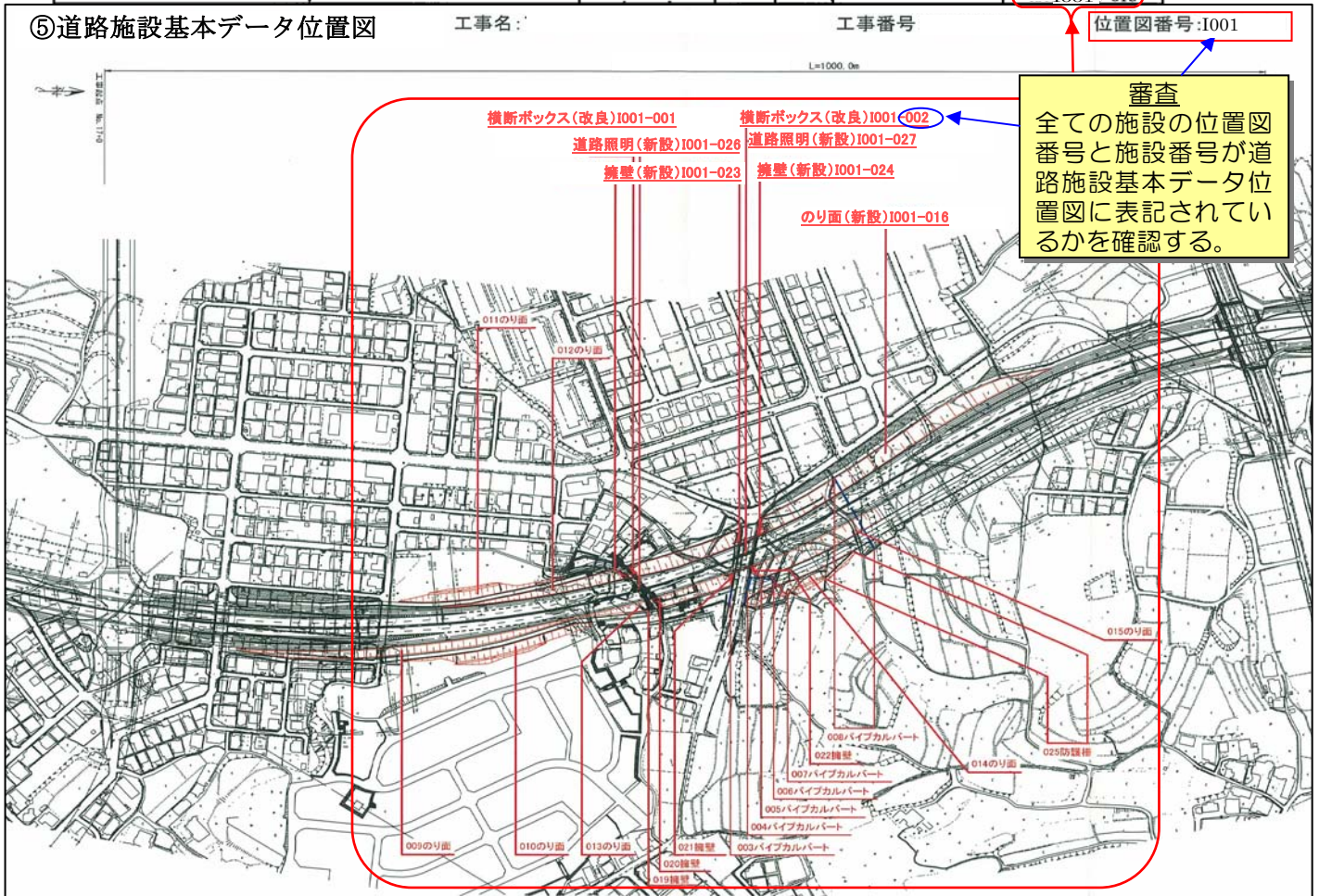
③道路施設基本データ一覧表

施設名	工事名: 名称	データ区分		路線名	現旧区分	施工区間 (距離標または測点)	施設 対応番号	
		新設	改良					撤去
横断BOX等(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	21.0kp+38m	I001-002
横断BOX等(補修歴)		○			191	新道		I001-002
横断BOX等(基本諸元)	山口県下関市	○	○		191	新道	21.0kp+38m	I001-001
横断BOX等(補修歴)		○			191	新道		I001-001
パイプカルバート(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	21.0kp+99m	I001-003
パイプカルバート(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+10m	I001-004
パイプカルバート(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+24m	I001-005
パイプカルバート(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+38m	I001-007
パイプカルバート(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+38m	I001-006
パイプカルバート(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	23.0kp+20m	I001-008
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	18.0kp+08m	I001-009
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	19.0kp+40m	I001-011
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	19.0kp+40m	I001-010
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	19.0kp+75m	I001-012
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	20.0kp+82m	I001-013
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+09m	I001-014
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+29m	I001-015
のり面・斜面(基本諸元)	山口県下関市	○			191	新道	22.0kp+48m	I001-016

位置図番号

施設番号

⑤道路施設基本データ位置図



工事番号

位置図番号:I001

審査

全ての施設の位置図番号と施設番号が道路施設基本データ位置図に表記されているかを確認する。

5-2-3 道路施設基本データ詳細表の確認

道路施設基本データ詳細表の内容を参照し、道路施設基本データ総括表に示された施設数分の詳細表の有無を確認する。

④道路施設基本データ詳細表

		擁壁(基本諸元)詳細表		} ← 確認 道路施設基本データ詳細表 が有るかを確認する。
		パイプカルバート(基本諸元)詳細表		
		横断BOX等(基本諸元)詳細表		
2007年度		工事番号:		
NO	項目名	入力欄	単位	
1	工事番号			
2	データ区分	2 改良		
3	施設対応番号	I001-001		
4	路線番号	0191		
5	現旧区分	3 新道		
6	名称			
7	百米標又は測点	21	km	
8	百米標又は測点からの距離	38	m	
9	施設完成年度	2007	西暦	
10	施設改修年度	2008	西暦	
11	完成年月	200803	西暦	
12	上り下り区分	0 上下線共通		
13	所在地			
14	設置区分	3 車道+自歩道併用		
15	構造形式種別	1 一連ボックスカルバート		
16	工場製品場所打別	? ?		
17	延長	?	m	
18	内空幅	?	m	
19	内空高	?	m	
20	最大土被り	?	m	
21	最小土被り	?	m	
22	基礎種類	? ?		
23	基礎本数	?	本	
24	基礎杭径	?	m	
25	舗装種別	3 アスファルト系		
26	舗装厚	?	cm	
27	舗装面積	?	m ²	
28	通学路指定有無	? ?		
29	通学路指定年月日	?	西暦	
30	管理協定有無	? ?		
31	協定年月日	?	西暦	
32	協定先名	?		
33	照明有無	1 有り		
34	ロードヒート有無	? ?		
35	備考1	*		
36	備考2	*		
37	備考3	*		

※ データが変更された場合、項目名の横に「*」が表示されます。

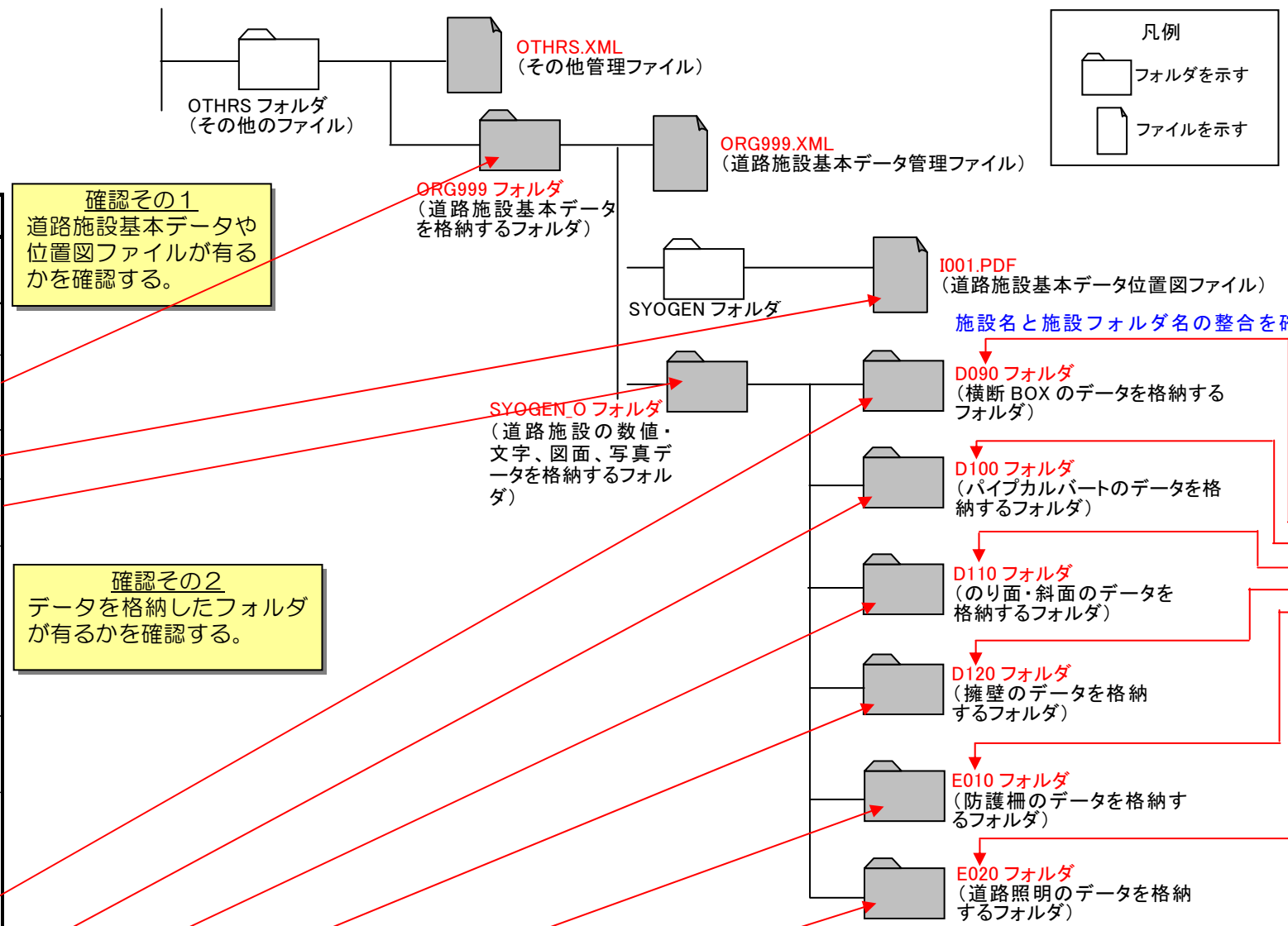
5-3 道路施設基本データの内容確認

5-3-1 電子データの内容確認

以下の電子データのフォルダ及びファイルの内容を確認する。また、施設名と道路施設基本データ総括表の施設名とフォルダ名の整合を確認する。

- ⑥道路施設基本データ位置図
- ⑦数値・文字データ
- ⑧図面データ、現況写真データ

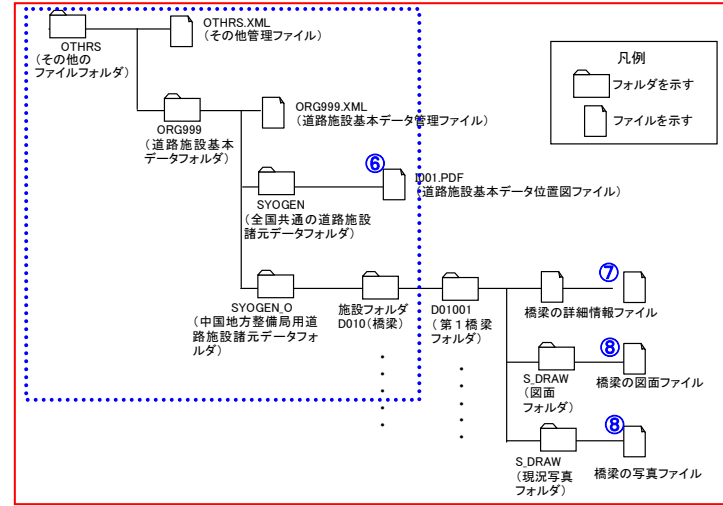
確認内容																																							
○.所定のフォルダやデータが要領に準拠して作成されているか。																																							
確認先：電子納品媒体の OTHRS フォルダ																																							
・ ORG999 (道路施設基本データフォルダ) の有無																																							
・ IOO1.PDF (道路施設基本データ位置図ファイル) の有無																																							
・ SYOGEN_O (道路施設諸元データフォルダ) の有無																																							
・ 道路施設ごとのデータフォルダの有無 ⇒ 道路施設基本データ総括表の施設名を基に、右記の作成対象道路施設一覧表に示す施設フォルダ名に該当するフォルダの有無を確認																																							
・ 道路施設ごとのデータフォルダ名称の整合性を確認																																							
<p>道路施設基本データ総括表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事年度</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td>工事件名</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>発注者名</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>工事会社名</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>請負者現場代理人</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th colspan="2">施設数</th> </tr> <tr> <th>新設</th> <th>改良</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横断BOX等(基本諸元)</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>横断BOX等(補修歴)</td> <td>2</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>パイプカルパート(基本諸元)</td> <td>6</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>のり面・斜面(基本諸元)</td> <td>8</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>擁壁(基本諸元)</td> <td>8</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>防護柵(基本諸元)</td> <td>1</td> <td> </td> </tr> <tr> <td>道路照明(基本諸元)</td> <td>2</td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>※本例の場合は、6種類の施設</p>		工事年度	年度			工事件名		発注者名		工事会社名		請負者現場代理人		施設名	施設数		新設	改良	横断BOX等(基本諸元)	2	2	横断BOX等(補修歴)	2		パイプカルパート(基本諸元)	6		のり面・斜面(基本諸元)	8		擁壁(基本諸元)	8		防護柵(基本諸元)	1		道路照明(基本諸元)	2	
工事年度	年度																																						
工事件名																																							
発注者名																																							
工事会社名																																							
請負者現場代理人																																							
施設名	施設数																																						
	新設	改良																																					
横断BOX等(基本諸元)	2	2																																					
横断BOX等(補修歴)	2																																						
パイプカルパート(基本諸元)	6																																						
のり面・斜面(基本諸元)	8																																						
擁壁(基本諸元)	8																																						
防護柵(基本諸元)	1																																						
道路照明(基本諸元)	2																																						



確認その1
道路施設基本データや位置図ファイルの有無を確認する。

確認その2
データを格納したフォルダの有無を確認する。

道路施設基本データの全体のフォルダ構成 (青色の点線範囲が、上記の表記範囲)



作成対象道路施設一覧表

区分	施設フォルダ名 (施設番号)	施設名	
道路構造	C020	縦断勾配	
	C021	パーチカルカーブ	
	C030	平面線形	
	C060	道路交差点	
	C070	鉄道交差点	
	C080	歩道及び自転車歩行者道	
	C090	独立専用歩道	
	C100	中央帯	
	C110	環境施設帯	
	構造物	D010	橋梁
		D020	橋側歩道橋
D030		横断歩道橋	
D040		トンネル	
D050		洞門	
D060		スノーシェッド	
D070		地下横断歩道	
D080		道路BOX等	
D090		横断BOX等	
D100		パイプカルパート	
D110		のり面	
D120		擁壁	
付属物及び付帯施設	E010	防護柵	
	E020	道路照明	
	E030	視線誘導標 (反射式)	
	E040	視線誘導標 (自光式)	
	E050	道路標識	
	E060	道路情報板	
	E070	交通遮断機	
	E080	I, T, V	
	E090	車両感知器	
	E100	車両諸元計測施設	
	E110	気象観測施設	
	E120	災害予知装置	
	E130	自動車駐車場等	
	E140	自転車駐車場	
	E150	雪崩防止施設	
	E160	落石防止施設	
	E170	消雪パイプ	
	E180	ロードヒーティング	
	E190	除雪ステーション	
	E200	防災備蓄	
	E210	共同溝	
	E220	CAB電線共同溝	
	E230	植栽	
E240	遮音施設		
E250	遮光フェンス		
E260	距離標		
E270	流雪溝		
E330	光ケーブル施設		
E334	光ケーブル施設端局		
E350	ビーコン		

6. 道路施設基本データの審査及び審査結果の電子媒体への格納

完成検査前に、紙書類、電子データを監督職員へ提出し審査を受ける。審査の結果、データに不備がある場合は修正して再提出する。提出データに不備がない場合は、監督職員が署名・捺印したチェックシートをスキャニング（PDF 形式）して電子納品媒体に格納する。道路施設基本データを格納するフォルダ構成と、チェックシートファイル（PDF 形式）の格納先フォルダを下記に示す。

チェックシートのファイル名は、「check_st.PDF」とする。

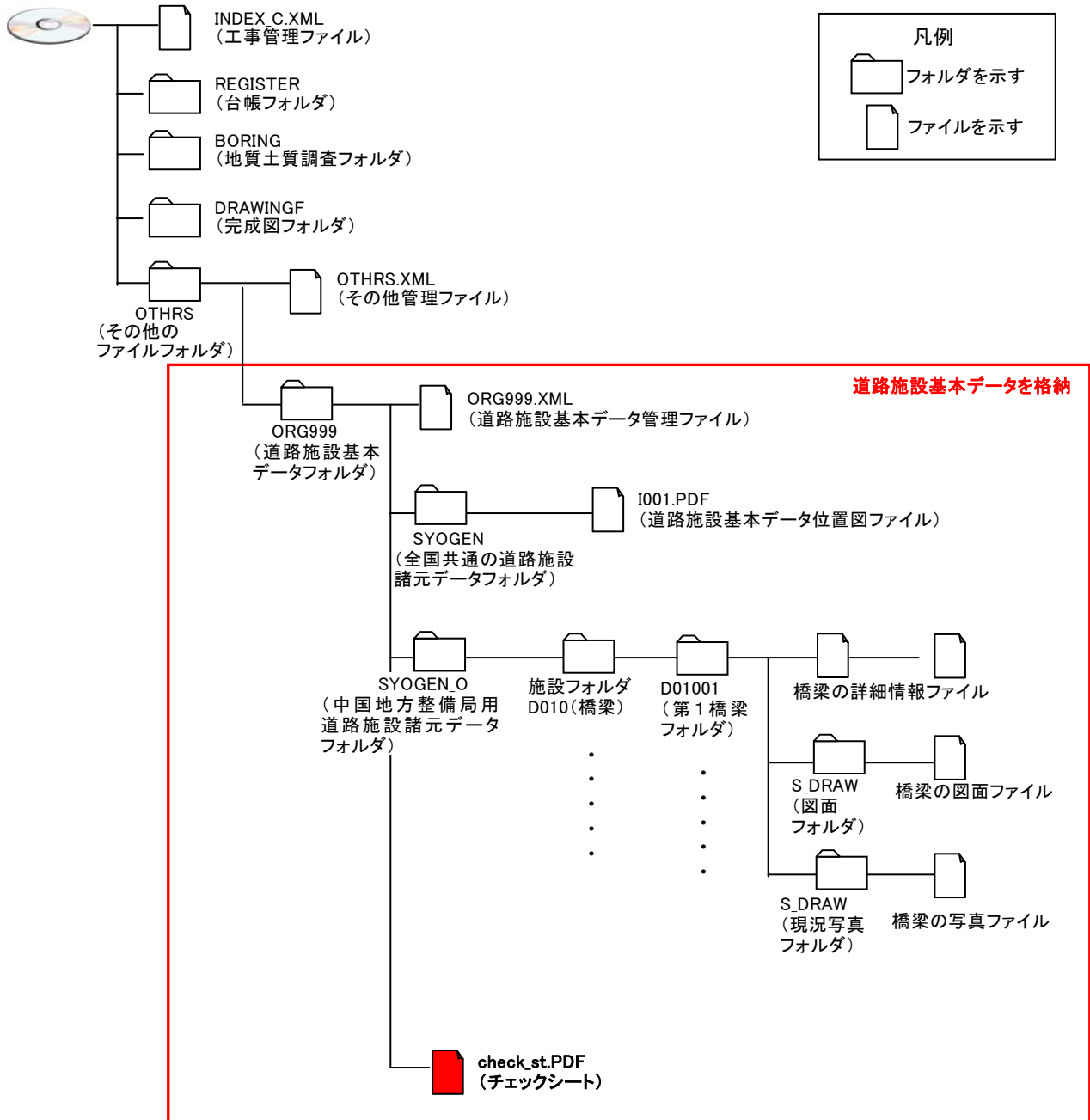


図1 道路施設基本データ格納フォルダ構成

参考資料

各工種（施設）に応じて、特に図面等と突合せて確認する項目を以下に示す。

表 7 工種別の具体的な確認項目

工種 番号	工 種 名	確 認 項 目 名				
C020	縦断勾配	区間長	勾配			
C021	バーチカルカーブ	縦断曲線半径	縦断曲線長	縦断曲線区 間長		
C030	平面線形基本	区間長	曲線半径			
C060	道路交差点	交差方式	従道路数			
C061	道路交差点従道路	車線数				
C070	鉄道交差点	交差方式				
C080	歩道及び自転車歩行者 道	歩道等種別	形式			
C100	中央帯	中央帯延長	分離帯延長			
C110	環境施設帯	環境施設帯延 長	設置道路延 長			
D010	橋梁	橋梁種別	橋梁区分	総径間数	橋長	
D011	橋梁幅員構成	全幅員	有効幅員			
D012	橋梁高欄防護柵	高欄防護柵 設置場所	高欄防護柵 別			
D013	橋梁交差状況	架橋状況				
D014	橋梁添架物	添架物種別				
D015	橋梁上部工	構造体番号	材料区分	桁形式区分	構造形式	
D016	橋梁下部工	躯体番号	橋台橋脚 構造形式	基礎形式		
D017	橋梁径間	構造体番号	支間長			
D019	橋梁塗装歴	径間又は 躯体番号	上下部工区 分			
D01A	橋梁補修歴	径間又は 躯体番号	上下部工区 分			
D020	橋側歩道橋	橋梁種別	橋梁区分	総径間数	橋長	
D021	橋側歩道橋幅員構成	全幅員	有効幅員			
D022	橋側歩道橋高欄防護柵	高欄防護柵 設置場所	高欄防護柵 別			
D023	橋側歩道橋交差状況	架橋状況				
D024	橋側歩道橋添架物	添架物種別				
D025	橋側歩道橋上部工	構造体番号	材料区分	桁形式区分	構造形式	
D026	橋側歩道橋下部工	躯体番号	橋台橋脚 構造形式	基礎形式		
D027	橋側歩道橋径間	構造体番号	支間長			

工種 番号	工 種 名	確 認 項 目 名				
D029	橋側歩道橋塗装歴	径間又は 躯体番号	上下部工区分			
D02A	橋側歩道橋補修歴	径間又は 躯体番号	上下部工区分			
D030	横断歩道橋	歩道橋種別	橋長			
D032	横断歩道橋塗装歴	上下部工区分				
D040	トンネル	分割区分	トンネル延長			
D050	洞門	延長				
D070	地下横断歩道	地下歩道種別	昇降形式	延長		
D080	道路BOX等	構造形式種別	延長			
D090	横断BOX等	構造形式種別	延長			
D100	パイプカルバート	設置区分	延長			
D110	のり面・斜面	上り下り区分	のり面斜面分類			
D120	擁壁	上り下り区分	構造形式	擁壁延長		
E010	防護柵	上り下り区分	設置箇所	設置延長		
E020	道路照明	設置区分	設置箇所			
E030	視線誘導標（反射式）	上り下り区分	個数			
E040	視線誘導標（自光式）	上り下り区分	設置箇所	灯数		
E050	道路標識	上り下り区分	設置箇所	設置方式	支柱形式	
E051	標識各板諸元	標識種類番号	上り下り別	板取付方式	ローマ字有無	
E060	道路情報板	上り下り区分	設置箇所	情報板種別		
E070	交通遮断機	上り下り区分				
E080	I. T. V (CCTV)	上り下り区分	カメラ台数			
E090	車両感知器	上り下り区分	設置箇所			
E100	車両諸元計測施設	上り下り区分	設置箇所			
E110	気象観測施設	上り下り区分	設置箇所			
E120	災害予知装置	上り下り区分	設置箇所			
E130	自動車駐車場等	上り下り区分	総延長	有効延長		
E140	自転車駐車場	上り下り区分	上屋有無			
E160	落石防止施設	上り下り区分	延長			
E200	防災備蓄倉庫	上り下り区分	設置区分			

工種 番号	工 種 名	確 認 項 目 名				
E210	共同溝	設置箇所	本体完成延長	設置道路延長		
E220	C A B 電線共同溝	上り下り区分	設置箇所	本体完成延長	設置道路延長	
E230	植栽	上り下り区分	設置箇所	延長		
E233	植栽追加植換え歴	延長				
E240	遮音施設	上り下り区分				
E250	遮光フェンス	上り下り区分	設置箇所	延長	設置道路延長	
E260	距離標	上り下り区分	設置箇所	形式		
E330	光ケーブル施設	ケーブル 敷設延長				
E350	ビーコン	上り下り区分	設置箇所	取付柱種類		

付録資料 2

道路施設基本データ審査時におけるチェックシート

道路施設基本データ審査時におけるチェックシート (Ver1.00)

工事番号	工事件名	受注者名

審査年月日	年 月 日
主任監督員	印
監督員	印

データ審査時に確認すべき事項

1. チェックプログラムの結果審査 (所定の工事とエラーが無いことを確認)
2. 道路施設基本データの審査 (作成されるべき(1)紙書類と(2)電子データの審査)

1. チェックプログラムの結果審査

表1 電子データチェック時のエラー有無審査事項

審査内容	チェック欄
○所定の工事成果であるか。	
○「道路工事完成図等チェックプログラム」でエラーが無いか。	

チェックプログラム結果記録 事例

チェック結果総括

発注年度: 年
 工事番号:
 工事名称:
 発注者: 国土交通省 ○○地方整備局 ○○事務所
 請負者:

審査その1
 所定の工事成果であることを確認する。

完成平面図データのチェック結果: 【チェックを行いませんでした】
 ※完成平面図を作成しない工事の場合は合格となります。

道路施設基本データのチェック結果: 合格
 →【エラー】 0件 (【確認】 0件) ←

審査その2
 エラーが0件であることを確認する。

2. 道路施設基本データの審査

(1) 紙書類の審査

表2 紙書類の有無及び内容の審査事項

審査内容 (□にチェック)	
○ 所定の帳票が紙書類にて納品されているか。 確認先: 下記に示す書類参照	
①道路施設基本データ総括表の有無 □	・作成施設の数量の確認 □
②-1 道路施設基本データ一覧表の有無 □	・位置図番号、施設番号の整合性 □
②-2 道路施設基本データ位置図の有無 □	
③道路施設基本データ詳細表の有無 □	

①道路施設基本データ総括表 事例

工事年度	年度
工事件名	
発注者名	工事番号
工事会社名	TBL
請負者 現場代理人	TBL

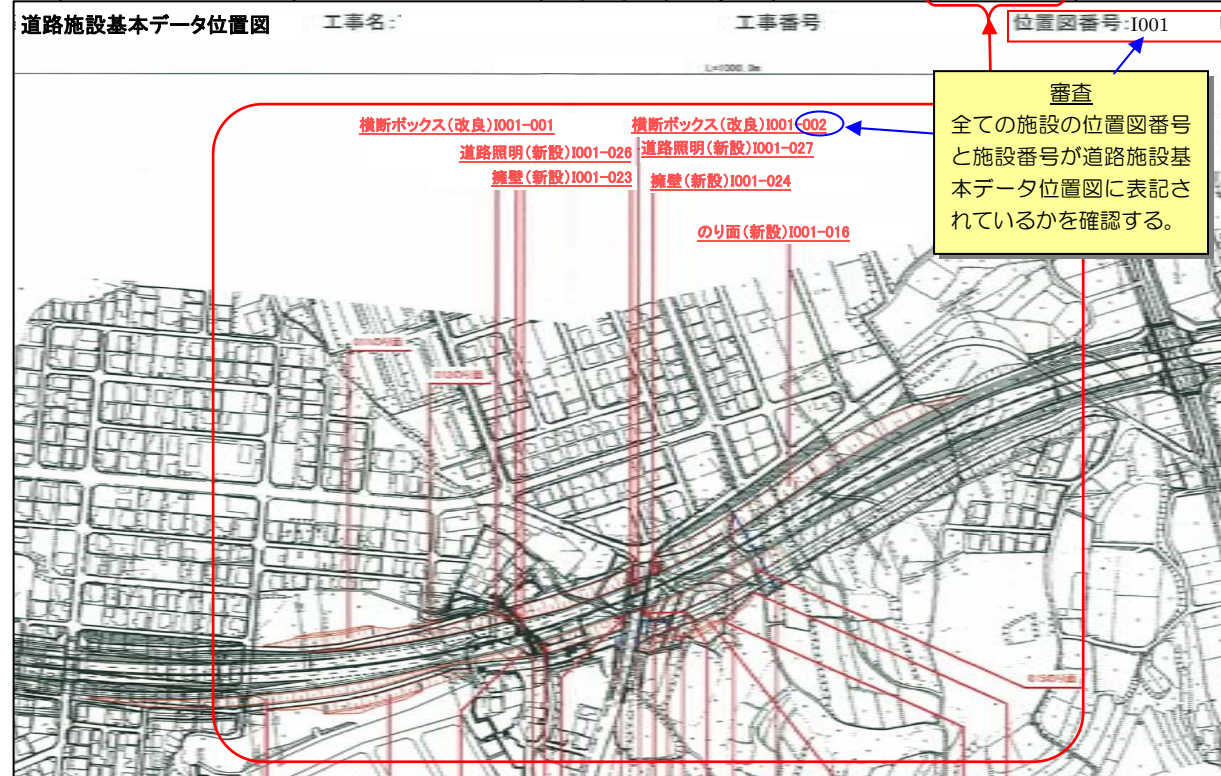
施設名	作成施設情報内訳				備考
	新設	改良	撤去	計	
横断BOX等(基本諸元)		2		2	
横断BOX等(補修歴)	2			2	
パイプカルバート(基本諸元)	6			6	
のり面・斜面(基本諸元)	8			8	
擁壁(基本諸元)	8			8	
防護柵(基本諸元)	1			1	
道路照明(基本諸元)	2			2	

審査その1
 作成した施設名を確認する。

審査その2
 作成した施設数を確認する。

②-1 道路施設基本データ一覧表、②-2 道路施設基本データ位置図 事例

施設名	工事名	名称	データ区分	路線名	現況区分	施工区間(起算地点又は終点)	施設番号
横断BOX等(基本諸元)	山口県下関市		新設	191	新設	21.0kp+38m	1001-001
横断BOX等(補修歴)			○	191	新設		1001-002
横断BOX等(基本諸元)	山口県下関市		○	191	新設	21.0kp+38m	1001-001
横断BOX等(補修歴)			○	191	新設		1001-001



③道路施設基本データ詳細表 事例

NO	項目名	入力欄	単位
1	工事番号		
2	データ区分	2 改良	
3	施設対応番号	1001-001	
4	路線番号	0191	
5	現況区分	3 新設	
6	名称		
7	百米標又は測点	21	m
8	百米標又は測点からの距離	38	m
9	施設完成年度	2007	西暦
10	施設改修年度	2008	西暦
11	完成年月	200803	西暦
12	上り下り区分	0 上下線共通	
13	所在地		
14	設置区分	3 車道+自歩道併用	
15	構造形式種別	1 一連ボックスカルバート	
16	工場製品場所打別	?	?
17	延長	?	m
18	内空幅	?	m
19	内空高	?	m
20	最大土盛り	?	m
21	最小土盛り	?	m
22	基礎種別	?	?
23	基礎本数	?	本
24	基礎杭径	?	m
25	舗装種別	3 アスファルト系	
26	舗装厚	?	cm
27	舗装面積	?	m ²
28	通学路指定有無	?	?
29	通学路指定年月日	?	西暦
30	管理協定有無	?	?
31	協定年月日	?	西暦
32	協定先名	?	
33	照明有無	1 有り	
34	ロードヒート有無	?	?
35	備考1	*	
36	備考2	*	
37	備考3	*	

審査
 道路施設基本データ詳細表が有るかを確認する。

(2) 電子データの審査

表3 電子データの有無審査事項

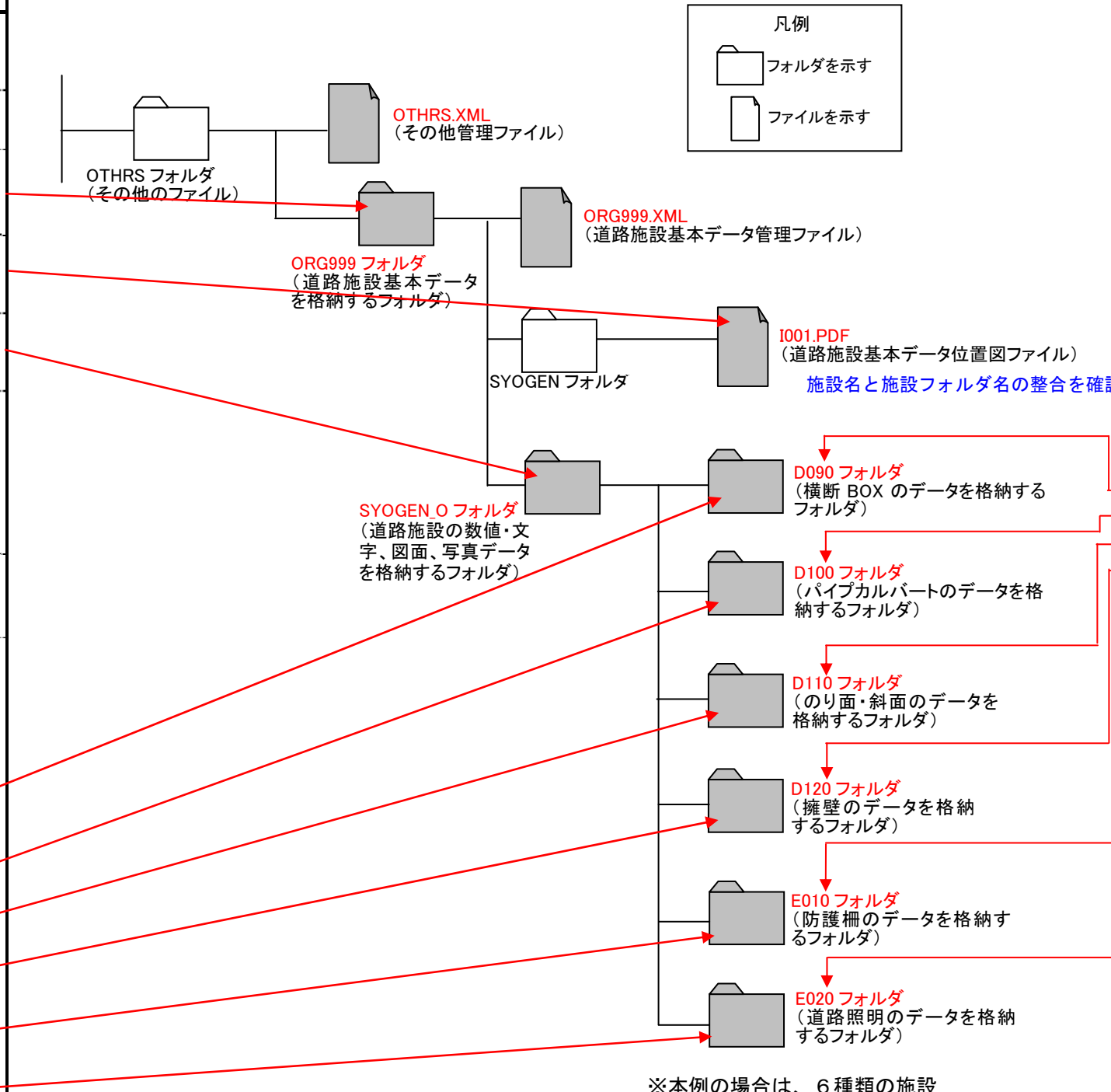
審査内容	チェック欄
○.所定のフォルダやデータが要領に準拠して作成されているか。	—
確認先：電子納品媒体の OTHRS フォルダ	—
・ORG999 (道路施設基本データフォルダ)の有無	
・IOO1.PDF (道路施設基本データ位置図ファイル)の有無	
・SYOGEN_O (道路施設諸元データフォルダ)の有無	
・道路施設ごとのデータフォルダの有無 ⇒ 道路施設基本データ総括表の施設名を基に、右記表4に示す施設フォルダ名に該当するフォルダの有無を確認	
・道路施設ごとのデータフォルダ名称の整合性を確認	

道路施設基本データ総括表 事例		
工事年度	年度	
工事件名		
発注者名		
工事会社名		
請負者現場代理人		
作成施設情報内訳		
施設名	施設数	
	新設	改良
横断BOX等(基本諸元)		2
横断BOX等(補修歴)	2	
パイプカルバート(基本諸元)	6	
のり面・斜面(基本諸元)	8	
擁壁(基本諸元)	8	
防護柵(基本諸元)	1	
道路照明(基本諸元)	2	

※本例の場合は、6種類の施設

表4 道路施設基本データ作成対象道路施設一覧表

区分	施設フォルダ名(施設番号)	施設名
道路構造	C020	縦断勾配
	C021	バチカルカーブ
	C030	平面線形
	C060	道路交差点
	C070	鉄道交差点
	C080	歩道及び自転車歩行者道
	C090	独立専用歩道
	C100	中央帯
	C110	環境施設帯
	構造物	D010
D020		橋側歩道橋
D030		横断歩道橋
D040		トンネル
D050		洞門
D060		スノーシェッド
D070		地下横断歩道
D080		道路BOX等
D090		横断BOX等
D100		パイプカルバート
D110		のり面
D120		擁壁
付属物及び付帯施設	E010	防護柵
	E020	道路照明
	E030	視線誘導標(反射式)
	E040	視線誘導標(自光式)
	E050	道路標識
	E060	道路情報板
	E070	交通遮断機
	E080	I.T.V
	E090	車両感知器
	E100	車両諸元計測施設
	E110	気象観測施設
	E120	災害予知装置
	E130	自動車駐車場等
	E140	自転車駐車場
	E150	雪崩防止施設
	E160	落石防止施設
	E170	消雪パイプ
	E180	ロードヒーティング
	E190	除雪ステーション
	E200	防災備蓄
	E210	共同溝
	E220	CAB電線共同溝
	E230	植栽
	E240	遮音施設
	E250	遮光フェンス
E260	距離標	
E270	流雪溝	
E330	光ケーブル施設	
E334	光ケーブル施設端局	
E350	ピーコン	



道路施設基本データ格納フォルダ構成 事例

道路施設基本データ審査時におけるチェックシート (Ver1.00)

工事番号	工事件名	受注者名

審査年月日	年 月 日
主任監督員	印
監督員	印

1. チェックプログラムの結果審査

表1 電子データチェック時のエラー有無審査事項

審査内容	チェック欄
○所定の工事成果であるか。	
○「道路工事完成図等チェックプログラム」でエラーが無いか。	

2. 道路施設基本データの審査

(1) 紙書類の審査

表2 紙書類の有無及び内容の審査事項

審査内容 (□にチェック)	
○所定の帳票が紙書類にて納品されているか。 確認先：下記に示す書類参照	
①道路施設基本データ総括表の有無 □	・作成施設の数量の確認 □
②-1 道路施設基本データ一覧表の有無 □	・位置図番号、施設番号の整合性 □
②-2 道路施設基本データ位置図の有無 □	
③道路施設基本データ詳細表の有無 □	

(2) 電子データの審査

表3 電子データの有無審査事項

審査内容	チェック欄
○所定のフォルダやデータが要領に準拠して作成されているか。	—
確認先：電子納品媒体の OTHRS フォルダ	—
・ORG999 (道路施設基本データフォルダ) の有無	
・I001.PDF (道路施設基本データ位置図ファイル) の有無	
・SYOGEN_0 (道路施設諸元データフォルダ) の有無	
・道路施設ごとのデータフォルダの有無 ⇒道路施設基本データ総括表の施設名を基に、次頁表4に示す施設フォルダ名に該当するフォルダの有無を確認	
・道路施設ごとのデータフォルダ名称の整合性を確認	

道路施設基本データ審査時におけるチェックシート (1/2)

※電子データは道路部道路管理課イントラネットに掲載

表 4 道路施設基本データ作成対象道路施設一覧表

区分	施設フォルダ名 (施設番号)	施設名	区分	施設フォルダ名 (施設番号)	施設名
道路構造	C020	縦断勾配	付 属 物 及 び 付 帯 施 設	E060	道路情報板
	C021	パーチカルカーブ		E070	交通遮断機
	C030	平面線形		E080	I. T. V
	C060	道路交差点		E090	車両感知器
	C070	鉄道交差点		E100	車両諸元計測施設
	C080	歩道及び自転車歩行者道		E110	気象観測施設
	C090	独立専用自歩道		E120	災害予知装置
	C100	中央帯		E130	自動車駐車場等
	C110	環境施設帯		E140	自転車駐車場
構造物	D010	橋梁		E150	雪崩防止施設
	D020	橋側歩道橋		E160	落石防止施設
	D030	横断歩道橋		E170	消雪パイプ
	D040	トンネル		E180	ロードヒーティング
	D050	洞門		E190	除雪ステーション
	D060	スノーシェッド		E200	防災備蓄
	D070	地下横断歩道		E210	共同溝
	D080	道路BOX等		E220	CAB電線共同溝
	D090	横断BOX等		E230	植栽
	D100	パイプカルバート		E240	遮音施設
	D110	のり面		E250	遮光フェンス
	D120	擁壁		E260	距離標
	E010	防護柵		E270	流雪溝
	E020	道路照明		E330	光ケーブル施設
	E030	視線誘導標（反射式）		E334	光ケーブル施設端局
	E040	視線誘導標（自光式）		E350	ビーコン
	E050	道路標識			

道路施設基本データ審査時におけるチェックシート (2/2)

※電子データは道路部道路管理課イントラネットに掲載

道路施設基本データ作成上の留意点 (受注者用)

道路施設基本データ作成上の留意点

— 目 次 —

1. 間違いやすい作成ミスの事例	1
2. 各施設における作成上の留意点.....	3
2.1. C080 歩道自歩道.....	3
2.2. D010 橋梁	4
2.3. D090 横断 BOX.....	6
2.4. D100 パイプカルバート.....	7
2.5. D110 のり面.....	8
2.6. D120 擁壁	9
2.7. E010 防護柵	10
2.8. E020 道路照明.....	11
2.9. E040 視線誘導標（自光式）	13
2.10. E050 道路標識.....	14
2.11. E060 道路情報板	17
2.12. E220 CAB 電線共同溝	18
2.13. E230 植栽.....	19
3. 道路施設基本データ作成要領（案）中国地整版（Ver3.04）の改定概要	20

1. 間違えやすい作成ミスの事例

道路施設基本データの作成時において、よく発生するミス事例を以下に示します。

よく発生する作成ミス事例

工種	項目		作成ミス事例	修正方法	参照頁
C080 歩道自歩道	入力方法	コードの選択ミス	・セミフラットの形式を「12:フラット(縁石)」で作成	・「16:セミフラット」に修正	3
D010 橋梁	作成対象	データの作成漏れ	・高欄取替えて補修歴は作成されているが、D012 橋梁高欄防護柵データが未作成	・工事完成図書・現況写真等を参考に防護柵のデータを作成	4
		データの修正漏れ	・落橋防止施設を設置した際、補修歴は作成されているが、D017 橋梁径間データの落橋防止データが未作成	・工事完成図書・現況写真等を参考に径間データに落橋防止データを作成	4
		作成対象の間違い	・補修後に実施した部分塗装を塗装歴として作成	・塗装歴は全体塗装が対象であり、部分塗装は作成不要	5
	作成単位	補修歴、塗装歴の作成単位	・上下別々の橋梁データを1橋のデータとして作成 ・補修歴、塗装歴のデータを1橋単位で作成	・上下分割されている橋梁の塗装歴・補修歴等のデータは上下別に作成 ・また、データは橋台・橋脚・径間ごとに作成	4
D090 横断BOX	作成対象	工種の作成ミス	・横断BOXを「D080 道路BOX」として作成	・「D090 横断BOX」に修正	6
D100 パイプカルバート	入力方法	データの入力漏れ	・土被りが未入力	・工事完成図書等を参考に土被りを入力	7
D110 のり面	作成対象	作成対象の間違い	・1m程度ののり面のデータを作成	・基本的に5m以上が対象のため作成対象外	8
	作成単位	上下共通で作成	・上下線にある複数ののり面を1施設として作成	・上下別、施設別に分割作成	8
D120 擁壁	作成対象	作成対象の間違い	・2m程度のブロック積擁壁やコンクリート擁壁のデータを作成	・基本的に3m以上が対象のため作成対象外	9
	入力方法	データの入力漏れ	・勾配、高さ、総段数、段目等が未入力	・工事完成図書・現況写真等を参考に各種値を入力	9
E010 防護柵	入力方法	データの作成ミス	・歩道車道側にH=1.10mの転落防止柵を作成 ・歩道路肩側にH=0.80mの転落防止柵を作成	・工事完成図書・現況写真等を参考に修正箇所を修正	10
E020 道路照明	入力方法	コードの選択ミス	・高さ10m、12mのストレートタイプのポール形式を「99:その他」で作成 ・基礎形式において、ベースプレート型を「1:埋込型」で作成	・「68:S10AB」、「69:S12AB」に修正 ・「2:ベースプレート型」に修正	11
E040 視線誘導標	作成対象	作成対象の間違い	・自立した支柱を持たない発光鈺のデータを作成	・作成対象外	13

工 種	項 目		作成ミス事例	修正方法	参照頁
E050 道路標識	作成対象	データの作成 漏れ	<ul style="list-style-type: none"> 標識基本（親）データのみで標識板（子）データが未作成 	<ul style="list-style-type: none"> 工事完成図書・現況写真等を参考に「E051：標識各板諸元」データを作成 	14
	作成単位	標識の作成単位	<ul style="list-style-type: none"> 同一支柱に複数枚の標識板が設置されているのに1枚の標識板データしか作成されていない 	<ul style="list-style-type: none"> 工事完成図書・現況写真等を参考に標識板分のデータを追加作成 	15
	作成対象	作成対象の間違い	<ul style="list-style-type: none"> 吹き流しを標識としてデータ作成 公安委員会管理の標識のデータを作成 	<ul style="list-style-type: none"> 作成対象外 	16
E220 CAB 電線共同溝	入力方法	データの入力 漏れ	<ul style="list-style-type: none"> 土被りや情報 BOX の幅、高さ等が未入力 	<ul style="list-style-type: none"> 工事完成図書等を参考に各種値を入力 	18
E230 植栽	作成対象	作成対象の間違い	<ul style="list-style-type: none"> のり面の種子吹付を植栽としてデータ作成 	<ul style="list-style-type: none"> 作成対象外 	19

2. 各施設における作成上の留意点


「間違いやすい作成ミス」で示した各工種におけるデータ作成上の留意点を以下に示します。

2.1. C080 歩道自歩道

(1) 入力方法

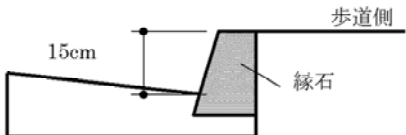
歩道等種別、歩道等形式の入力方法を以下に示します。

【歩道等種別の考え方】

歩道等種別	考え方
歩道	歩行者のみ通行可能な歩道（目安…幅員 1.75m 以下）
歩道＋自転車道	歩道と自転車道が段差等により区画されている歩道
自転車歩行者道	歩行者及び自転車の通行が可能な歩道（  標識がある歩道）

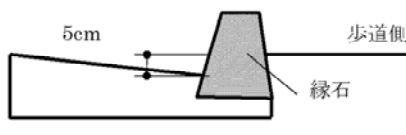
a) 【歩道等形式の考え方】（マウントアップ・セミフラット・フラット）

マウントアップ型歩道



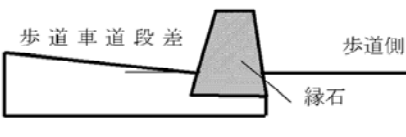
- ・ 歩道面と縁石天端の高さが同一である歩道構造（従来型の歩道）
- ・ 歩道の高さは、概ね 15～20cm。

**セミフラット型歩道
（バリアフリーに配慮）**



- ・ 歩道面の高さが車道面の高さよりやや高い歩道構造（乗入れ部や交差点部での段差が少ない）
- ・ 歩道縁石の高さは、概ね 15～20cm。

フラット型歩道



- ・ 歩道面の高さと同車道面の高さが同一の歩道構造（乗入れ部や交差点部での段差がない）
- ・ 歩道縁石の高さは、概ね 15～20cm。



【ミス事例】

- ・ セミフラット型歩道がフラット型歩道としてデータが作成されています。

修正 → セミフラット型に修正します。

2.2. D010 橋梁

(1) 作成対象

橋梁工事のように複数の工事が多年度に亘って関わる場合のデータ作成対象を以下に示します。

a) 【各橋梁工事と対象工種の考え方】

対象工種 \ 工事名	下部工 工事	上部工 工事	床版工事	舗装工事	付帯工事	塗装工事	補修工事	点検補修 工事	舗装修繕 工事	添架物 工事
橋梁(基本諸元)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
橋梁(幅員構成)			△	○					△	
橋梁(高欄・防護柵)		△			○		△	△		
橋梁(交差状況)		○								
橋梁(添架物)		△								○
橋梁(上部工)		○	○				△	△		
橋梁(下部工)	○									
橋梁(径間)		○					△	△		
橋梁(塗装歴)						○				
橋梁(補修歴)							○	○	○	
橋梁(点検補修)								○		

※ △は工事内容によっては対象となるもの

※ 主な補修工事と対象工種の関係

- ・ 伸縮装置の施工 → 上部エデータと補修歴
- ・ 落橋防止装置の施工 → 径間データと補修歴
- ・ 支承の取替え → 径間データと補修歴
- ・ 高欄の取替え → 高欄・防護柵データの削除および新規と補修歴
また、E010防護柵データの削除および新規データの作成
- ・ 床版打換え工 → 上部エデータと補修歴

(2) 補修歴、塗装歴の作成単位

- ① 上下分割されている橋梁の塗装歴・補修歴等のデータは上下別に作成して下さい。
- ② 補修歴、塗装歴のデータは橋台・橋脚ごと・径間ごとに作成して下さい。



【ミス事例】

- ・ 上下分割されている橋梁の補修歴データが1橋で作成されています。(落橋防止の設置)

修正 → 上りもしくは下りのデータを追加作成します。

また、補修歴だけではなく径間データの落橋防止装置の有無の欄も修正します。

a) 【塗装履歴データのミス事例】



【ミス事例】

- 左記のように、補修後に部分塗装した箇所を塗装歴としてデータを作成しています。

修正 → 作成対象外とします。

※ 塗装歴は全体塗装が対象であり、部分塗装は作成不要となります。

2.3. D090 横断 BOX

(1) 作成対象

データ作成対象とする横断 BOX を以下に示します。

- ① 管理する道路を横断しているボックスカルバート、門形カルバート及びアーチカルバート等
- ② 自歩道等用で道路を縦断しているボックスカルバート等
- ③ 縦断方向でも管理上必要と判断されるボックスカルバートについては関連部署と協議の上データ整備の対象とします。

a) 【横断 BOX と道路 BOX の考え方】

工種	考え方
横断 BOX	管理する道路を横断している BOX カルバート
道路 BOX	管理する道路そのものが BOX カルバート等によりアンダーパス等になっている場合（トンネルのように本線が通行するもの）



【ミス事例】

- 車が通れる BOX カルバートを道路 BOX として作成しています。

修正 → 横断 BOX データとして再作成します。



【ミス事例】

- 水路用カルバートを道路 BOX として作成しています。

修正 → 横断 BOX データとして再作成します。

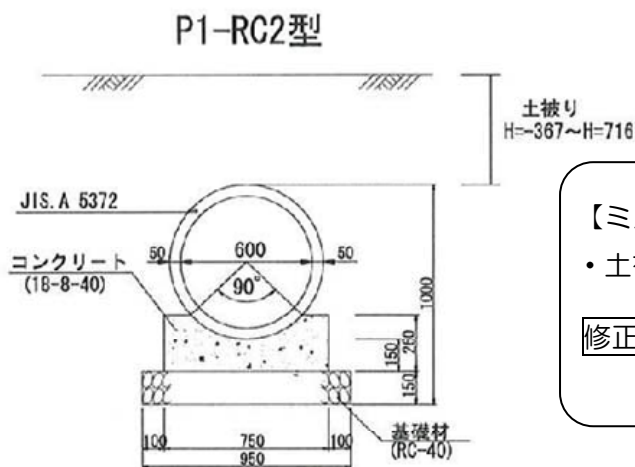
2.4. D100 パイプカルバート

(1) 作成対象

データ作成対象とするパイプカルバートを以下に示します。

- ① 管理する道路に埋設されている管渠
- ② 管径が、300mm以上（但し、管理上必要と判断される施設はこの限りではありません。）
- ③ 側溝一体型のパイプカルバートおよび支道部等の側溝間を連結しているパイプカルバートは作成不要（但し、関連部署と協議の上、決定します。）

a) 【データの入力漏れ事例】



【ミス事例】

- 土被りが未入力となっています。

修正 → 「0.4m」と入力します。

最少土被りを小数点以下1位で入力します。

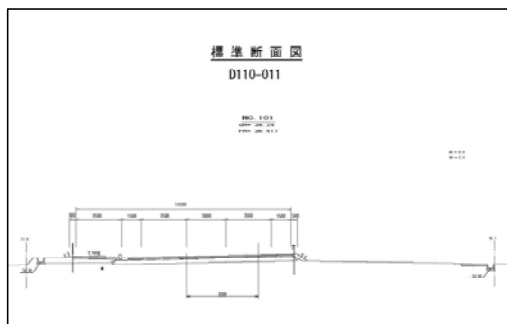
2.5. D110 のり面

(1) 作成対象

データ作成対象とするのり面を以下に示します。

- ① のり面の最大直高、5m以上
- ② 但し、管理上必要と判断されるのり面については、関連部署と協議の上、データ整備の対象とします。

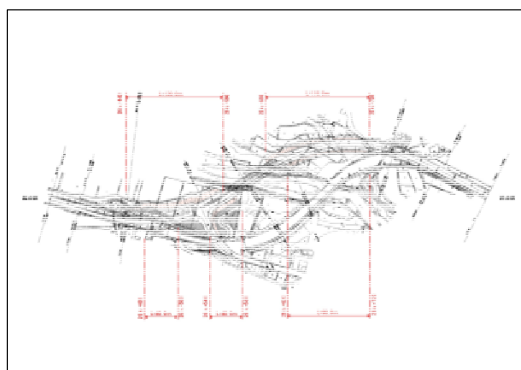
a) 【作成対象外および作成単位のミス事例】



【ミス事例】

- 最大高さ1 m以下ののり面のデータが作成されています。

修正→関連部署と協議の上、必要なければ作成対象外とします。



【ミス事例】

- 複数個所ののり面を1施設として作成しています。

修正→上下別および施設ごとに再作成します。

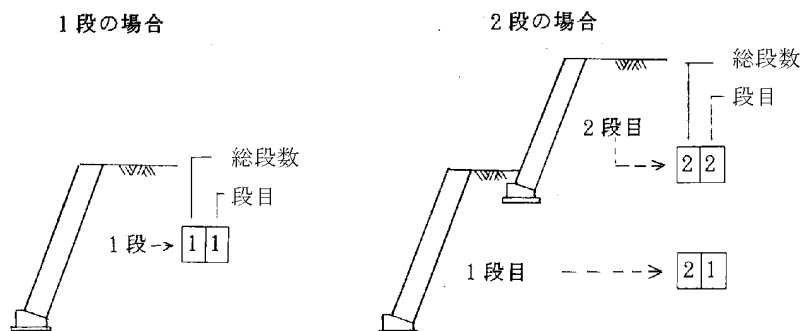
2.6. D120 擁壁

(1) 作成対象

データ作成対象とする擁壁を以下に示します。

- ① 擁壁の最大高さ、ブロック積擁壁は 3m以上、コンクリート擁壁は 5m以上（但し、管理上必要と判断される施設はこの限りではありません。）
- ② 階段状擁壁の場合は、高さに関係なく対象とします。

※ 以下に総段数と段目の考え方を示します。



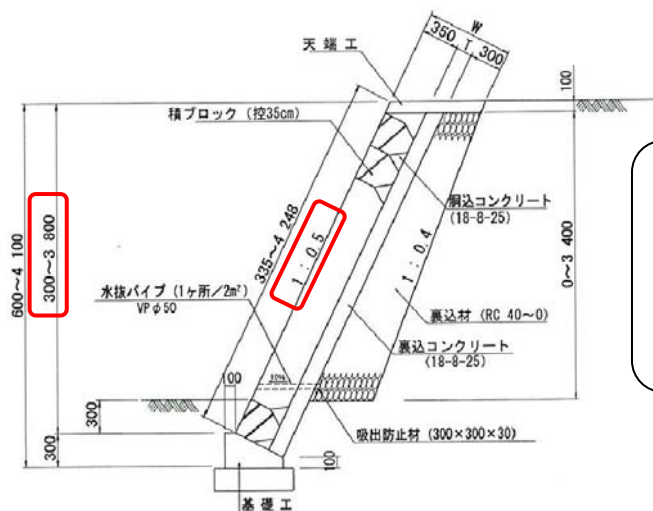
a) 【作成対象外および未入力データのミス事例】



【ミス事例】

- 最大高さ3m未満の擁壁のデータが作成されています。

修正 → 関連部署と協議の上、作成対象外とします。



【ミス事例】

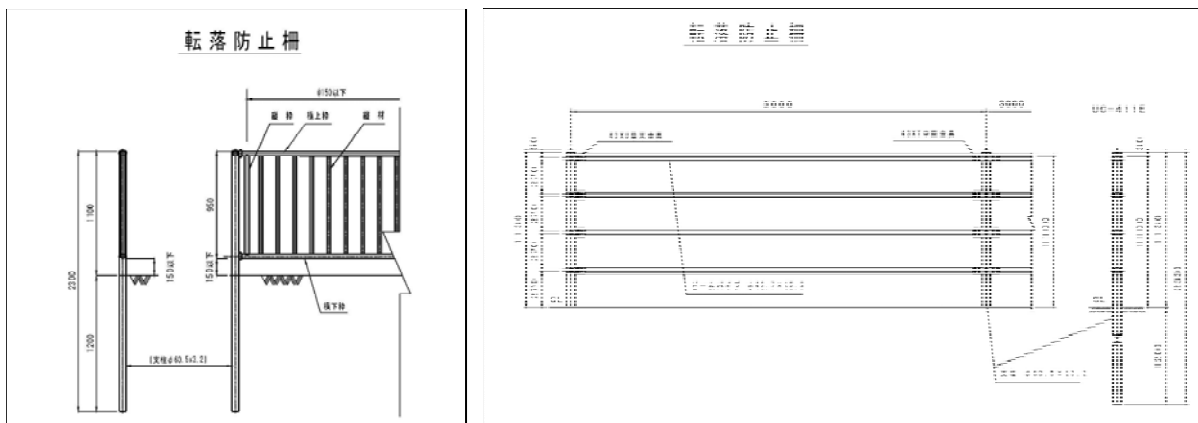
- 擁壁の勾配、高さ等が未入力となっています。

修正 → 完成図書等より数値を入力します。

2.7. E010 防護柵

(1) 入力方法

① 防護柵種別は、以下のような転落防止柵は、「Pタイプ」の一種として下さい。



a) 【設置箇所と設置目的が不整合のミス事例】



【ミス事例】

- 「P」タイプの転落防止柵の設置箇所が「6：歩道車道側」で作成されています。

修正 → 「7：歩道路肩側」に修正します。



【ミス事例】

- 「P」タイプの横断防止柵の設置箇所が「7：歩道路肩側」で作成されています。

修正 → 「6：歩道車道側」に修正します。

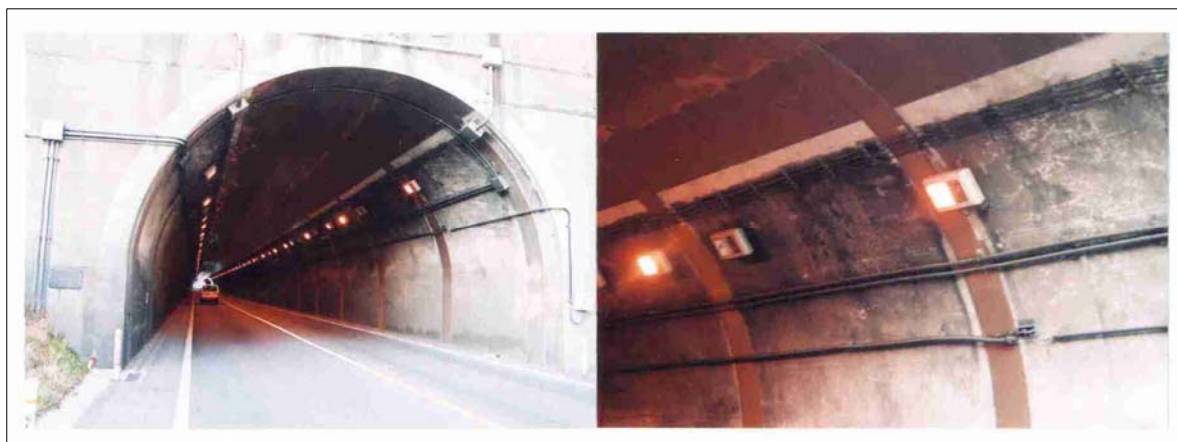
2.8. E020 道路照明

(1) 作成単位

① トンネル内、横断BOX等内に添架されている照明は1施設で1件として作成して下さい。

a) 【施設単位の考え方と現況写真の作成例】

- トンネル照明、横断BOX内照明のように施設内に連続して照明が設置されている場合、1件のデータとして作成し、光源種別（〇〇W、□□W等）が複数ある場合は、光源種別1・光源種別2・光源種別3で光源種別と灯数を記入して下さい。



現況写真作成例：トンネル内照明

(2) 入力方法

① LED照明は、現在、光源種別として選択する事が出来ないため、光源種別を「9：その他」として、備考にLED照明であることを記載して下さい。

a) 【作成データのミス事例】

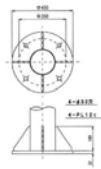
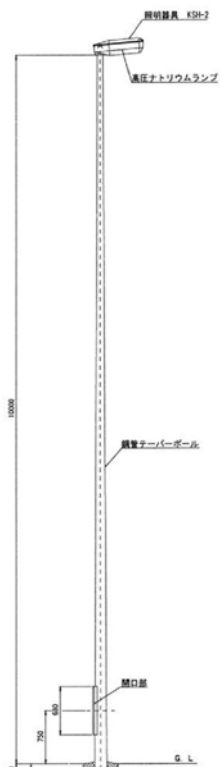


【ミス事例】

- 高さ10mのストレートタイプのポール型式を「99：その他」としています。

修正 → 「68：S10AB」に修正します。

※高さ12mの場合「69：S12AB」



【ミス事例】

- 左記のような照明の基礎形式を「1：埋込型」としてあります。

修正 → 「2：ベースプレート型」に修正します。

2.9. EO40 視線誘導標（自光式）

(1) 作成対象

① 視線誘導標（自光式）のデータ作成対象は、自立した支柱を持つものとして下さい。

対象：プリンカーライト



対象：自立式支柱



左記の様に、ある区間に連続してある場合は、その区間を1件（1箇所）としてデータを作成して下さい。

対象外：発光鋏



発光鋏の様に、自立した支柱を持たない視線誘導標は作成対象外となります。

2.10. E050 道路標識

(1) 作成対象

a) 道路標識として作成する施設

① 通常の道路標識以外に、以下のような施設に関しては道路標識としてデータを作成して下さい。

② なお、その場合の標識種類番号は「999：その他」として作成します。

気象情報表示板等



気象情報表示板等



対向車注意表示板等



警戒情報表示板等



一部電光式表示板等



太陽電池式：情報表示板等



b) 対象項目

- ① 「道路標識（基本諸元）」の他に「道路標識（標識板）」のデータを作成して下さい。
- ② 下記を参照して、標識板のデータを作成して下さい。

【作成例】



基本諸元データ（親）1件の他、
標識板データ（子）を
標識種類番号
①214
②509 / 3
③209
④999
として、4件作成して下さい。

c) 【作成データのミス事例その1】



【ミス事例】

- 1本の支柱に2枚の標識板が設置されていますが、補助標識の標識板データが未作成となっています。

修正 → 補助標識の標識板データを作成します。



【ミス事例】

- 1本の支柱に2枚の標識板が設置されているものを2件の標識として作成しています。

修正 → 道路標識（基本諸元）は1件、
道路標識（標識板）は2件で作成します。

d) 【作成データのミス事例その2】



【ミス事例】

- 吹き流しが標識として作成されています。

修正 → 作成対象外とします。

<ポイント>

- 道路標識は「案内標識」「警戒標識」「規制標識」等の種類があります。
作成対象となる標識は、種類に関係なく国土交通省が管理する標識となります。

2.11. E060 道路情報板

(1) 入力方法

道路情報板における「情報板種別」の選定方法を以下に示します。

駐車場案内板



左記の様な、駐車場案内板は、情報板種別「5.駐車場案内板」としてデータを作成して下さい。

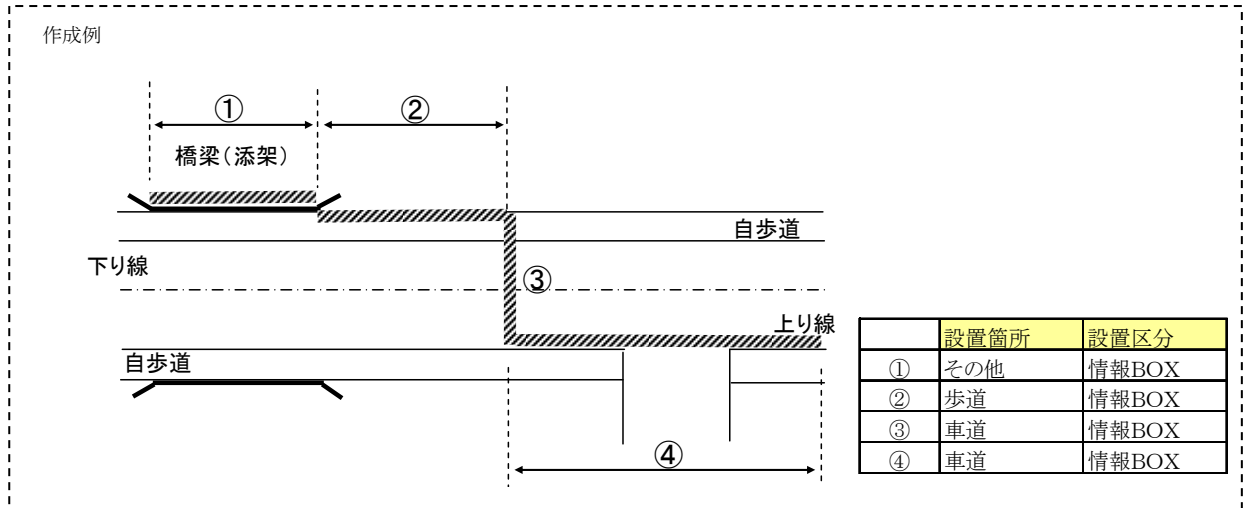
<ポイント>

- ・ 事務所、出張所等から表示内容等を遠隔操作出来るものを道路情報板としてください。

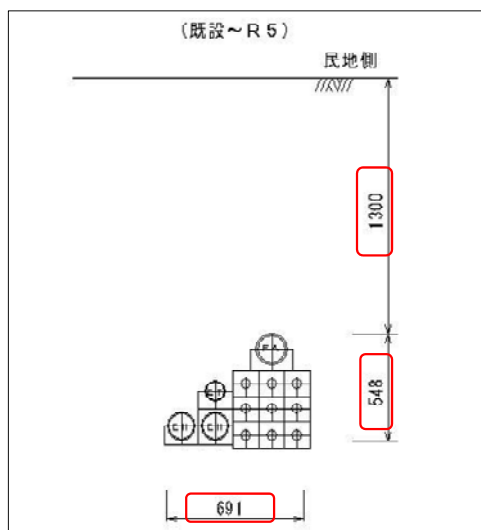
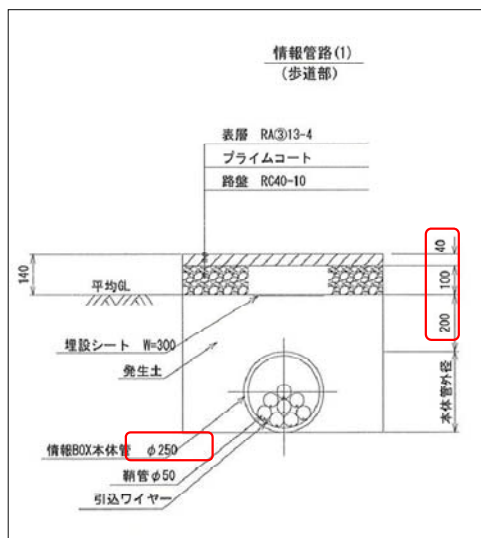
2.12. E220 CAB 電線共同溝

(1) 作成単位

CAB 電線共同溝の作成単位を以下に示します。



a) 【データの入力漏れ事例】



【ミス事例】

- 左記のような施設の土被り、情報BOXの幅や高さが未入力となっています。

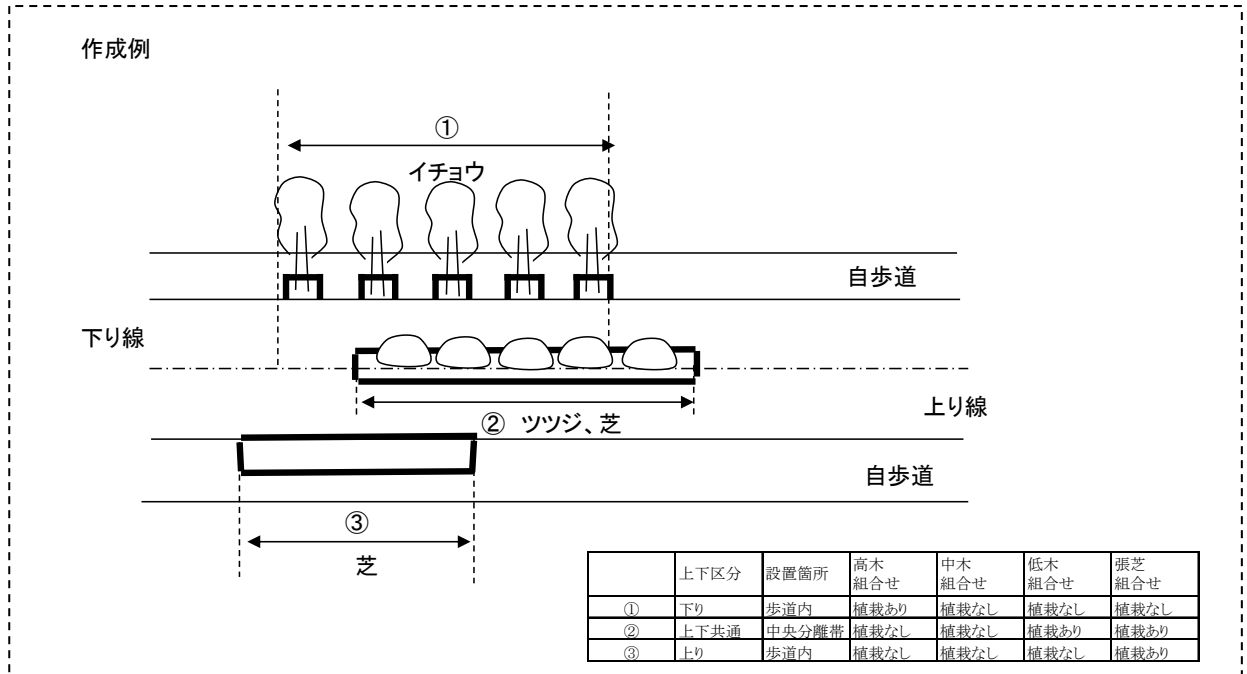
修正 → 完成図書等よりデータを入力します。

※管路形式(円形断面)の場合は幅・高さとも外形を記入して下さい。

2.13. E230 植栽

(1) 作成単位

植栽の作成単位を以下に示します。



a) 【データのミス事例】



【ミス事例】

- のり面の種子吹付が植栽としてデータを作成しています。

修正 → 作成対象外とします。

3. 道路施設基本データ作成要領（案）中国地整版（Ver3.04）の改定概要

道路施設基本データ作成要領（案）は、道路管理データベースの基となるデータとして、中国地方整備局管内において受注者が電子納品する「道路施設基本データ」の作成方法等を示したものです。

道路施設基本データの作成に関する運用方法の変更に伴い、従来の「道路施設基本データ作成要領（案）平成 20 年 11 月」・「道路施設基本データ作成の手引き（Ver 2）平成 20 年 11 月」を見直し、統合版として平成 24 年 3 月に Ver3.00 として改定しました。その後、要領（案）記述内容充実のための追加修正等を行い、平成 26 年 3 月に最新バージョンとして Ver3.04 を提供しました。平成 24 年 3 月からの改訂内容を以下に示します。

①平成 24 年 3 月 Ver 3.00 に改定

道路施設基本データの作成に関する運用方法の変更に伴い、従来の「道路施設基本データ作成要領（案）平成 20 年 11 月」「道路施設基本データ作成の手引き（Ver 2）平成 20 年 11 月」を見直し、統合版として改定しました。

【改定内容】

No	改定事項	改定内容
1	道路施設基本データ作成運用方法の変更	①道路施設基本データ審査機関の不在に関連してデータ作成手順を改定し、道路施設基本データ審査機関との協議部分を削除した。また、それに関連する帳票類を削除した。 ②道路施設基本データ作成の事前準備として、業務初回協議において、道路施設基本データ作成施設の確認実施を追加した。 ③道路施設基本データ作成結果について、完成検査前に、監督職員にデータ内容について審査を受け、承認結果であるチェックシートを受領し電子納品成果と共に提出することとした。
2	道路施設基本データ作成に関する留意事項の追加	①道路施設基本データの作成時及びデータチェック時の留意事項を「付録資料 1：道路施設基本データ作成に関する留意事項（案）」として、新たに取りまとめた。

②平成 24 年 8 月 Ver 3.01 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容
1	電子成果品の提出方法について	①電子成果品は、「工事完成図書」と「道路施設基本データ」を取りまとめた電子媒体を 2 部作成して監督職員へ提出することとした。
2	「道路施設基本データ審査時におけるチェックシート」のファイル名について	②「道路施設基本データ審査時におけるチェックシート」のファイル名を、“check_st.PDF “に変更した。

③平成 24 年 10 月 Ver 3.02 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容
1	道路施設基本データ関連資料等の取得について	①道路施設基本データ作成に必要な関連資料に「道路施設基本データ作成システム」及び「記入シート」を追加した。

④平成 25 年 3 月 Ver 3.03 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容
1	作成対象となる道路施設について	①「C050 舗装」は、作成対象外とする。 ②「E260 距離標」は、作成対象とする。
2	道路施設基本データ作成における施設対応番号について	①「道路工事完成図等作成要領（第2版）平成 20 年 12 月」に内容に準拠するよう修正した。
3	電子納品媒体の作成について	①電子納品媒体の作成について「工事完成図書の電子納品要領（平成 22 年 9 月）」に準拠するよう修正した。

⑤平成 26 年 3 月 Ver 3.04 に改定

【改定内容】

No	改定事項	改定内容	対象箇所
1	道路施設基本データ作成の有無について	①他機関への移管が確定している場合、または整備は行ったが管理は他機関が行う道路施設については、道路施設基本データの作成有無は監督職員に確認する。	P3
2	道路施設基本データを作成する施設の確認について	①道路施設基本データ作成対象施設抽出システムから出力される道路施設基本データ作成対象施設一覧表を利用して、該当施設について受発注者間で協議する。	P6、P7、P12、 付録資料 1 P2、 付録資料 1 P3
3	道路施設基本データ作成の審査時におけるチェックシートについて	①チェックシートは監督職員が道路部道路管理課のイントラネットから出力する。	P6、P51、 付録資料 1 P2
4	道路施設基本データ審査時におけるチェックシート	①空のチェックシート様式を添付した。	付録資料 2 P3, 4

道路施設基本データ作成要領（案）は、国土交通省 中国地方整備局 道路施設基本データ作成要領のダウンロードサイト (http://www.cgr.mlit.go.jp/douro_sisetu/plan_index.htm) から取得できます。道路施設基本データを作成する場合は、必ず上記サイトから道路施設基本データ作成要領（案）を取得して内容を確認願います。

以上